

ごみ組成調査報告書

令和6年3月

寒 川 町

目 次

第 1 章 調査概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査対象区域等	2
1.3 調査方法	3
第 2 章 ごみ質組成分析調査結果	6
2.1 調査 1 回目	6
2.2 調査 2 回目	32
2.3 調査全体（調査 1 回目・2 回目の平均）	56
2.4 調査別物理組成比較	80
2.5 資源物の混入状況	89
2.6 適正排出の状況	92
第 3 章 減量化・資源化の想定	94
3.1 排出抑制による減量化の想定	94
3.2 資源化量の想定	94
第 4 章 経年変化の状況	98
資料編	103
1. 寒川町のごみの出し方	104
2. 家庭系物理組成調査結果及び個別調査票（可燃ごみ）	111
3. 個別重量データ	117
4. 調査写真	123

※報告書に記載した数表は、小数点以下の端数により合計欄の値と内訳が一致しない場合があります。

第 1 章 調査概要

1.1 調査目的

寒川町は、令和 5 年度現在、可燃ごみ、可燃粗大ごみ、不燃ごみ、大型ごみ・特別大型ごみ、資源物としてプラスチック製容器包装、古紙、衣類布類、びん、かん、ペットボトル、廃食用油、金属類、蛍光灯・水銀式体温（血圧）計注）の計 13 分別で収集を実施している。

また、使用済小型家電のうち携帯電話や PHS などの特定対象品目については、町内の回収ボックスにて収集されている。

分別収集の取組みは、各家庭の協力により順調に推進されているものの、可燃ごみの中には、資源として分別されるべきものの混入が考えられることから、定期的に町内 4 収集地区のステーションにおける可燃ごみ中の資源の混入割合を確認し、期待できる資源化量を把握するとともに、更なる資源化の推進のための参考資料を得ることを目的とした調査を実施している。

また、平成 30 年度より従来の目的に加え、食品廃棄物の実態を把握することで、今後の食品ロスの削減に取り組むための基礎となる情報を収集することも目的としており、本年度もこれを継続するものである。

この背景には、平成 27 年 9 月に開催された国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において食料の損失、廃棄物の削減についての目標が設定されたことや平成 28 年 1 月に変更された「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」において、食品廃棄物に関する目標が設定されたこと、さらに、令和元年 5 月に国、地方公共団体、事業者、消費者が連携し、食品ロス削減を総合的に推進することを目的とする「食品ロスの削減の推進に関する法律（食品ロス削減推進法）」が制定され、令和 2 年 3 月には同法第 11 条の規定に基づく「食品ロスの削減に関する基本的な方針」が閣議決定され、食品ロスの推進の意義及び基本的な方向、その他食品ロスの削減の推進に関する重要事項が定められた。

また、プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応を契機として、国内におけるプラスチック資源循環を促進する重要性が高まっていることから、令和元年 5 月に「プラスチック循環型戦略」を策定。さらに令和 3 年 6 月には「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が公布され、令和 4 年 4 月より施行された。

神奈川県においては平成 30 年 3 月に「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロス調査マニュアル」を発行。令和 4 年 3 月に「神奈川県食品ロス削減推進計画」、令和 5 年 3 月に「神奈川県プラスチック資源循環推進等計画」を策定しており、食品ロス、プラスチック問題に対する重要性が高まっている。

なお、令和 2 年から続く新型コロナウイルスは感染の拡大と縮小を繰り返してはいるものの、コロナワクチンの接種率が向上し、行動制限や経済活動の制限も緩和されている。今後もウィズコロナによる「新しい生活様式」や、SDGs の浸透による人々の意識の変化が排出ごみに及ぼす影響についても注視していきたい。

1.2 調査対象区域等

1) 調査対象ごみ

調査対象ごみは、表 1.2-1 に示すとおりである。

表 1.2-1 調査対象ごみ

対象ごみ	区分		採取場所（荷降ろし場所）
家庭系ごみ	可燃ごみ	2検体 (計2回実施)	茅ヶ崎市環境事業センター
	不燃ごみ		一之宮中継所
事業系ごみ	可燃ごみ		茅ヶ崎市環境事業センター

(1) 調査対象区域及び調査期間

① 調査対象区域

調査対象区域は、図 1.2-1 に示すとおりである。

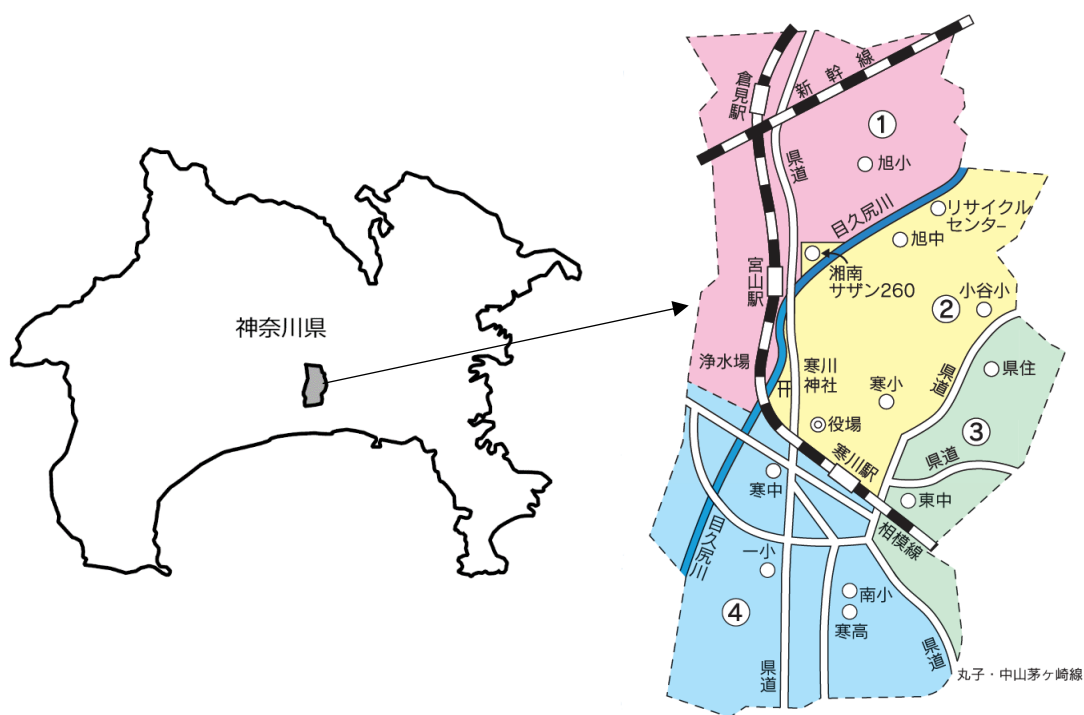


図 1.2-1 調査対象区域

(出典：寒川町ごみの分別収集日程表)

② 調査対象期間

1 回目：令和 5 年 6 月 21 日（水）、28 日（水）

2 回目：令和 5 年 9 月 20 日（水）、27 日（水）

1.3 調査方法

1) 試料採集

- ・①～④地区からそれぞれ 5 箇所、計 20 箇所の集積所から計 60 袋収集^{注)}、各袋の重量を測定し、偏りがないよう無作為に袋の山を 4 つ作る。

注) 60 袋以上のごみ袋が搬入された際は、その中から紙おむつ、剪定枝だけなど偏りがあると思われる袋を外し、サンプリング対象外として記録する。

- ・各山から平均に近い重さ^{注)}の袋を 4 袋抽出し、計 16 袋サンプリングする。

注) 平均に近い重さ＝平均± α （平均に対しての上下の差）

2) 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

また、組成分類フローを図 1.3-1 に、組成分類項目を表 1.3-1 に示す。

- ・排出状況調査

収集対象としていない排出物が確認された場合、不適正排出物として写真で記録

- ・物理的組成調査（59 項目）

湿ベース重量、湿ベース構成割合、見かけ容量、見かけ比重

- ・食品廃棄物

未開封の食品、未加工の食材等を「直接廃棄（未利用食品）」、開封済みの食品、加工済みの食材等を「食べ残し」、その他に「調理くず等（内数として過剰除去）」が確認された場合、写真で記録しそれぞれ計量する。

組成調査の項目は、「ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2017 改訂版」（社団法人 全国都市清掃会議）に記載の 50 項目を基本とし、これに小型家電、食ロス関連項目、紙おむつを加える。

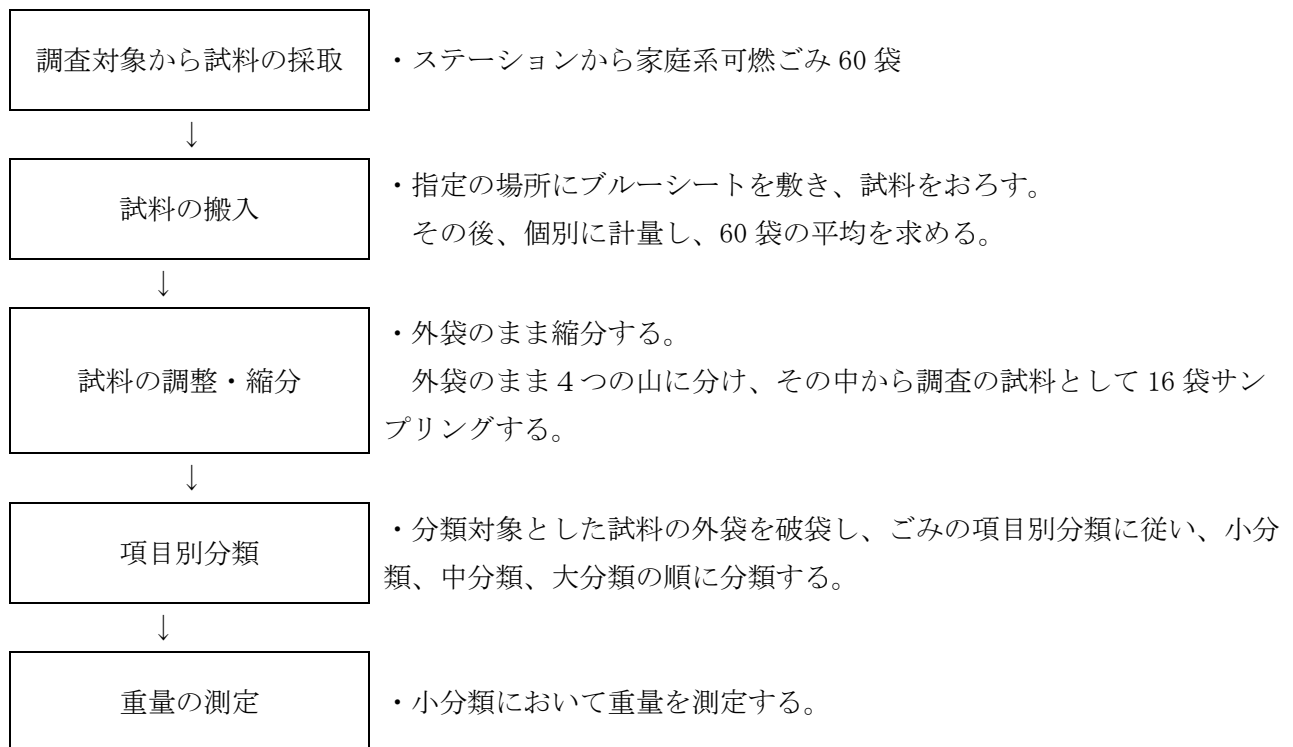


図 1.3-1 組成分類フロー

表 1.3-1 ごみの組成分類項目

番号	大分類	中分類	小分類（形状別）			
1	紙・布類	紙類	容器包装	飲料用紙 バック	アルミ無し	
2					アルミ付き	
3				ダンボール		
4				包装紙		
5				紙容器		
6				その他		
7			容器包装 以外	新聞・折込		
8				雑誌・パンフレット		
9				ざつ紙（再生利用可能紙類）		
10				その他（紙くず等）		
11		布類	ウエス利用可能なもの			
12			その他			
13	ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革	プラスチック類	容器包装	ペット ボトル	軟質	
14					硬質	
15				その他 ボトル	軟質	
16					硬質	
17			トレイ	発泡スチロール	白色	
18					褐色（有色）	
19				その他	着色	
20					無色	
21			袋	レジ袋		
22				その他		
23			バック類			
24			その他			
25			容器包装 以外	軟質		
26		硬質				
27		その他（危険物、電池内蔵品、プラ単一ではないもの等）				
28		ゴム・皮革				
29	木、竹、 わら類	剪定枝葉				
30		その他				
31	厨芥類	食品廃棄物	直接廃棄			
32			食べ残し			
33			調理くず等			
				過剰除去（上記内数）		
34	廃油類					
35	不燃物	陶磁器・石				
36		鉄類	容器包装	飲食料缶		
37				栓・キャップ		
38				スプレー缶		
39				その他		
40		容器包装以外				
41		アルミ	容器包装	飲食料缶		
42				栓・キャップ		
43				スプレー缶		
44				その他		
45		容器包装以外				
46		その他金属				
47		小型家電				
48		ガラス類	容器包装	ワンウェイビン等		
49				リターナブルビン		
50		容器包装以外				
51		有害ごみ	蛍光管			
52			乾電池			
53			水銀温度計			
54	その他					
55	その他不燃					
56	その他	医療ごみ	特別管理一般廃棄物			
57		その他				
58		その他可燃	紙おむつ			
59		その他				

第 2 章 ごみ質組成分析調査結果

2.1 調査 1 回目

1) 家庭系可燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた家庭系可燃ごみの物理組成概要は表 2.2-1 及び図 2.2-1 に示すとおりである。

食品廃棄物・廃油類（43.51%）が最も多く、次いで紙類（23.75%）、プラスチック類（11.30%）、その他可燃（9.59%）、布類（8.35%）、剪定枝・その他（3.07%）、ゴム・皮革（0.03%）、であった。

不燃物では、アルミ注）、鉄類、その他不燃が認められた。

注）アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

表 2.1-1 家庭系可燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	23.75
布類	8.35
プラスチック類	11.30
ゴム・皮革	0.03
剪定枝・その他	3.07
食品廃棄物・廃油類	43.51
陶磁器・石	
鉄類	0.14
アルミ	0.17
その他金属	
小型家電	
ガラス類	
有害ごみ	
その他不燃	0.09
医療ごみ	
その他可燃	9.59
合計	100.00

※湿ベース重量

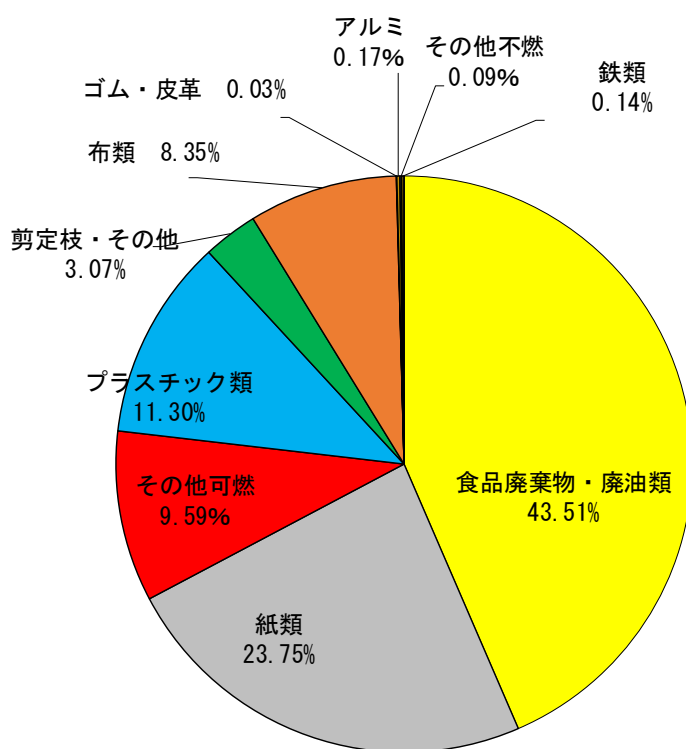


図 2.1-1 家庭系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.1-2①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 6.12%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 5.15%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 11.27%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.1-2②及び図 2.1-2 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 25.77%であり、また、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 21.69%であった。

以上のことから紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 47.46%であった。

表 2.1-2① 紙類の組成

区分			割合 (%)
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	1.09
		アルミ付き	0.21
	ダンボール		1.04
	包装紙		0.12
	紙容器		2.54
	その他		1.33
			6.33
容器包装以外	新聞・折込		0.73
	雑誌・パンフレット		0.29
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		4.13
	その他（紙くず等）		12.27
			17.42
（資源化可能な紙類）			11.27
合計			23.75

表 2.1-2② 紙類の組成（紙類全体）

区分			割合 (%)
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	4.59
		アルミ付き	0.88
	ダンボール		4.38
	包装紙		0.51
	紙容器		10.69
	その他		5.60
			26.65
容器包装 以外	新聞・折込		3.07
	雑誌・パンフレット		1.22
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		17.40
	その他（紙くず等）		51.66
			73.35
（資源化可能な紙類）			47.46
合計			100.00

：資源化可能部分

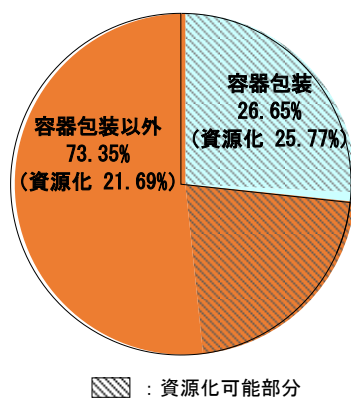


図 2.1-2 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.1-3 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」が 40.11%で紙製容器包装の大部分を占めており、次いで、牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が 20.53%、その他が 21.01%、ダンボールが 16.44%、包装紙が 1.91%であった。

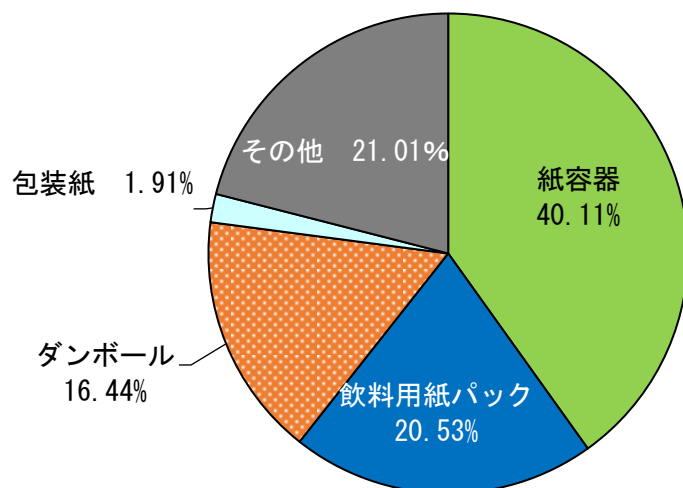


図 2.1-3 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2. 1-3①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 7. 77%であった。

なお、現在、汚れているペットボトルは可燃、プラスチック製容器包装以外のプラスチック類は軟質を可燃ごみ、硬質を不燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2. 1-3②及び図 2. 1-4 に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 68. 77%であった。

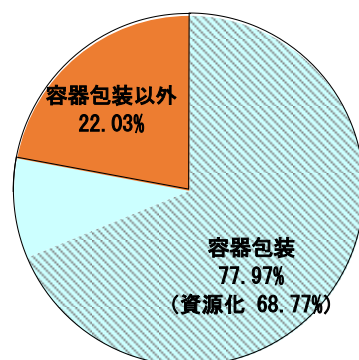
表 2. 1-3① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質	0.59	
	その他 ボトル	軟質	0.15	
		硬質		
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	0.04
			褐色（有色）	0.02
		その他	着色	0.19
			無色	0.48
	袋	レジ袋	1.09	
		その他	4.62	
	バック類		0.59	
その他		1.04		
		8.81		
容器包装以外	軟質		1.92	
	硬質		0.27	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0.30	
			2.49	
	（資源化可能なプラスチック類）		7.77	
合計			11.30	

：資源化可能部分

表 2. 1-3② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分				割合 (%)	
容器包装	ペット ボトル	軟質			
		硬質		5. 22	
	その他 ボトル	軟質		1. 33	
		硬質			
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	0. 35	
			褐色（有色）	0. 18	
		その他	着色	1. 68	
			無色	4. 25	
	袋	レジ袋		9. 65	
		その他		40. 89	
	パック類				5. 22
	その他				9. 20
				77. 97	
容器包装以外	軟質			16. 99	
	硬質			2. 39	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			2. 65	
				22. 03	
（資源化可能なプラスチック類）				68. 77	
合計				100. 00	



：資源化可能部分

図 2. 1-4 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.1-5 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 64.82%と最も多く、次いで容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 11.80%、トレイが 8.29%、パック類が 6.69%、ペットボトルが 6.69%、その他ボトルが 1.71%であった。

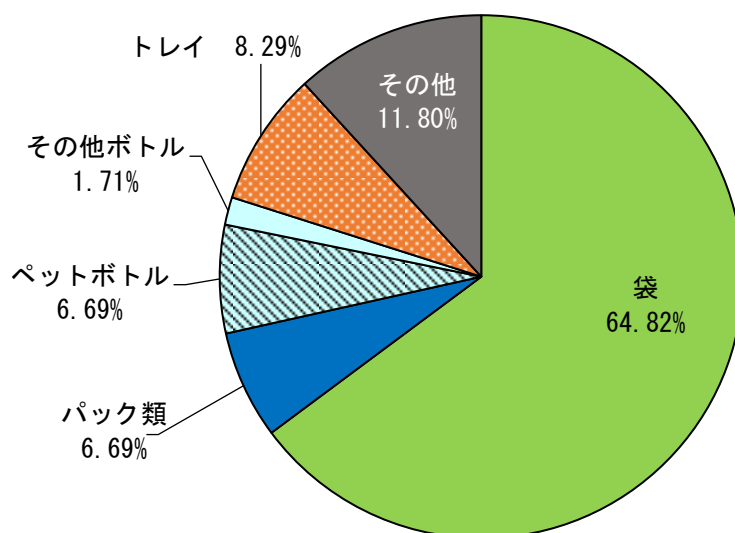


図 2.1-5 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.1-4①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 0.09%であった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.1-4②及び図 2.1-6 に示す通りである。

鉄類全体に占める資源として回収可能な鉄類の混入割合は 64.29%であった。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.1-4① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	0.09
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.09
容器包装以外		0.05
(資源化可能な鉄類)		0.09
合計		0.14

表 2.1-4② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	64.29
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		64.29
容器包装以外		35.71
(資源化可能な鉄類)		64.29
合計		100.00

 : 資源化可能部分

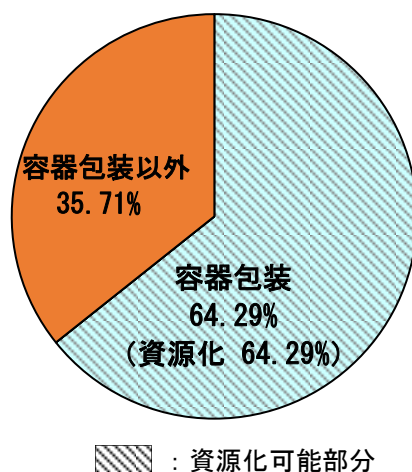


図 2.1-6 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は 表 2.1-5①に示すとおりである。

資源として回収できない容器包装以外の混入割合は0.17%であり、排出物としてアルミホイ^{注)}ルの排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は 表 2.1-5②及び図 2.1-7 に示すとおりである。

注) アルミホイールは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは「不燃ごみ」として排出する。

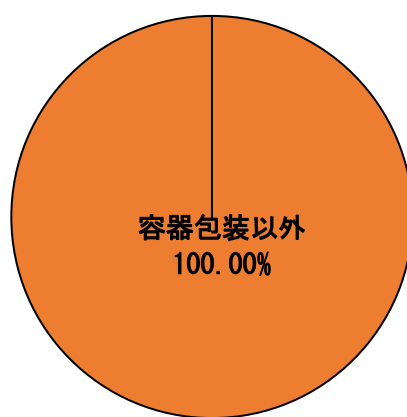
表 2.1-5① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		0.17
(資源化可能なアルミ)		
合計		0.17

表 2.1-5② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
容器包装以外		100.00
(資源化可能なアルミ)		
合計		100.00

 : 資源化可能部分



 : 資源化可能部分

図 2.1-7 アルミの組成 (アルミ全体)

⑤ 食品廃棄物

ア. 食品廃棄物の排出状況

食品廃棄物は、図 2.1-8 に示すとおり、直接廃棄、食べ残し、調理くず等（過剰除去含む）に大別される。

食品廃棄物の排出状況は表 2.1-6①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 43.51%であった。

また、食品廃棄物中では食べ残しが 33.03%で最も排出割合が多く、次いで直接廃棄が 8.48%で過剰除去を含む調理くず等が 2.00%あった。

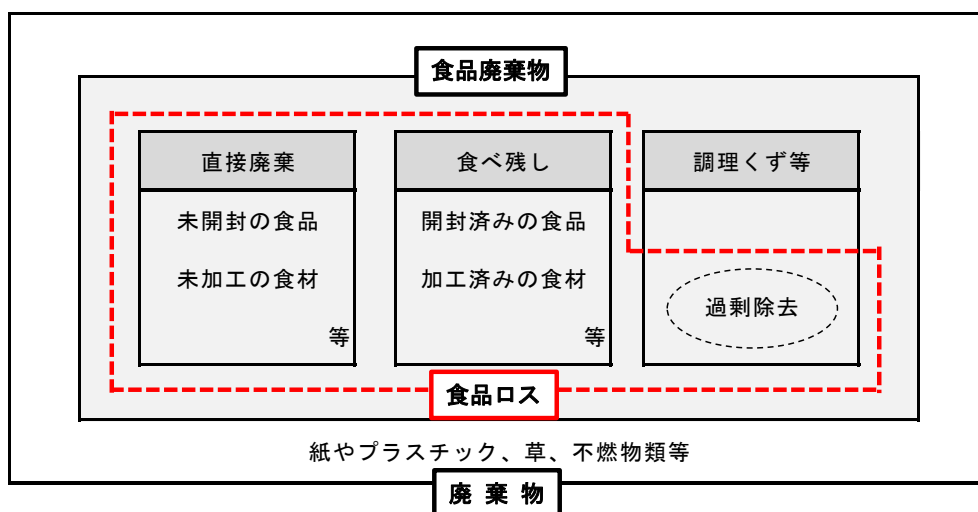


図 2.1-8 食品廃棄物の分類

注 1) 食品廃棄物：食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律で定める、食品が食用に供された後、又は食用に供されずに廃棄されたものや食品の製造、加工又は調理の過程において副次的に得られた物品のうち食用に供することができないもので有価以外のものをさす。

注 2) 直接廃棄：消費期限・賞味期限切れ等により食卓にあがらずに廃棄されたものをさす。
(未利用食品)

注 3) 食べ残し：食べきれずに廃棄されたものをさす。(例：開封状態のお菓子や加工された野菜など)

注 4) 過剰除去：調理過程等により、本来食べられる部分まで過剰に取り除いてしまったものをさす。

(出典：「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル」 神奈川県)

表 2.1-6① 食品廃棄物の排出割合

区分	排出量 (kg)	割合 (%)
家庭系可燃ごみ	41.31	
食品廃棄物	17.98	43.51
直接廃棄	3.51	8.48
食べ残し	13.65	33.03
調理くず等	0.83	2.00
過剰除去	0.15	0.36
(可食部分)	17.30	41.87

：可食部分

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2.1-6②及び図 2.1-9 に示すとおりである。

食べ残しが 75.91%、直接廃棄が 19.50%、調理くず等（内過剰除去：1.10%）4.59%であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 96.51%（食べ残し：75.91%、直接廃棄：19.50%、過剰除去：1.10%）を占めていた。

表 2.1-6② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
食品廃棄物		17.98	
	直接廃棄	3.51	19.50
	食べ残し	13.65	75.91
	調理くず等	0.83	4.59
	過剰除去	0.15	1.10
(可食部分)		17.30	96.51

：可食部分

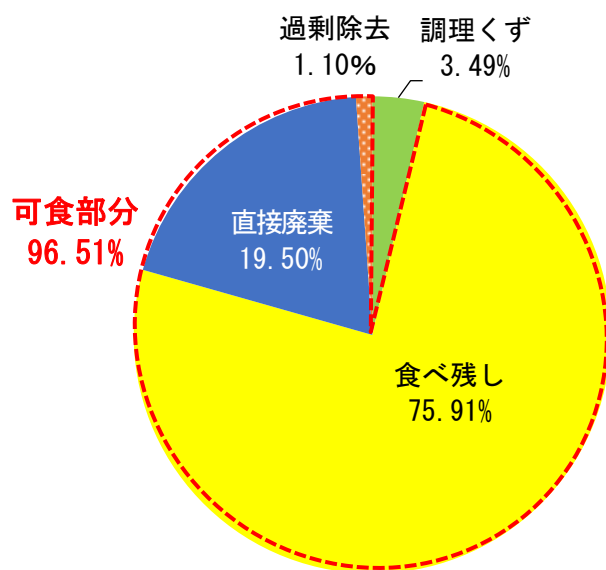


図 2.1-9 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

イ. 過剰除去

調理くず等に含まれる過剰除去については過剰除去自体の基準が曖昧であり、調査主体により数値が大きく変動する可能性がある。

参考値として環境省が公表している「食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」で公表している割合に基づき算定した過剰除去の割合は 2.00%であった。

推計式)

家庭系ごみに占める過剰除去の割合 (%)

＝環境省公表割合×家庭系ごみに占める食品廃棄物の割合/100

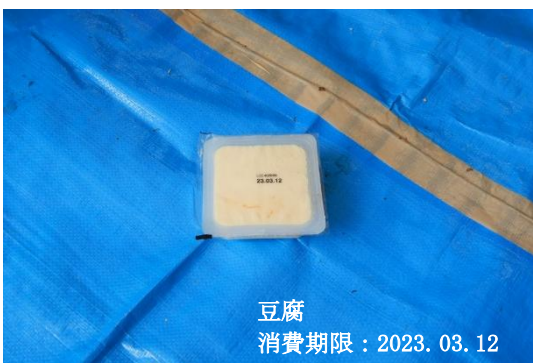
＝4.6×43.51/100

≒2.00

(出典：「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル」 神奈川県)

ウ. 直接廃棄

日付の確認できる食品の多くは消費期限、賞味期限外であったが、中には賞味期限内にも関わらず廃棄されていた食品の排出も認められた。なお、野菜や果物の消費期限は「記載なし」と表記している。





2) 家庭系不燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた家庭系不燃ごみの物理組成概要は表 2.1-7 及び

図 2.1-10 に示すとおりである。

プラスチック類 (47.97%) が最も多く、次いで陶磁器・石類 (9.98%)、ゴム・皮革 (9.87%)、ガラス類 (8.97%)、鉄類 (8.78%)、アルミ (4.23%)、であった。

可燃物では、剪定枝・その他、布類、紙類が認められた。

表 2.1-7 家庭系不燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	0.13
布類	2.44
プラスチック類	47.97
ゴム・皮革	9.87
剪定枝・その他	2.43
食品廃棄物・廃油類	
陶磁器・石	9.98
鉄類	8.78
アルミ	4.23
その他金属	
小型家電	1.61
ガラス類	8.97
有害ごみ	3.59
その他不燃	
医療ごみ	
その他可燃	
合計	100.00

※湿ベース重量

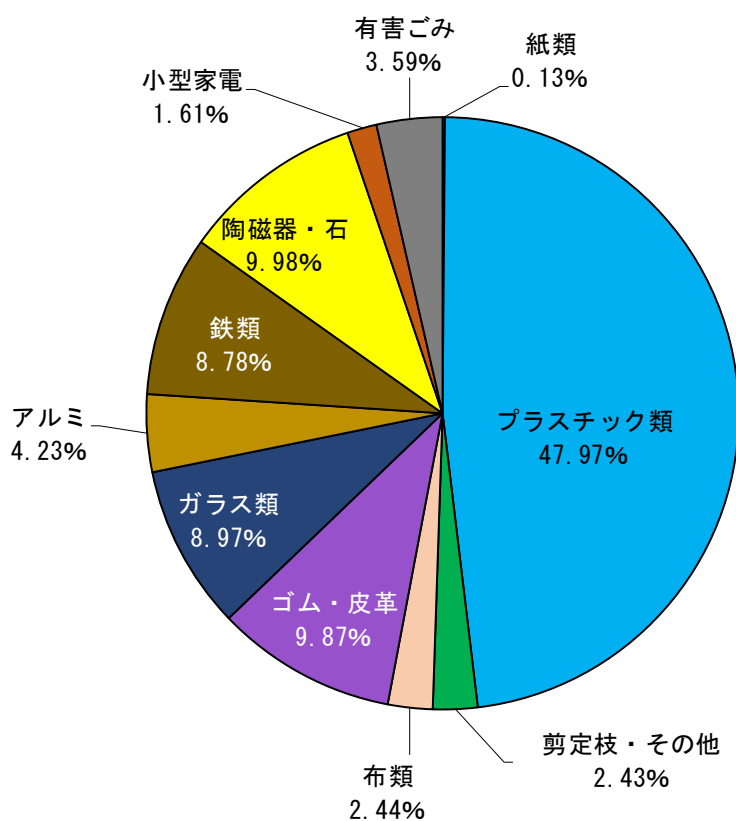


図 2.1-10 家庭系不燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.1-8①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 0.12%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.1-8②及び図 2.1-11 に示す。

紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 92.31%であった。

表 2.1-8① 紙類の組成

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		0.05
	その他		0.07
			0.12
容器包装以外	新聞・折込		
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		0.01
			0.01
（資源化可能な紙類）			0.12
合計			0.13

表 2.1-8② 紙類の組成（紙類全体）

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		38.46
	その他		53.85
			92.31
容器包装 以外	新聞・折込		
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		7.69
			7.69
（資源化可能な紙類）			92.31
合計			100.00

：資源化可能部分

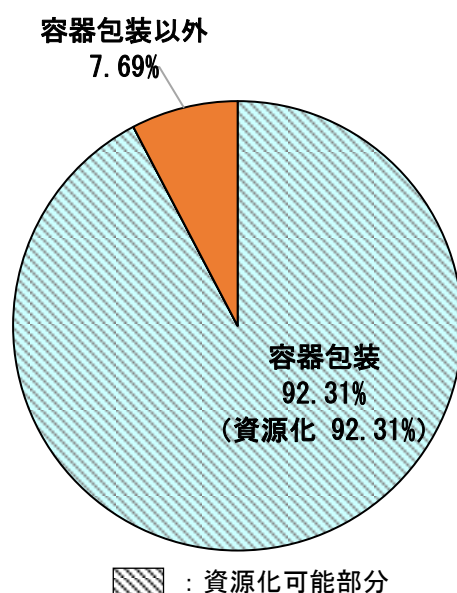


図 2.1-11 紙類の組成（紙類全体）

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2.1-9①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 2.81%であった。

なお、現在、容器包装以外のプラスチック類は軟質を可燃ごみ、硬質を不燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2.1-9②及び図 2.1-12に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 5.86%であった。

表 2.1-9① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	2.20	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋	0.51	
		その他	0.03	
バック類		0.07		
その他		1.92		
		4.73		
容器包装以外	軟質	0.64		
	硬質	42.29		
	その他（危険物、電池内蔵品、ブ ラ単一ではないもの等）	0.31		
			43.24	
	（資源化可能なプラスチック類）		2.81	
合計			47.97	

表 2.1-9② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分				割合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		4.59
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋		1.06
		その他		0.06
	バック類			0.15
その他			4.00	
			9.86	
容器包装以外	軟質		1.33	
	硬質		88.16	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0.65	
			90.14	
	（資源化可能なプラスチック類）		5.86	
合計				100.00

：資源化可能部分

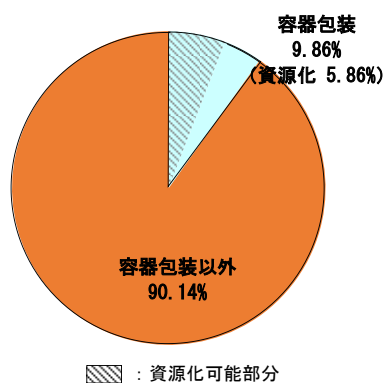


図 2.1-12 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.1-13 に示すとおりである。

その他ボトルが 46.55%と最も多く、次いで容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 40.57%、レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 11.36%、パック類が 1.52%であった。

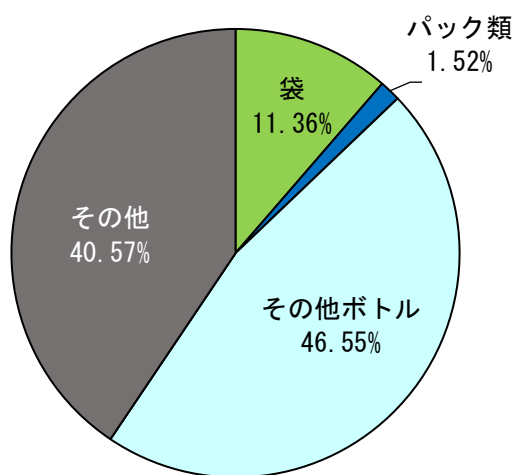


図 2.1-13 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.1-10①に示すとおりである。

資源として回収可能な鉄類は認められなかった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.1-10②及び図 2.1-14 に示す通りである。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.1-10① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	0.19
	スプレー缶	
	その他	
		0.19
容器包装以外		8.59
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		8.78

表 2.1-10② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	2.16
	スプレー缶	
	その他	
		2.16
容器包装以外		97.84
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		100.00

 : 資源化可能部分

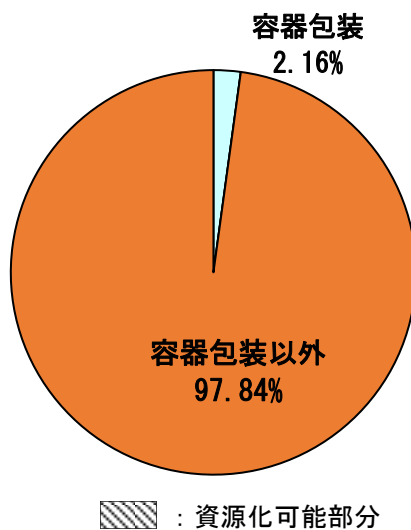


図 2.1-14 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2.1-11①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 2.31%であった。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2.1-11②及び図 2.1-15 に示すとおりである。

注) アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは「不燃ごみ」として排出する。

表 2.1-11① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	1.41
	スプレー缶	2.05
	その他	0.26
		3.72
容器包装以外		0.51
(資源化可能なアルミ)		2.31
合計		4.23

表 2.1-11② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	33.33
	スプレー缶	48.46
	その他	6.15
		87.94
容器包装以外		12.06
(資源化可能なアルミ)		54.61
合計		100.00

 : 資源化可能部分

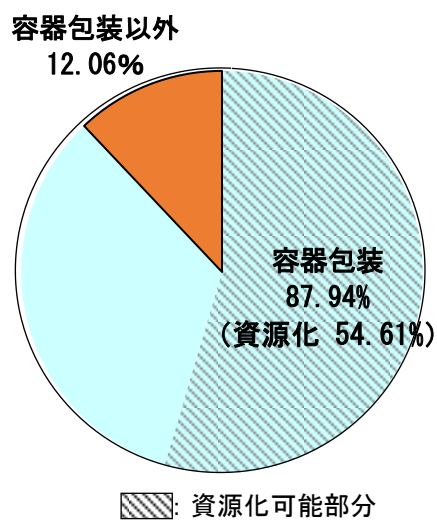


図 2.1-15 アルミの組成 (アルミ全体)

3) 事業系可燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた事業系可燃ごみの物理組成概要は表 2.1-12 及び図 2.1-16 に示すとおりである。

紙類（70.14%）が最も多く、次いでプラスチック類（21.28%）、その他可燃（3.37%）、食品廃棄物・廃油類（1.45%）、剪定枝・その他（1.39%）、布類（1.36%）、ゴム・皮革（0.04%）であった。

不燃物では、アルミ、ガラス類、その他不燃が認められた。

表 2.1-12 事業系可燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	70.14
布類	1.36
プラスチック類	21.28
ゴム・皮革	0.04
剪定枝・その他	1.39
食品廃棄物・廃油類	1.45
陶磁器・石	
鉄類	
アルミ	0.03
その他金属	
小型家電	
ガラス類	0.01
有害ごみ	
その他不燃	0.90
医療ごみ	0.03
その他可燃	3.37
合計	100.00

※湿ベース重量

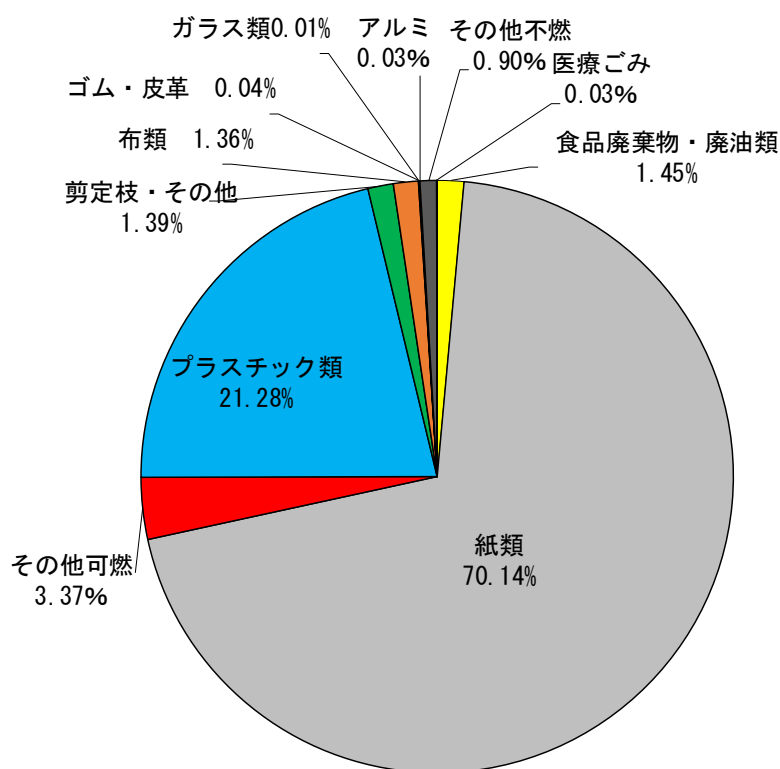


図 2.1-16 事業系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.1-13①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 15.71%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 8.52%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 24.23%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.1-13②及び図 2.1-17 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 22.40%であり、また、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 12.15%であった。

以上のことから紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入率は 34.55%であった。

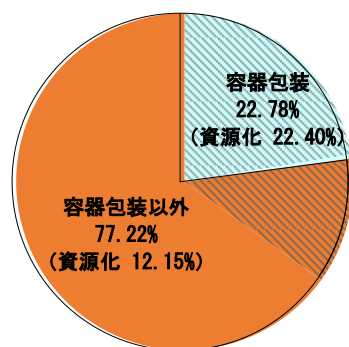
表 2.1-13① 紙類の組成

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	0.45
		アルミ付き	0.27
	ダンボール		4.71
	包装紙		0.12
	紙容器		10.32
	その他		0.11
			15.98
容器包装 以外	新聞・折込		2.81
	雑誌・パンフレット		0.55
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		5.16
	その他（紙くず等）		45.64
			54.16
（資源化可能な紙類）			24.23
合計			70.14

表 2.1-13② 紙類の組成（紙類全体）

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	0.64
		アルミ付き	0.38
	ダンボール		6.72
	包装紙		0.17
	紙容器		14.71
	その他		0.16
			22.78
容器包装 以外	新聞・折込		4.01
	雑誌・パンフレット		0.78
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		7.36
	その他（紙くず等）		65.07
		77.22	
（資源化可能な紙類）			34.55
合 計			100.00

：資源化可能部分



：資源化可能部分

図 2.1-17 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.1-18 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」が 64.57%で紙製容器包装の大部分を占めており、次いで、ダンボールが 29.50%、牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が 4.48%、包装紙が 0.75%、その他が 0.70%であった。

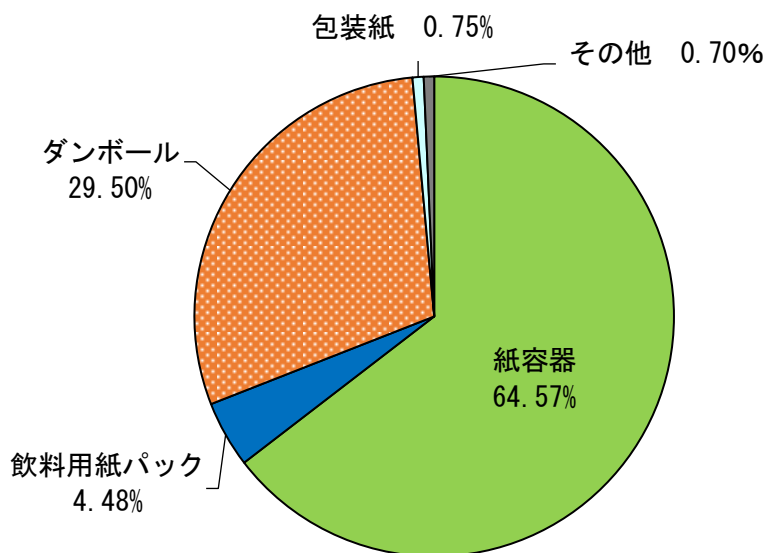


図 2.1-18 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2. 1-14①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 4. 84%であった。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2. 1-14②及び図 2. 1-19に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 22. 75%であった。

表 2. 1-14① プラスチック類の組成

区分				割合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		0.06
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		0.17
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	0.01
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋		0.11
		その他		3.03
	バック類			1.46
その他			1.41	
			6.25	
容器包装以外	軟質		14.93	
	硬質		0.10	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			15.03	
	（資源化可能なプラスチック類）		4.84	
合計			21.28	

：資源化可能部分

表 2. 1-14② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分				割合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		0. 28
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		0. 80
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	0. 05
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋		0. 52
		その他		14. 24
	バック類			6. 86
その他			6. 63	
			29. 38	
容器包装以外	軟質		70. 15	
	硬質		0. 47	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			70. 62	
	（資源化可能なプラスチック類）		22. 75	
合計				100. 00

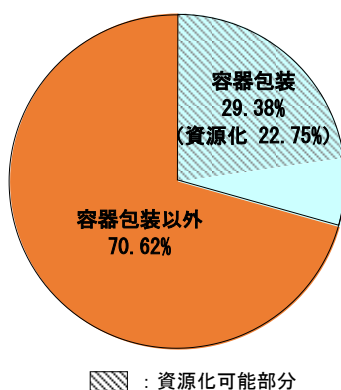


図 2. 1-19 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.1-20 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 50.24%と最も多く、次いでパック類が 23.35%、容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 22.57%、その他ボトルが 2.72%、ペットボトルが 0.95%、トレイが 0.17%であった。

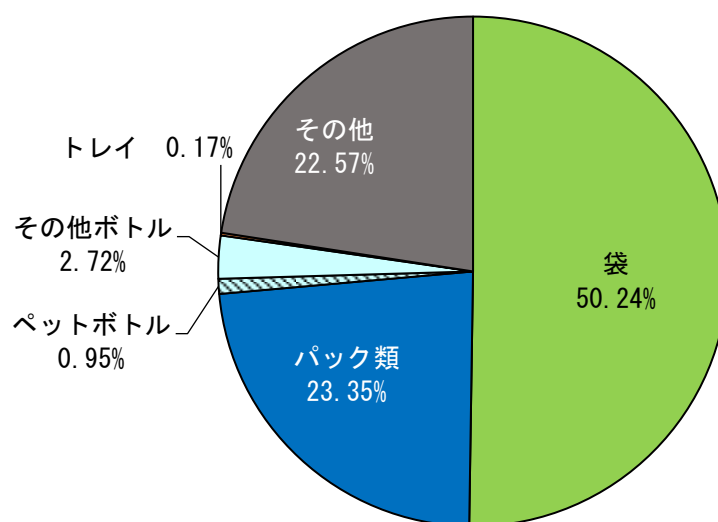


図 2.1-20 プラスチック製容器包装の組成

③ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2. 1-15①に示すとおりである。

資源として回収できない容器包装以外の混入割合は 0. 03%であり、排出物としてアルミホイルの排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2. 1-15②及び図 2. 1-21 に示すとおりである。

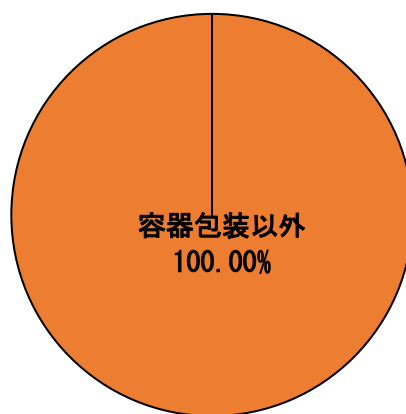
表 2. 1-15① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0. 00
容器包装以外		0. 03
(資源化可能なアルミ)		
合計		0. 03

表 2. 1-15② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
容器包装以外		100. 00
(資源化可能なアルミ)		
合計		100. 00

 : 資源化可能部分



 : 資源化可能部分

図 2. 1-21 アルミの組成 (アルミ全体)

④ 食品廃棄物

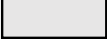
ア. 品廃棄物の排出状況

食品廃棄物の排出状況は表 2. 3-16①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 1. 45％であった。

また、食品廃棄物中では食べ残しが 0. 90％で最も排出割合が多く、次いで直接廃棄が 0. 47％で過剰除去を含む調理くず等が 0. 08％あった。

表 2. 1-16① 食品廃棄物の排出割合

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
事業系可燃ごみ		44. 56	
食品廃棄物		0. 65	1. 45
	直接廃棄	0. 21	0. 47
	食べ残し	0. 40	0. 90
	調理くず等	0. 04	0. 08
	過剰除去		
(可食部分)		0. 61	1. 37

 : 可食部分

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2. 1-16②及び図 2. 1-22 に示すとおりである。

食べ残しが 62. 01％、直接廃棄が 32. 56％、調理くず等（内過剰除去：0. 00％） 5. 43％であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 94. 57％（食べ残し：62. 01％、直接廃棄：32. 56％、過剰除去：0. 00％）を占めていた。

表 2.1-16② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
食品廃棄物		0.65	
	直接廃棄	0.21	32.56
	食べ残し	0.40	62.01
	調理くず等	0.04	5.43
	過剰除去		
(可食部分)		0.61	94.57

□ : 可食部分

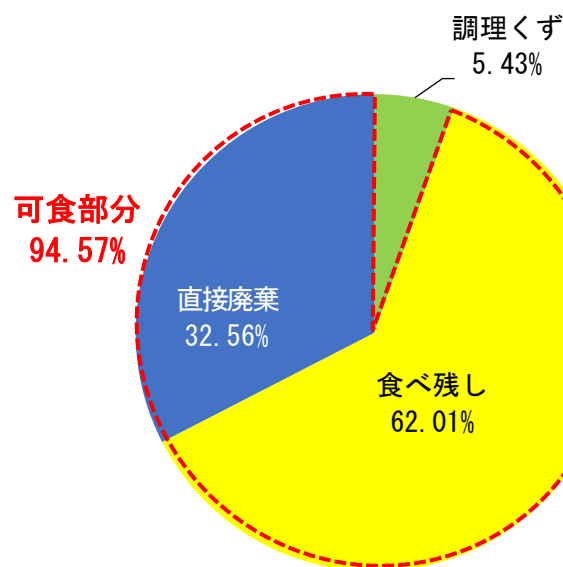


図 2.1-22 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

イ. 直接廃棄

日付の確認できる食品の多くは消費期限、賞味期限外であったが、中には賞味期限内にも関わらず廃棄されていた食品の排出も認められた。



2.2 調査2回目

1) 家庭系可燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた家庭系可燃ごみの物理組成概要は表 2.2-1 及び図 2.2-1 に示すとおりである。

食品廃棄物・廃油類（40.44%）が最も多く、次いで紙類（25.80%）、プラスチック類（19.25%）、その他可燃（7.31%）、ゴム・皮革（1.72%）、布類（1.18%）、剪定枝・その他（1.15%）、であった。

不燃物では、アルミ注）、ガラス類、その他不燃が認められた。

注）アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

表 2.2-1 家庭系可燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	25.80
布類	1.18
プラスチック類	19.25
ゴム・皮革	1.72
剪定枝・その他	1.15
食品廃棄物・廃油類	40.44
陶磁器・石	
鉄類	
アルミ	0.32
その他金属	
小型家電	0.50
ガラス類	2.21
有害ごみ	
その他不燃	0.12
医療ごみ	
その他可燃	7.31
合計	100.00

※湿ベース重量

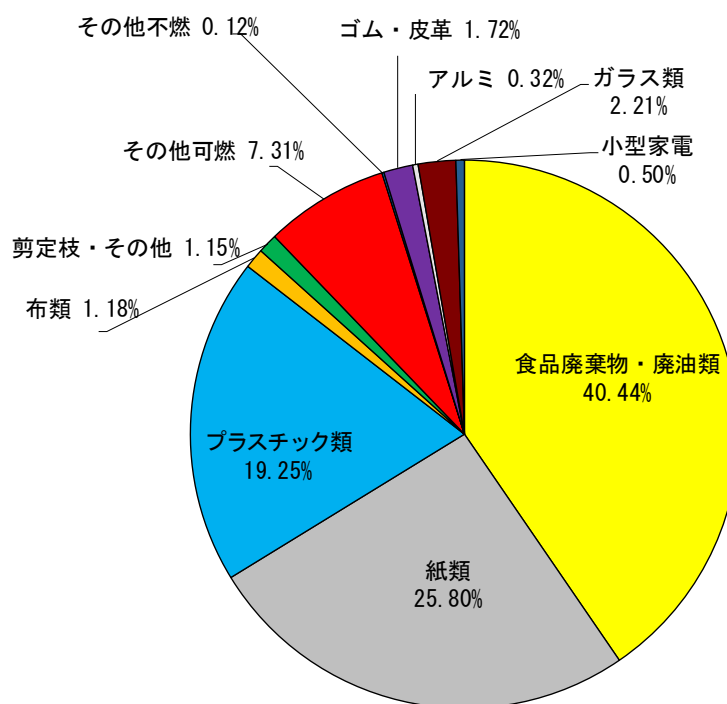


図 2.2-1 家庭系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.2-2①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 6.30%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 2.01%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 8.31%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.2-2②及び図 2.2-2 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 24.42%であり、また、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 7.79%であった。

以上のことから紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 32.21%であった。

表 2.2-2① 紙類の組成

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	0.98
		アルミ付き	0.77
	ダンボール		0.86
	包装紙		0.01
	紙容器		4.02
	その他		0.43
			7.07
容器包装 以外	新聞・折込		0.05
	雑誌・パンフレット		0.72
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		1.24
	その他（紙くず等）		16.72
			18.73
（資源化可能な紙類）			8.31
合 計			25.80

：資源化可能部分

表 2.2-2② 紙類の組成（紙類全体）

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	3.80
		アルミ付き	2.98
	ダンボール		3.33
	包装紙		0.04
	紙容器		15.58
	その他		1.67
			27.40
容器包装以外	新聞・折込		0.19
	雑誌・パンフレット		2.79
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		4.81
	その他（紙くず等）		64.81
			72.60
（資源化可能な紙類）			32.21
合計			100.00

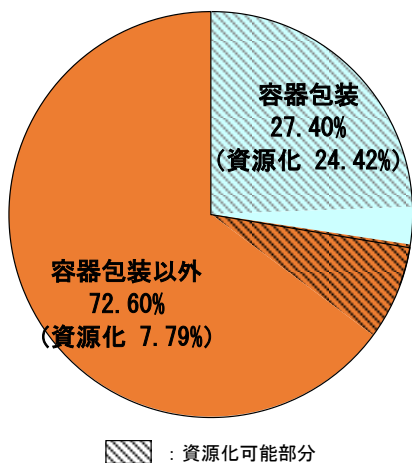


図 2.2-2 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.2-3 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」が 56.87%で紙製容器包装の大部分を占めており、次いで、牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が 24.74%、ダンボールが 12.15%、その他が 6.09%、包装紙が 0.15%であった。

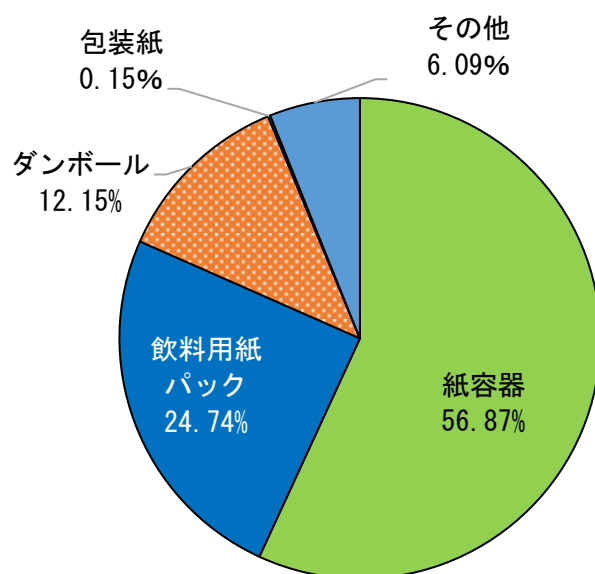


図 2.2-3 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2. 2-3①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 8. 53%であった。

なお、現在、汚れているペットボトルは可燃、容器包装以外のプラスチック類は軟質を可燃ごみ、硬質を不燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2. 2-3②及び図 2. 2-4 に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 44. 33%であった。

表 2. 2-3① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		0.57
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		1.24
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	0.34
		その他	着色	0.75
			無色	0.95
	袋	レジ袋		0.80
		その他		2.96
	バック類			0.92
その他			1.44	
			9.97	
容器包装以外	軟質		5.60	
	硬質		3.68	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			9.28	
（資源化可能なプラスチック類）			8.53	
合計			19.25	

 : 資源化可能部分

表 2. 2-3② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質	2. 96	
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	6. 44	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	1. 77
		その他	着色	3. 90
			無色	4. 94
	袋	レジ袋	4. 16	
		その他	15. 38	
	パック類		4. 78	
	その他		7. 48	
		51. 81		
容器包装以外	軟質		29. 08	
	硬質		19. 11	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			48. 19	
（資源化可能なプラスチック類）			44. 33	
合計			100. 00	

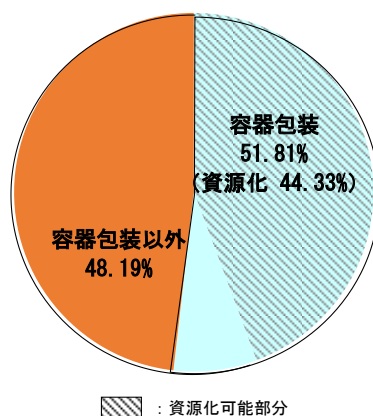


図 2. 2-4 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.2-5 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 37.71%と最も多く、次いでトレイが 20.48%、容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 14.44%、その他ボトルが 12.43%、パック類が 9.23%、ペットボトルが 5.71%であった。

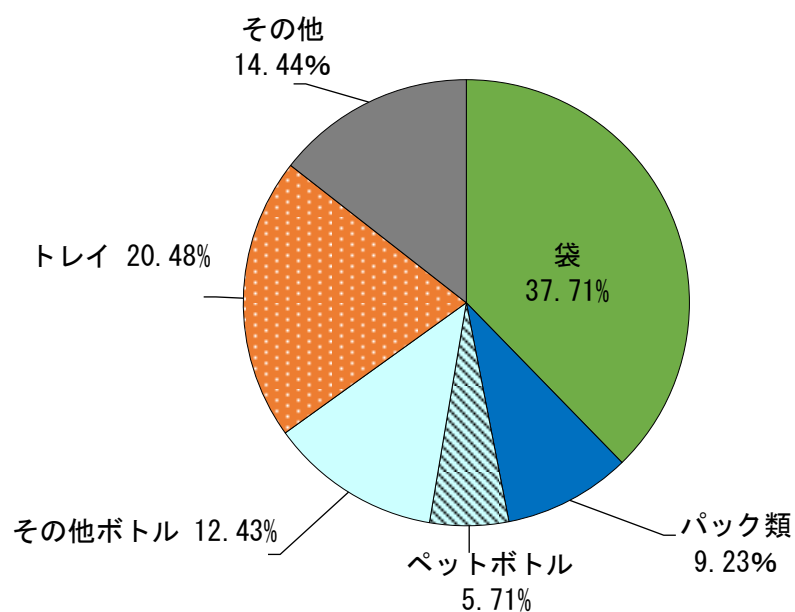


図 2.2-5 プラスチック製容器包装の組成

③ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2. 2-4①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 0. 17%、資源として排出できない容器包装以外の混入割合は 0. 15%であり、排出物としてアルミホイル^{注)}の排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2. 2-4②及び図 2. 2-6 に示すとおりである。

注) アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは「不燃ごみ」として排出する。

表 2. 2-4① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ	
	スプレー缶	
	その他	0. 17
		0. 17
容器包装以外		0. 15
(資源化可能なアルミ)		
合計		0. 32

表 2. 2-4② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ	
	スプレー缶	
	その他	53. 64
		53. 64
容器包装以外		46. 36
(資源化可能なアルミ)		
合計		100. 00

：資源化可能部分

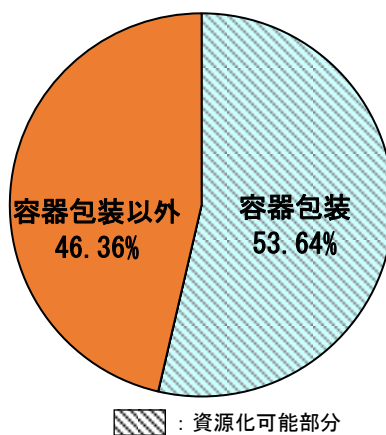


図 2. 2-6 アルミの組成 (アルミ全体)

④ 食品廃棄物

ア. 食品廃棄物の排出状況

食品廃棄物の排出状況は表 2.2-5①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 40.44%であった。

また、食品廃棄物中では調理くず等（過剰除去含む）が 24.68%で最も排出割合が多く、次いで食べ残しが 11.35%で、直接廃棄が 4.41 %であった。

表 2.2-5① 食品廃棄物の排出割合

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
家庭系可燃ごみ		34.81	
食品廃棄物		14.08	40.44
	直接廃棄	1.54	4.41
	食べ残し	3.95	11.35
	調理くず等	8.59	24.68
	過剰除去	0.18	0.52
(可食部分)		5.67	16.28

 : 可食部分

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2.2-5②及び図 2.2-7 に示すとおりである。

調理くず等（内過剰除去:1.28%）が 61.03%、食べ残しが 28.06%、直接廃棄が 10.91%、であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 40.25%（食べ残し：28.06%、直接廃棄：10.91%、過剰除去：1.28%）を占めていた。

表 2.2-5② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量（kg）	割合（％）
食品廃棄物		14.08	
	直接廃棄	1.54	10.91
	食べ残し	3.95	28.06
	調理くず等	8.59	61.03
	過剰除去	0.18	1.28
（可食部分）		5.67	40.25

：可食部分

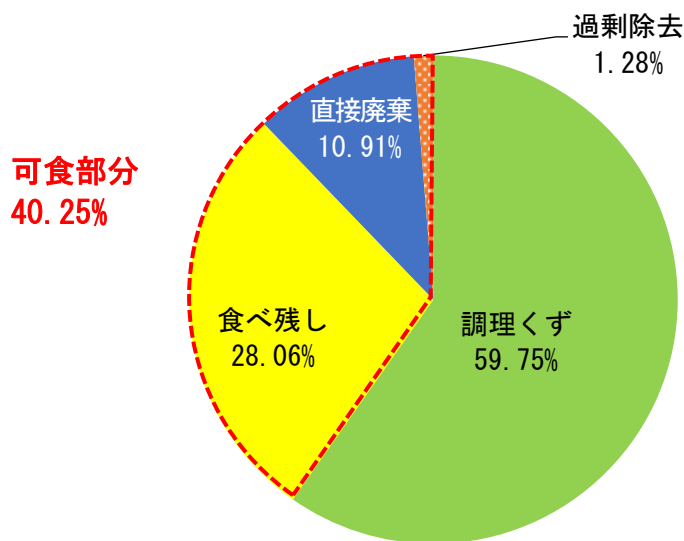


図 2.2-7 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

イ. 過剰除去

調理くず等に含まれる過剰除去については過剰除去自体の基準が曖昧であり、調査主体により数値が大きく変動する可能性がある。

参考値として環境省が公表している「食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」で公表している割合に基づき算定した過剰除去の割合は 1.86%であった。

推計式)

家庭系ごみに占める過剰除去の割合（％）

＝環境省公表割合×家庭系ごみに占める食品廃棄物の割合/100

＝4.6×40.44/100

≒1.86

（出典：「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル」 神奈川県）

ウ. 直接廃棄

日付の確認できる食品の多くは消費期限、賞味期限外であった。



品目	賞味期限
惣菜（唐揚げ） 80 g	記載なし
惣菜（コロッケ） 285 g	
中華まんじゅう 204 g	
クッキー 55 g	
からし 2 g	
オクラ 60 g	
ピーマン 85 g	
きゅうり 113 g	
キウイ 119 g	
さつまいも 74 g	
グミ（菓子） 12 g	
あめ 18 g	23.04.--
コーヒー粉 48 g	23.04.--
コーヒー粉 77 g	23.03.--
菓子 141 g	23.05.--
マーボーの素 75 g	23.03.--
（箱入り）	
マーボーの素 83 g	
（パックのみ）	
しょうが 5 g	23.12.22

2) 家庭系不燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた家庭系不燃ごみの物理組成概要は表 2.2-6 及び図 2.2-8 に示すとおりである。

プラスチック類 (60.70%) が最も多く、次いでゴム・皮革 (11.35%)、ガラス類 (8.54%)、陶磁器・石類 (7.51%)、アルミ (3.25%)、鉄類 (1.32%) であった。

可燃物では、剪定枝・その他、紙類が認められた。

表 2.2-6 家庭系不燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	1.42
布類	
プラスチック類	60.70
ゴム・皮革	11.35
剪定枝・その他	2.25
食品廃棄物・廃油類	
陶磁器・石	7.51
鉄類	1.32
アルミ	3.25
その他金属	
小型家電	1.97
ガラス類	8.54
有害ごみ	1.69
その他不燃	
医療ごみ	
その他可燃	
合計	100.00

※湿ベース重量

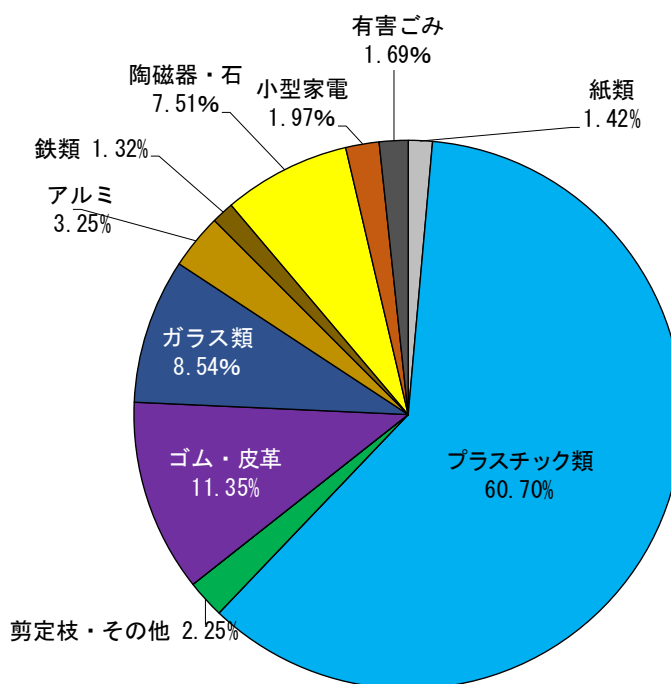


図 2.2-8 家庭系不燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.2-7①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙、その他）の混入割合は 0.07%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.2-7②及び図 2.2-9 に示す。

紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 4.93%であった。

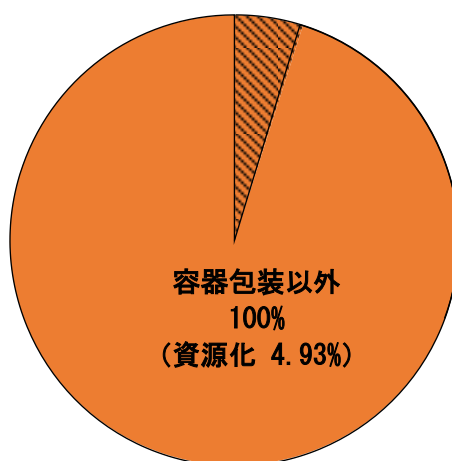
表 2.2-7① 紙類の組成

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		
	その他		
			0.00
容器包装 以外	新聞・折込		0.07
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		1.35
			1.42
（資源化可能な紙類）			0.07
合 計			1.42

表 2.2-7② 紙類の組成（紙類全体）

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		
	その他		
			0.00
容器包装以外	新聞・折込		4.93
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		95.07
		100.00	
（資源化可能な紙類）		4.93	
合計		100.00	

：資源化可能部分



：資源化可能部分

図 2.2-9 紙類の組成（紙類全体）

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2.2-8①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 5.36%であった。

なお、現在、容器包装以外のプラスチック類は軟質を可燃ごみ、硬質を不燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2.2-8②及び図 2.2-10 に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 8.83%であった。

表 2.2-8① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		3.46
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋		0.52
		その他		
	パック類			1.38
その他				
			5.36	
容器包装以外	軟質		1.28	
	硬質		54.06	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
				55.34
（資源化可能なプラスチック類）			5.36	
合計			60.70	

：資源化可能部分

表 2.2-8② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	5.70	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋	0.86	
		その他		
パック類		2.27		
その他				
			8.83	
容器包装以外	軟質		2.11	
	硬質		89.06	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			91.17	
（資源化可能なプラスチック類）			8.83	
合計			100.00	

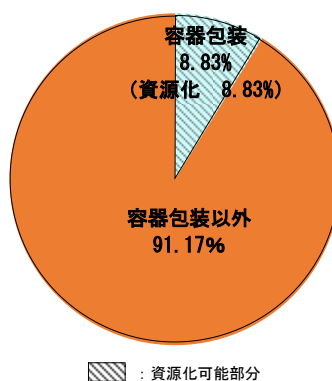


図 2.2-10 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.2-11 に示すとおりである。

その他ボトルが 64.55%と最も多く、次いでパック類が 25.75%、レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 9.70%であった。

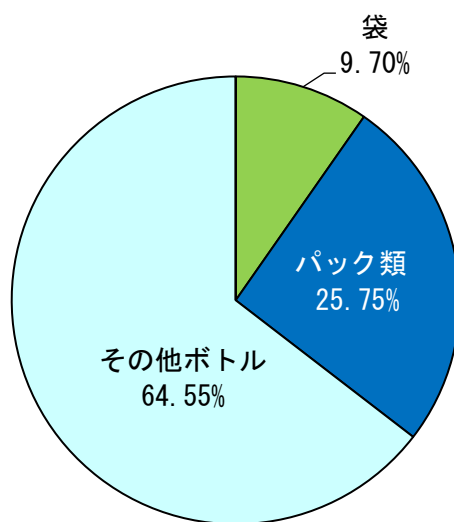


図 2.2-11 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.2-9①に示すとおりである。

資源として回収可能な鉄類は認められなかった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.2-9②及び図 2.2-12 に示す通りである。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

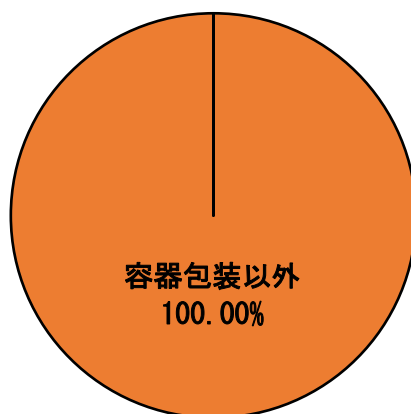
表 2.2-9① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		1.32
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		1.32

表 2.2-9② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		100.00
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		100.00

 : 資源化可能部分



 : 資源化可能部分

図 2.2-12 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2.2-10①に示すとおりである。

資源として回収できるアルミは認められなかった。

資源として排出できない容器包装以外の混入割合は 3.15%であり、排出物としてアルミホイ^{注)}ルの排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2.2-10②及び図 2.2-13 に示すとおりである。

注) アルミホイールは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.2-10① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ	0.10
	スプレー缶	
	その他	
		0.10
容器包装以外		3.15
(資源化可能なアルミ)		
合計		3.25

表 2.2-10② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ	3.08
	スプレー缶	
	その他	
		3.08
容器包装以外		96.92
(資源化可能なアルミ)		
合計		100.00

：資源化可能部分

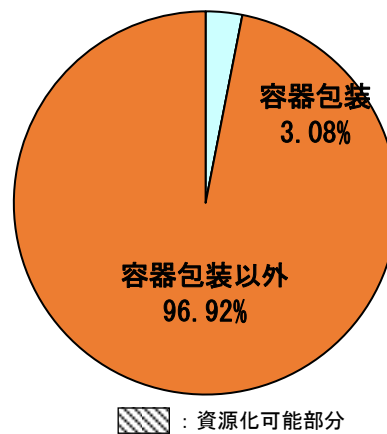


図 2.2-13 アルミの組成 (アルミ全体)

3) 事業系可燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた事業系可燃ごみの物理組成概要は表 2.2-11 及び図 2.2-14 に示すとおりである。

食品廃棄物・廃油類（43.45%）が最も多く、次いで紙類（42.31%）、プラスチック類（11.20%）、ゴム・皮革（1.46%）、剪定枝・その他（0.96%）、その他可燃（0.28%）、布類（0.15%）、であった。

不燃物では、鉄類、アルミが認められた。

表 2.2-11 事業系可燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	42.31
布類	0.15
プラスチック類	11.20
ゴム・皮革	1.46
剪定枝・その他	0.96
食品廃棄物・廃油類	43.45
陶磁器・石	
鉄類	0.07
アルミ	0.04
その他金属	
小型家電	
ガラス類	
有害ごみ	
その他不燃	
医療ごみ	0.08
その他可燃	0.28
合計	100.00

※湿ベース重量

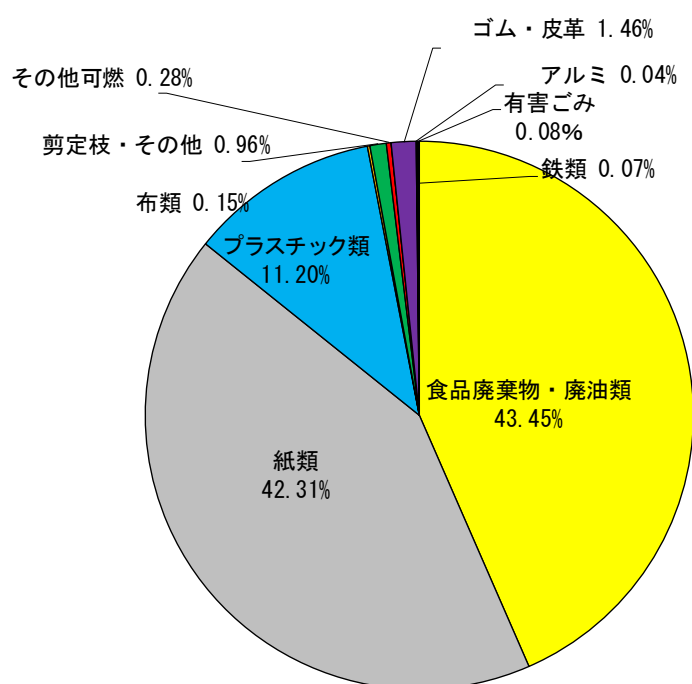


図 2.2-14 事業系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.2-12①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 8.12%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 2.18%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 10.30%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.2-12②及び図 2.2-15 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 19.18%であり、また、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 5.16%であった。

以上のことから紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 24.34%であった。

表 2.2-12① 紙類の組成

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	0.94
		アルミ付き	
	ダンボール		0.59
	包装紙		0.03
	紙容器		6.56
	その他		
			8.12
容器包装以外	新聞・折込		0.18
	雑誌・パンフレット		1.05
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		0.95
	その他（紙くず等）		32.01
			34.19
（資源化可能な紙類）			10.30
合計			42.31

表 2.2-12② 紙類の組成（紙類全体）

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	2.22
		アルミ付き	
	ダンボール		1.39
	包装紙		0.07
	紙容器		15.50
	その他		
			19.18
容器包装 以外	新聞・折込		0.43
	雑誌・パンフレット		2.48
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		2.25
	その他（紙くず等）		75.66
			80.82
（資源化可能な紙類）			24.34
合 計			100.00

：資源化可能部分

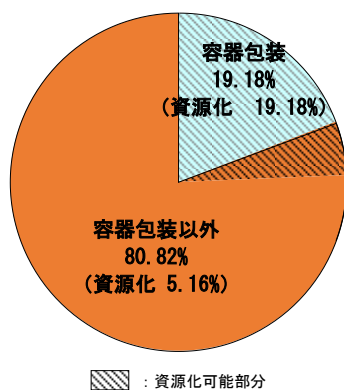


図 2.2-15 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.2-16 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」が 80.82%で紙製容器包装の大部分を占めており、次いで牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が 11.57%、ダンボールが 7.25%、包装紙が 0.36%であった。

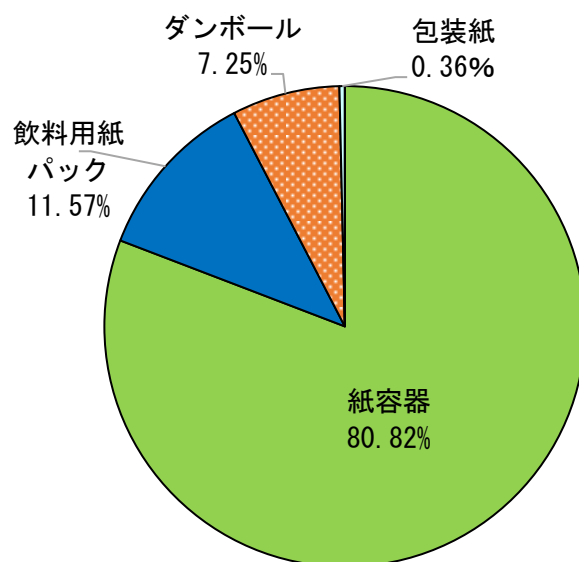


図 2.2-16 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2.2-13①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 7.69%であった。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2.2-13②及び図 2.2-17に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 68.66%であった。

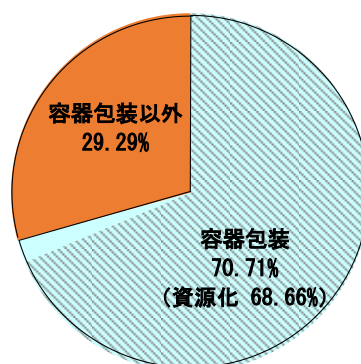
表 2.2-13① プラスチック類の組成

区 分				割 合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		0.14
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		0.14
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	0.04
			無色	0.38
	袋	レジ袋		2.52
		その他		3.90
	バック類			0.57
	その他			0.23
			7.92	
容器包装以外	軟質		2.95	
	硬質		0.33	
	その他（危険物、電池内蔵品、ブ ラ単一ではないもの等）			
			3.28	
（資源化可能なプラスチック類）			7.69	
合 計			11.20	

表 2.2-13② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区 分				割 合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		1.25
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		1.25
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	0.36
			無色	3.39
	袋	レジ袋		22.50
		その他		34.82
	バック類			5.09
	その他			2.05
			70.71	
容器包装以外	軟質		26.34	
	硬質		2.95	
	その他（危険物、電池内蔵品、ブ ラ単一ではないもの等）			
			29.29	
（資源化可能なプラスチック類）			68.66	
合 計			100.00	

：資源化可能部分



：資源化可能部分

図 2.2-17 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.2-18 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 81.06%と大部分を占めており、次いでパック類が 7.19%、トレイが 5.30%、容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 2.90%、その他ボトルが 1.77%、ペットボトルが 1.77%であった。

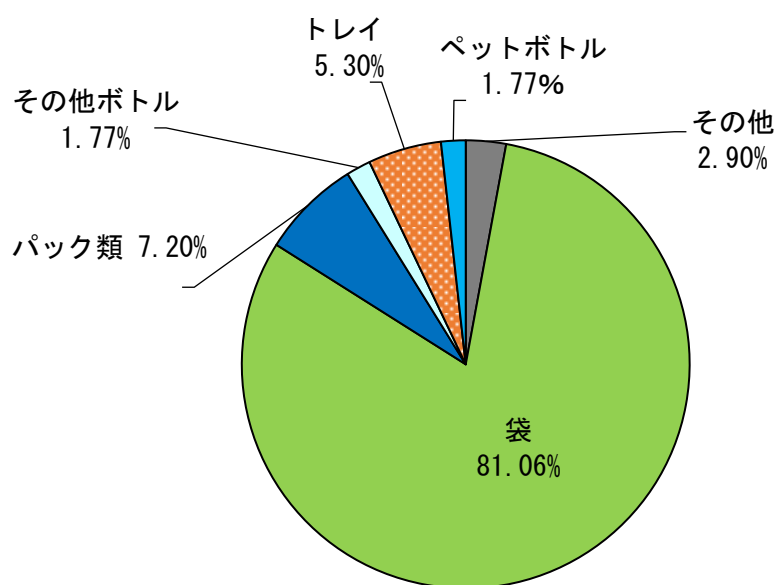


図 2.2-18 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.2-14①に示すとおりである。

資源として回収可能な鉄類は認められなかった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.2-14②及び図 2.2-19 に示す通りである。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

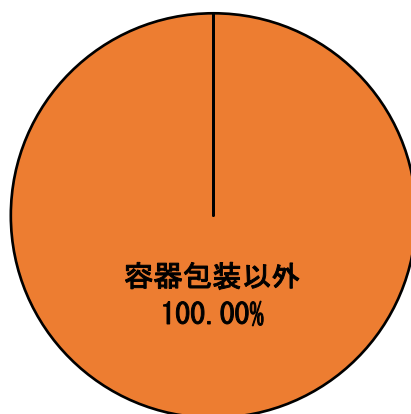
表 2.2-14① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		0.07
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		0.07

表 2.2-14② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		100.00
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		100.00

 : 資源化可能部分



 : 資源化可能部分

図 2.2-19 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2. 2-15①に示すとおりである。

資源として回収できる容器包装の混入割合は 0. 02%である。

資源として回収できない容器包装以外の混入割合は 0. 02%であり、排出物としてアルミホイルの排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2. 2-15②及び図 2. 2-20 に示すとおりである。

表 2. 2-15① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	0. 02
	栓・キャップ	
	スプレー缶	
	その他	
		0. 02
容器包装以外		0. 02
(資源化可能なアルミ)		
合計		0. 04

表 2. 2-15② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	50. 00
	栓・キャップ	
	スプレー缶	
	その他	
		50. 00
容器包装以外		50. 00
(資源化可能なアルミ)		
合計		100. 00

 : 資源化可能部分

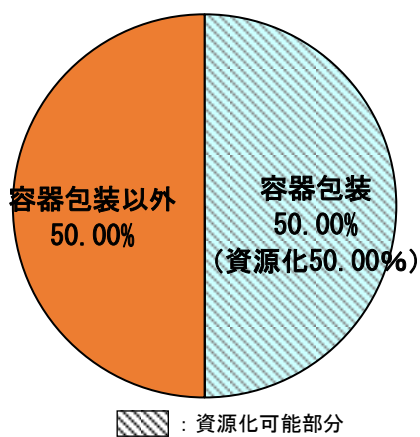


図 2. 2-20 アルミの組成 (アルミ全体)

⑤ 食品廃棄物

ア. 食品廃棄物の排出状況

食品廃棄物の排出状況は表 2.2-16①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 43.45%であった。

また、食品廃棄物中では食べ残しが 42.50%で最も排出割合が多く、次いで過剰除去を含む調理くず等が 0.92%、直接廃棄が 0.03%であった。

表 2.2-16① 食品廃棄物の排出割合

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
事業系可燃ごみ		70.52	
食品廃棄物		30.64	43.45
	直接廃棄	0.02	0.03
	食べ残し	29.97	42.50
	調理くず等	0.65	0.92
	過剰除去		
(可食部分)		29.99	42.53

 : 可食部分

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2.2-16②及び図 2.2-21 に示すとおりである。

食べ残しが 97.81%、調理くず等（内過剰除去:0.00%）2.12%、直接廃棄が 0.07%であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 97.88%（食べ残し：97.81%、直接廃棄：0.07%、過剰除去：0.00%）を占めていた。

表 2.2-16② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量（kg）	割合（％）
食品廃棄物		30.64	
	直接廃棄	0.02	0.07
	食べ残し	29.97	97.81
	調理くず等	0.65	2.12
	過剰除去	0.00	0.00
（可食部分）		29.99	97.88

：可食部分

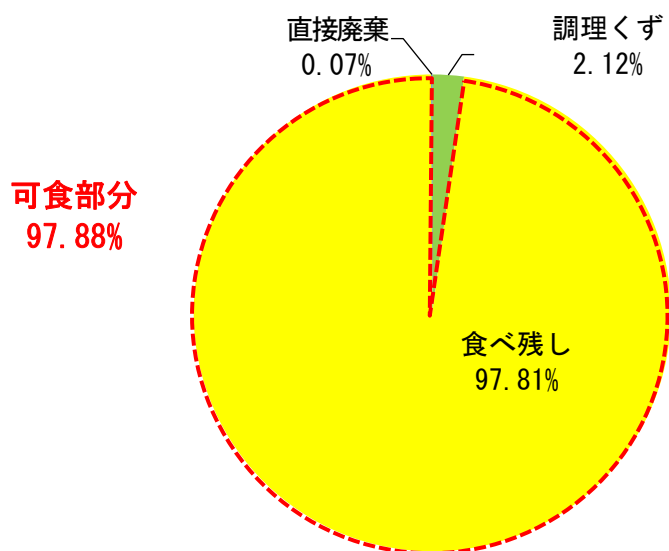


図 2.2-21 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

イ. 直接廃棄

日付の確認できる食品の排出は認められなかった。



2.3 調査全体（調査１回目・２回目の平均）

１）家庭系可燃ごみ

（１）物理組成概要

中分類別でみた家庭系可燃ごみの物理組成概要は表 2.3-1 及び図 2.3-1 に示すとおりである。食品廃棄物・廃油類（41.93%）が最も多く、次いで紙類（24.77%）、プラスチック類（15.30%）、その他可燃（8.44%）、布類（4.77%）、剪定枝・その他（2.12%）、ゴム・皮革（0.88%）、であり、また、不燃物は、ガラス類（1.11%）、アルミ^注（0.24%）、その他不燃（0.11%）、鉄類（0.08%）の混入が認められた。

注）アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

表 2.3-1 家庭系可燃ごみの物理組成

中分類	割合（%）
紙類	24.77
布類	4.77
プラスチック類	15.30
ゴム・皮革	0.88
剪定枝・その他	2.12
食品廃棄物・廃油類	41.93
陶磁器・石	0.00
鉄類	0.08
アルミ	0.24
その他金属	0.00
小型家電	0.25
ガラス類	1.11
有害ごみ	0.00
その他不燃	0.11
医療ごみ	0.00
その他可燃	8.44
合計	100.00

※湿ベース重量

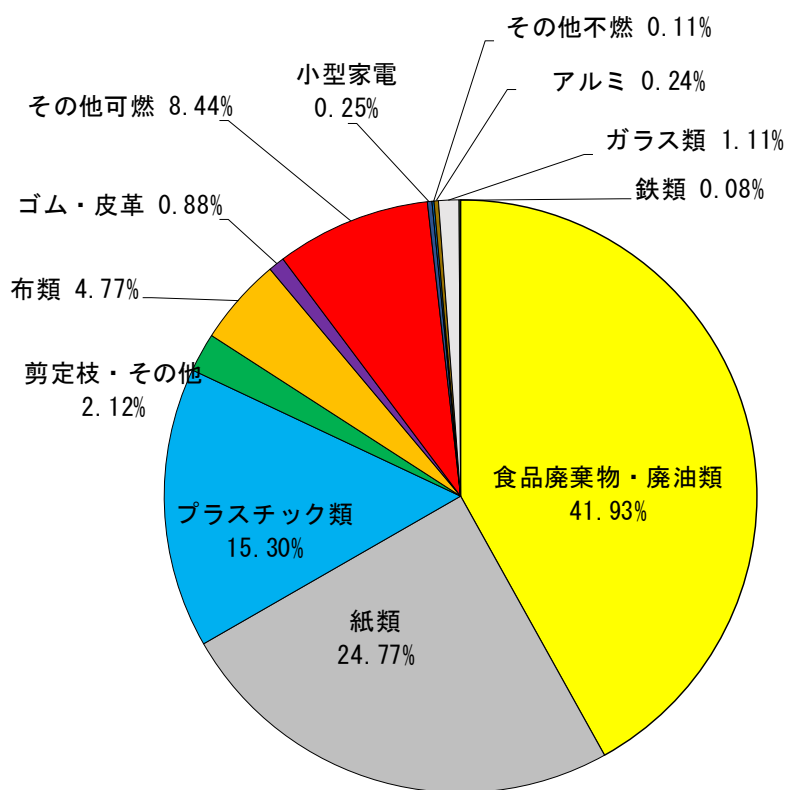


図 2.3-1 家庭系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.3-2①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器）の混入割合は6.22%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は3.59%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は9.81%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.3-2②及び図 2.3-2に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は25.11%であり、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は14.49%であった。

以上のことから、紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は39.60%であった。

表 2.3-2① 紙類の組成

区分			割合 (%)
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	1.04
		アルミ付き	0.49
	ダンボール		0.95
	包装紙		0.07
	紙容器		3.28
	その他		0.88
			6.71
容器包装以外	新聞・折込		0.39
	雑誌・パンフレット		0.51
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		2.69
	その他（紙くず等）		14.47
			18.06
（資源化可能な紙類）			9.81
合計			24.77

表 2.3-2② 紙類の組成（紙類全体）

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	4.20
		アルミ付き	1.98
	ダンボール		3.84
	包装紙		0.28
	紙容器		13.24
	その他		3.55
			27.09
容器包装 以外	新聞・折込		1.57
	雑誌・パンフレット		2.06
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		10.86
	その他（紙くず等）		58.42
			72.91
（資源化可能な紙類）			39.60
合 計			100.00

：資源化可能部分

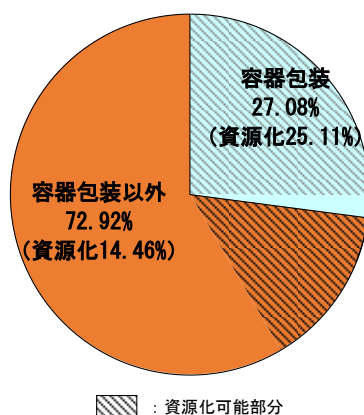


図 2.3-2 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.3-3 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」48.88%が紙製容器包装と最も多く、次いで牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が22.82%、ダンボールが14.17%、その他が13.10%、包装紙が1.03%であった。

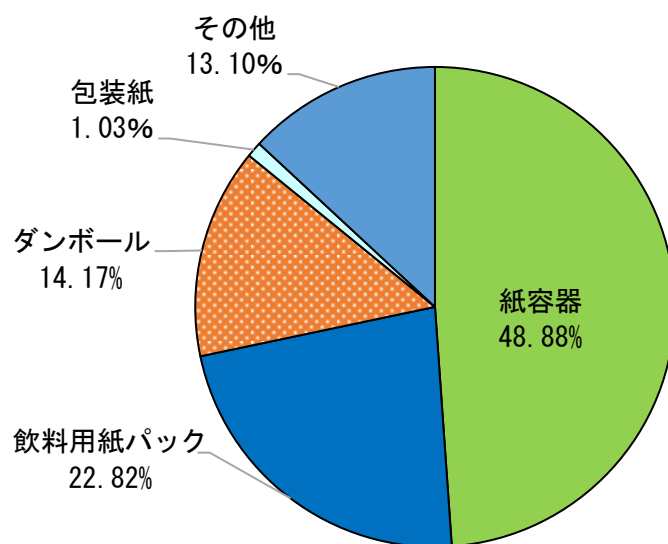


図 2.3-3 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2.3-3①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 8.17%であった。

なお、現在、容器包装以外のプラスチック類は可燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2.3-3②及び図 2.3-4 に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 53.40%であった。

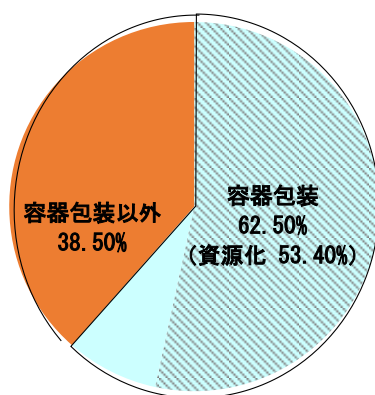
表 2.3-3① プラスチック類の組成

区分				割合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		0.58
	その他 ボトル	軟質		0.08
		硬質		0.62
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	0.02
			褐色（有色）	0.18
		その他	着色	0.47
			無色	0.72
	袋	レジ袋		0.95
		その他		3.79
	バック類			0.76
	その他			1.24
			9.41	
容器包装以外	軟質		3.76	
	硬質		1.98	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0.15	
			5.89	
（資源化可能なプラスチック類）			8.17	
合計			15.30	

：資源化可能部分

表 2.3-3② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分				割合（％）
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		3.79
	その他 ボトル	軟質		0.52
		硬質		4.05
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	0.13
			褐色（有色）	1.18
		その他	着色	3.07
			無色	4.71
	袋	レジ袋		6.21
		その他		24.77
	バック類			4.97
	その他			8.10
			61.50	
容器包装以外	軟質		24.58	
	硬質		12.94	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0.98	
			38.50	
	（資源化可能なプラスチック類）		53.40	
合計			100.00	



：資源化可能部分

図 2.3-4 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.3-5 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 50.37%と大部分を占めており、次いでトレイが 14.78%、プラスチック製容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 13.17%、パック類が 8.08%、その他ボトルが 7.43%、ペットボトル 6.16%であった。

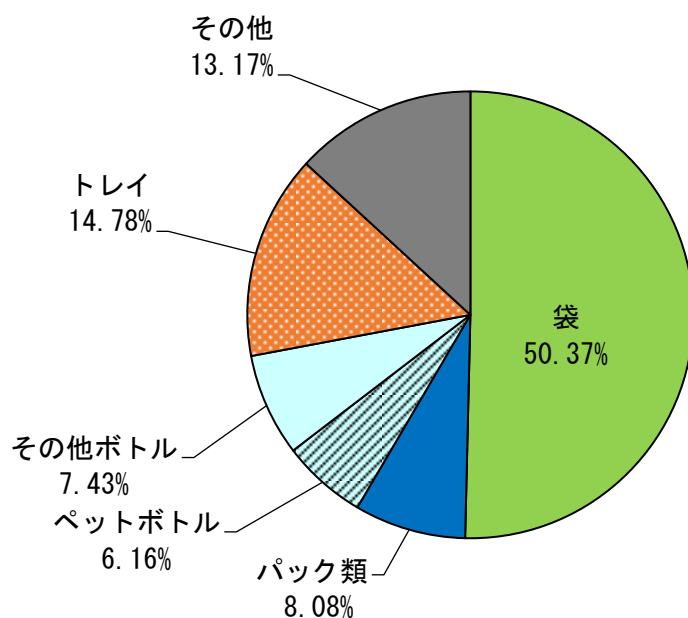


図 2.3-5 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-4①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 0.05%であった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-4②及び図 2.3-6 に示すとおりである。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.3-4① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	0.05
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.05
容器包装以外		0.03
(資源化可能な鉄類)		0.05
合計		0.08

表 2.3-4② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	62.50
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		62.50
容器包装以外		37.50
(資源化可能な鉄類)		62.50
合計		100.00

 : 資源化可能部分

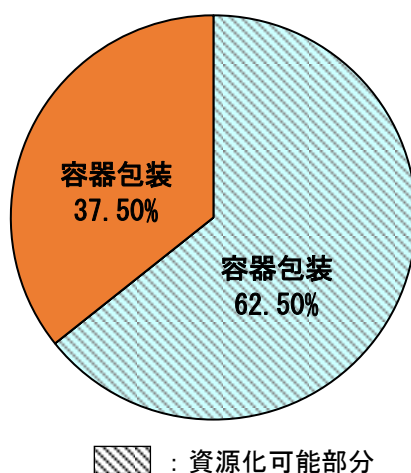


図 2.3-6 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-5①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 0.08%であり、資源として回収することができない容器包装以外の混入割合は 0.16%であった。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-5②及び図 2.3-7 に示すとおりである。

注) アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.3-5① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	0.08
		0.08
容器包装以外		0.16
(資源化可能なアルミ)		0.08
合計		0.24

表 2.3-5② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	33.33
		33.33
容器包装以外		66.67
(資源化可能なアルミ)		
合計		100.00

 : 資源化可能部分

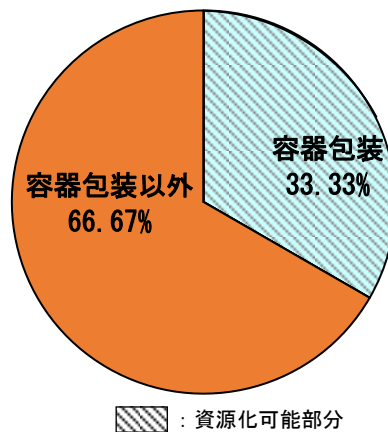


図 2.3-7 アルミの組成 (アルミ全体)

⑤ 食品廃棄物

ア. 食品廃棄物の排出状況

食品廃棄物の排出状況は表 2.3-6①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 41.93%であった。

食品廃棄物中では食べ残しが 22.16%で最も排出割合が多く、次いで過剰除去を含む調理くず等が 13.32%、直接廃棄が 6.45%であった。

この結果に基づき、寒川町の 1 人 1 日当たりの食品廃棄物の排出量を推計した。

寒川町の令和 3 年度の家庭系可燃ごみ排出量は 6,610 t^{注)}、令和 3 年 10 月 1 日現在の人口は 48,999 人であり、1 人 1 日当たりの家庭系可燃ごみ排出量は 369.6 g となる。従って、1 人 1 日当たりの食品廃棄物の排出量は図 2.3-8 に示すとおり 155.0 g であり、内訳は食べ残し 82.6 g、調理くず 46.8 g、過剰除去 1.6 g、直接廃棄 24.0 g であった（可食部分 108.2 g）。

食べ残しや調理の仕方の工夫により 1 人 1 日当たり 108.2 g の排出抑制が期待できる。

注) 家庭系可燃ごみ：令和 3 年度一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）に基づく生活系可燃ごみ収集分

表 2.3-6① 食品廃棄物の排出割合

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
家庭系可燃ごみ		38.06	
食品廃棄物		15.96	41.93
	直接廃棄	2.45	6.45
	食べ残し	8.43	22.16
	調理くず等	5.07	13.32
	過剰除去	0.17	0.44
(可食部分)		11.05	29.05

: 可食部分

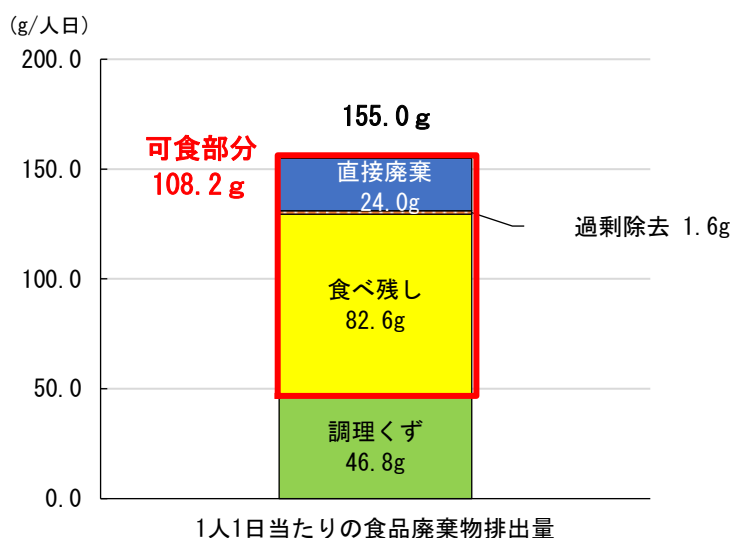


図 2.3-8 1 人 1 日当たりの食品廃棄物排出量

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2.3-6②及び図 2.3-9 に示すとおりである。

食べ残しが 52.84%、調理くず等（内過剰除去：1.07%）31.79%、直接廃棄が 15.37%であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 69.28%（食べ残し：52.84%、直接廃棄：15.37%、過剰除去：1.07%）を占めていた。

表 2.3-6② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量（kg）	割合（%）
食品廃棄物		15.96	
	直接廃棄	2.45	15.37
	食べ残し	8.43	52.84
	調理くず等	5.07	31.79
	過剰除去	0.17	1.07
（可食部分）		11.05	69.28

□：可食部分

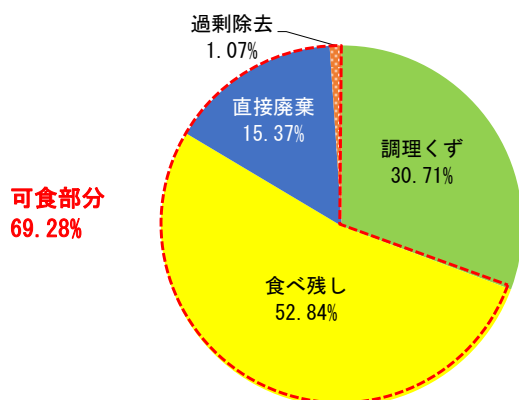


図 2.3-9 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

イ. 過剰除去

調理くず等に含まれる過剰除去については過剰除去自体の基準が曖昧であり、調査主体により数値が大きく変動する可能性がある。

参考値として環境省が公表している「食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」で公表している割合に基づき算定した過剰除去の割合は 1.93%であった。

推計式)

家庭系ごみに占める過剰除去の割合（%）

＝環境省公表割合×家庭系ごみに占める食品廃棄物の割合/100

＝4.6×41.93/100

≒1.93

（出典：「家庭から排出される食品廃棄物に占める食品ロスの調査マニュアル」 神奈川県）

2) 家庭系不燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた家庭系不燃ごみの物理組成概要は表 2.3-7 及び図 2.3-10 に示すとおりである。

プラスチック類 (54.33%) が最も多く、次いでゴム・皮革 (10.59%)、陶磁器・石類 (8.75%)、ガラス類 (8.74%)、鉄類 (5.06%)、アルミ (3.75%)、であった。

可燃物では、剪定枝・その他、布類、紙類が認められた。

表 2.3-7 家庭系不燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	0.79
布類	1.22
プラスチック類	54.33
ゴム・皮革	10.59
剪定枝・その他	2.34
食品廃棄物・廃油類	0.00
陶磁器・石	8.75
鉄類	5.06
アルミ	3.75
その他金属	0.00
小型家電	1.79
ガラス類	8.74
有害ごみ	2.64
その他不燃	
医療ごみ	0.00
その他可燃	
合計	100.00

※湿ベース重量

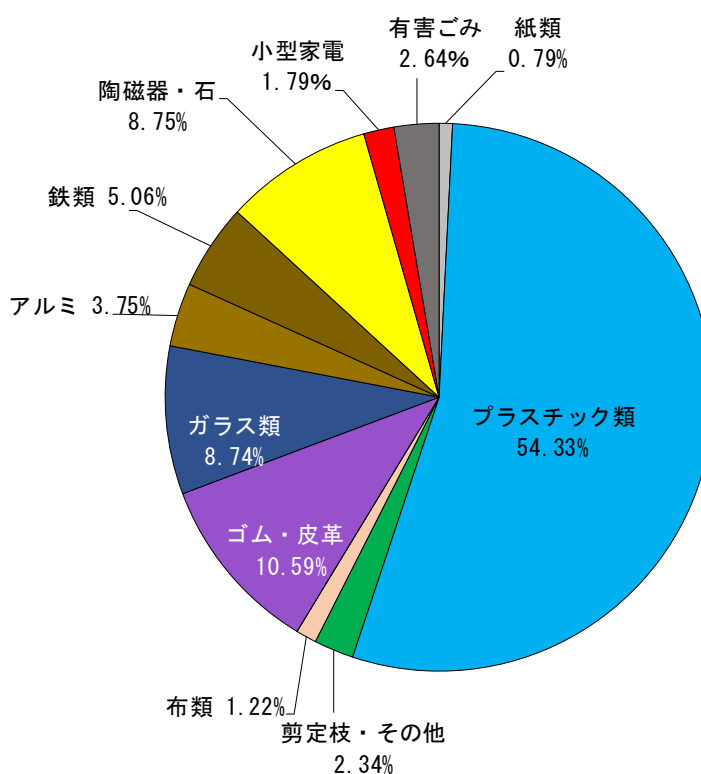


図 2.3-10 家庭系不燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.3-8①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付き除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 0.07%であった。

また、資源として回収可能な紙製容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 0.04%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.3-8②及び図 2.3-11 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 8.86%であり、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 5.06%であった。

以上のことから、紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 13.92%であった。

表 2.3-8① 紙類の組成

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		0.03
	その他		0.04
			0.07
容器包装 以外	新聞・折込		0.04
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		0.68
			0.72
（資源化可能な紙類）			0.11
合計			0.79

表 2.3-8② 紙類の組成（紙類全体）

区分			割合（％）
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	
		アルミ付き	
	ダンボール		
	包装紙		
	紙容器		3.80
	その他		5.06
			8.86
容器包装以外	新聞・折込		5.06
	雑誌・パンフレット		
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		
	その他（紙くず等）		86.08
			91.14
（資源化可能な紙類）			13.92
合計			100.00

：資源化可能部分

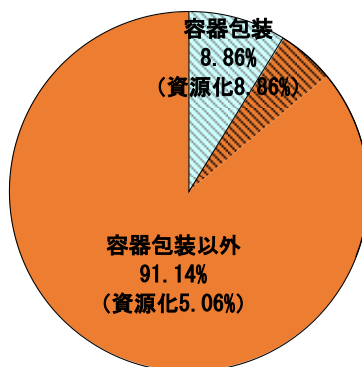


図 2.3-11 紙類の組成（紙類全体）

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2. 2-9①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装プラスチック類の混入割合は 4. 10%であった。

なお、現在、容器包装以外のプラスチック類は軟質を可燃ごみ、硬質を不燃ごみとして収集されている。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2. 3-9②及び図 2. 3-12 に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック製容器包装の混入割合は 7. 54%であった。

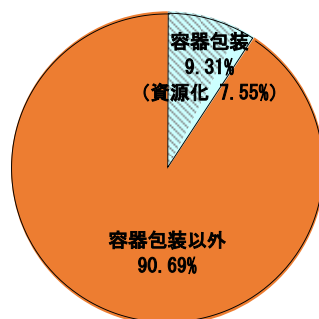
表 2. 3-9① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質		2. 83
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋		0. 52
		その他		0. 02
	バック類			0. 73
その他			0. 96	
			5. 06	
容器包装以外	軟質		0. 96	
	硬質		48. 15	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0. 16	
			49. 27	
（資源化可能なプラスチック類）			4. 10	
合計			54. 33	

：資源化可能部分

表 2. 3-9② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質		
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	5. 21	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	
		その他	着色	
			無色	
	袋	レジ袋	0. 96	
		その他	0. 04	
	パック類		1. 34	
	その他		1. 77	
		9. 31		
容器包装以外	軟質		1. 77	
	硬質		88. 63	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）		0. 29	
			90. 69	
（資源化可能なプラスチック類）			7. 55	
合計			100. 00	



：資源化可能部分

図 2. 3-12 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.3-13 に示すとおりである。

その他ボトルが 55.94%と最も多く、次いでプラスチック製容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 18.97%、パック類が 14.43%、レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 10.66%であった。

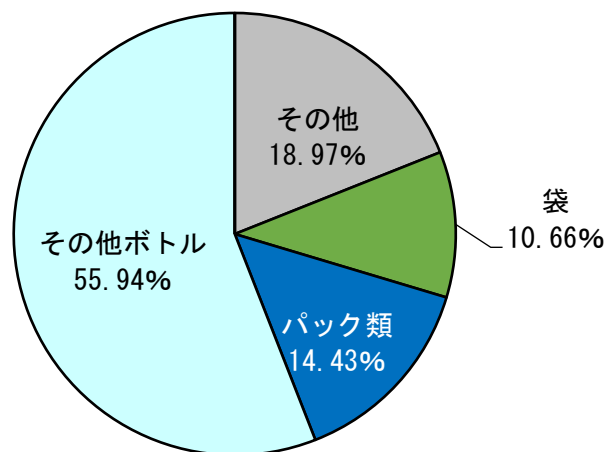


図 2.3-13 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-10①に示すとおりである。

資源として回収可能な鉄類は認められなかった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-10②及び図 2.3-14 に示す通りである。

注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

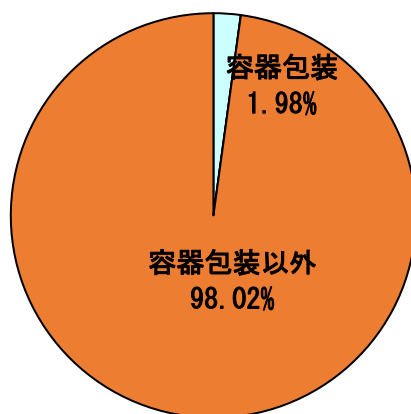
表 2.3-10① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	0.10
	スプレー缶	
	その他	
		0.10
容器包装以外		4.96
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		5.06

表 2.3-10② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	1.98
	スプレー缶	
	その他	
		1.98
容器包装以外		98.02
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		100.00

: 資源化可能部分



: 資源化可能部分

図 2.3-14 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-11①に示すとおりである。

資源として回収可能なアルミ製容器包装の混入割合は 1.16%であった。

資源として排出できないアルミ製容器包装以外の混入割合は 1.83%であり、排出物としてアルミホイル^{注)}の排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-11②及び図 2.3-15 に示すとおりである。

注) アルミホイルは「可燃ごみ」として排出可能である。

飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

表 2.3-11① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	0.76
	スプレー缶	1.03
	その他	0.13
		1.92
容器包装以外		1.83
(資源化可能なアルミ)		1.16
合計		3.75

表 2.3-11② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	20.26
	スプレー缶	27.47
	その他	3.47
		51.20
容器包装以外		48.80
(資源化可能なアルミ)		30.94
合計		100.00

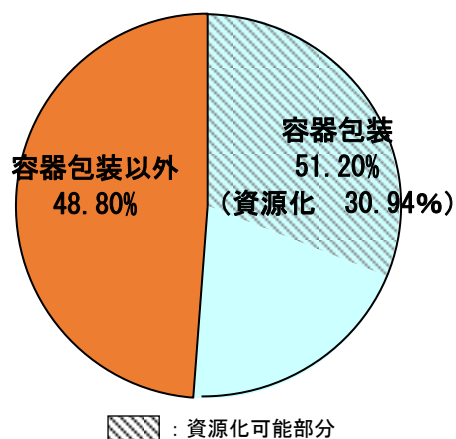


図 2.3-15 アルミの組成 (アルミ全体)

3) 事業系可燃ごみ

(1) 物理組成概要

中分類別でみた事業系可燃ごみの物理組成概要は表 2.3-12 及び図 2.3-16 に示すとおりである。

紙類 (56.21%) が最も多く、次いで食品廃棄物・廃油類 (22.42%)、プラスチック類 (16.25%)、その他可燃 (1.83%)、剪定枝・その他 (1.18%)、布類 (0.76%)、ゴム・皮革 (0.75%) であった。

不燃物では、鉄類、アルミ、その他不燃、ガラス類が認められた。

表 2.3-12 事業系可燃ごみの物理組成

中分類	割合 (%)
紙類	56.21
布類	0.76
プラスチック類	16.25
ゴム・皮革	0.75
剪定枝・その他	1.18
食品廃棄物・廃油類	22.42
陶磁器・石	
鉄類	0.04
アルミ	0.04
その他金属	
小型家電	
ガラス類	0.01
有害ごみ	
その他不燃	0.45
医療ごみ	0.06
その他可燃	1.83
合計	100.00

※湿ベース重量

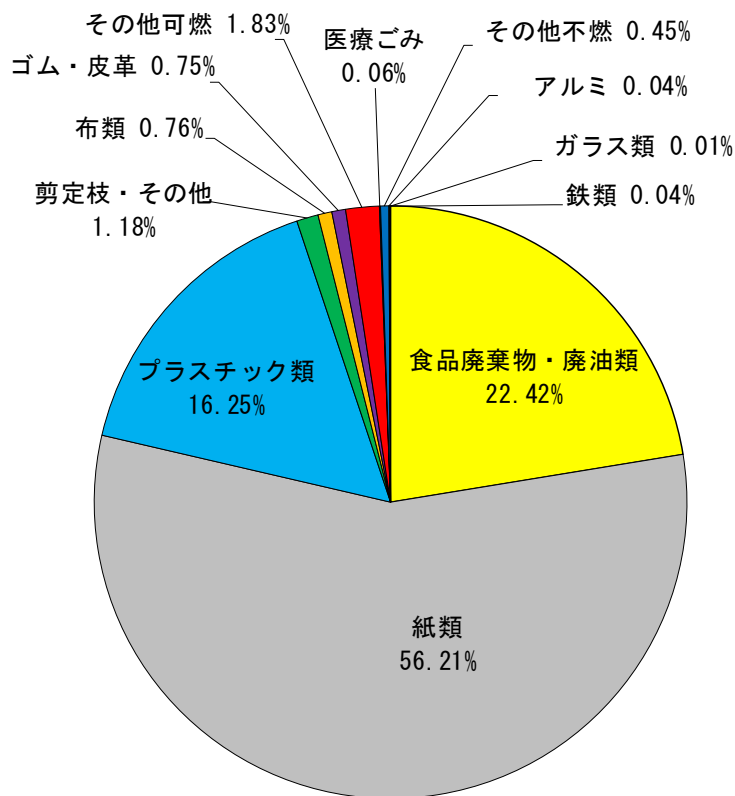


図 2.3-16 事業系可燃ごみの物理組成

(2) 主な分別品目の排出割合

① 紙類

紙類の組成は表 2.3-13①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装（飲料用紙パック（アルミ付きを除く）、ダンボール、包装紙、紙容器、その他）の混入割合は 11.92%であった。

また、資源として回収可能な容器包装以外（新聞・折込、雑誌・パンフレット、ざつ紙）の混入割合は 5.36%であった。

以上のことから、排出量全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 17.28%であった。

次に、紙類全体に占める各種紙類の組成は、表 2.3-13②及び図 2.3-17 に示す。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 21.21%であり、また、資源として回収可能な容器包装以外の混入割合は 9.53%であった。

以上のことから紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合は 30.74%であった。

表 2.3-13① 紙類の組成

区分			割合 (%)
容器包装	飲料用紙パック	アルミ無し	0.70
		アルミ付き	0.14
	ダンボール		2.65
	包装紙		0.08
	紙容器		8.43
	その他		0.06
			12.06
容器包装以外	新聞・折込		1.50
	雑誌・パンフレット		0.80
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		3.06
	その他（紙くず等）		38.79
			44.15
（資源化可能な紙類）			17.28
合計			56.21

表 2.3-13② 紙類の組成（紙類全体）

区 分			割合（％）
容器包装	飲料用紙 パック	アルミ無し	1.25
		アルミ付き	0.25
	ダンボール		4.71
	包装紙		0.14
	紙容器		15.00
	その他		0.11
			21.46
容器包装 以外	新聞・折込		2.67
	雑誌・パンフレット		1.42
	ざつ紙（再生利用可能紙類）		5.44
	その他（紙くず等）		69.01
			78.54
（資源化可能な紙類）			30.74
合 計			100.00

：資源化可能部分

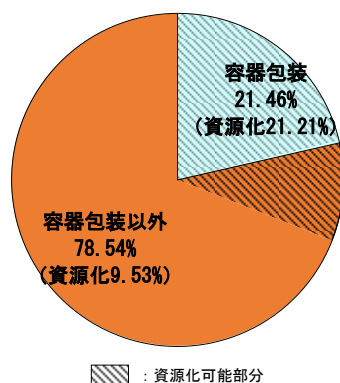


図 2.3-17 紙類の組成（紙類全体）

紙製容器包装全体に占める各種紙類の組成は、図 2.3-18 に示すとおりである。

食料品や日用品の紙箱などの「紙容器」が 69.90%で紙製容器包装の大部分を占めており、次いでダンボールが 21.95%、牛乳パックなどの「飲料用紙パック」が 6.99%、包装紙が 0.65%、その他が 0.51%であった。

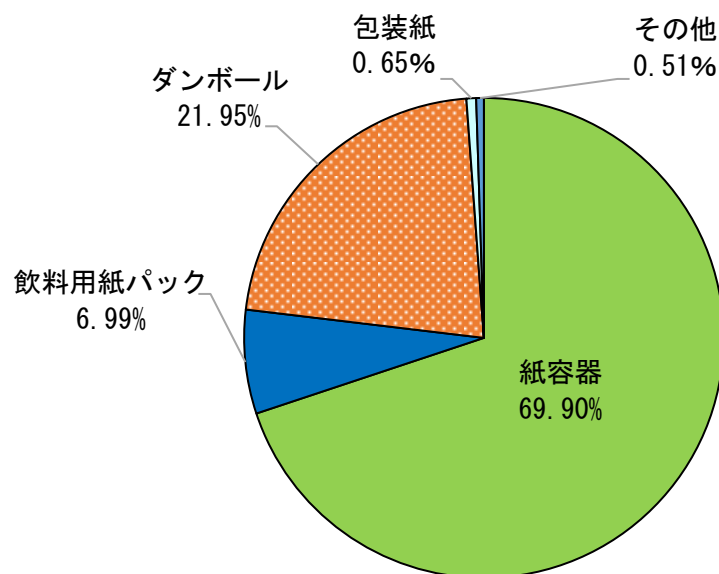


図 2.3-18 紙製容器包装の組成

② プラスチック類

排出量全体に占める各種プラスチック類の組成は表 2.3-14①に示すとおりである。

資源として回収可能な容器包装の混入割合は 6.28%であった。

次に、プラスチック類全体に占める各種プラスチック類の組成を表 2.3-14②及び図 2.3-19に示す。

プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は 38.64%であった。

表 2.3-14① プラスチック類の組成

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質	0.10	
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	0.16	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	0.01
		その他	着色	0.02
			無色	0.19
	袋	レジ袋	1.32	
		その他	3.46	
	バック類		1.02	
その他		0.82		
		7.10		
容器包装以外	軟質	8.93		
	硬質	0.22		
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			9.15	
（資源化可能なプラスチック類）			6.28	
合計			16.25	

：資源化可能部分

表 2.3-14② プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

区分			割合（％）	
容器包装	ペット ボトル	軟質		
		硬質	0.62	
	その他 ボトル	軟質		
		硬質	0.98	
	トレイ	発泡スチ ロール	白色	
			褐色（有色）	0.06
		その他	着色	0.12
			無色	1.17
	袋	レジ袋	8.12	
		その他	21.29	
	バック類		6.28	
その他		5.05		
		43.69		
容器包装以外	軟質		54.96	
	硬質		1.35	
	その他（危険物、電池内蔵品、プ ラ単一ではないもの等）			
			56.31	
（資源化可能なプラスチック類）			38.64	
合計			100.00	

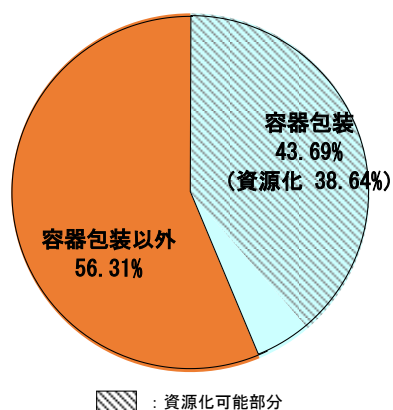


図 2.3-19 プラスチック類の組成（プラスチック類全体）

プラスチック製容器包装全体に占める各種プラスチック類の組成は、図 2.3-20 に示すとおりである。

レジ袋、食品の袋などを含む「袋」が 67.32%と最も多く、次いでパック類が 14.37%、容器包装の中でも汚れ等がひどく資源化できないものを含む「その他」が 11.56%、トレイが 3.09%、その他ボトルが 2.24%、ペットボトルが 1.42%であった。

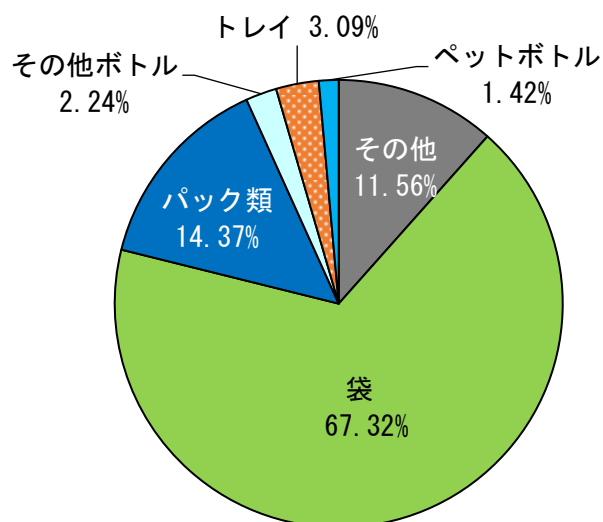


図 2.3-20 プラスチック製容器包装の組成

③ 鉄類

排出量全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-15①に示すとおりである。

資源として回収可能な鉄類は認められなかった。

次に、鉄類全体に占める各種鉄類の組成は表 2.3-15②及び図 2.3-21 に示す通りである。

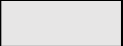
注) 飲料用ボトルのふたは不燃ごみとして排出する。

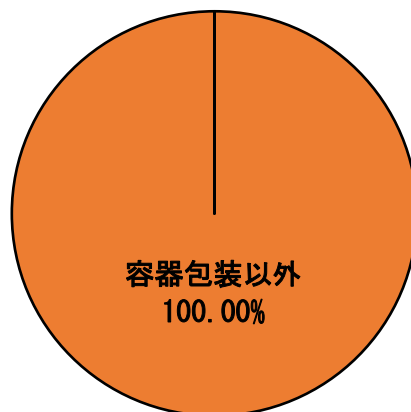
表 2.3-15① 鉄類の組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		0.04
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		0.04

表 2.3-15② 鉄類の組成 (鉄類全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.00
容器包装以外		100.00
(資源化可能な鉄類)		0.00
合計		100.00

 : 資源化可能部分



 : 資源化可能部分

図 2.3-21 鉄類の組成 (鉄類全体)

④ アルミ

排出量全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-16①に示すとおりである。

資源として回収できる容器包装の混入割合は 0.01%である。

資源として回収できない容器包装以外の混入割合は 0.03%であり、排出物としてアルミホイルの排出が認められた。

次に、アルミ全体に占める各種アルミの組成は表 2.3-16②及び図 2.3-22 に示すとおりである。

表 2.3-16① アルミの組成

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	0.01
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		0.01
容器包装以外		0.03
(資源化可能なアルミ)		0.01
合計		0.04

表 2.3-16② アルミの組成 (アルミ全体)

区分		割合 (%)
容器包装	飲食料缶	25.00
	栓・キャップ ^{注)}	
	スプレー缶	
	その他	
		25.00
容器包装以外		75.00
(資源化可能なアルミ)		25.00
合計		100.00

 : 資源化可能部分

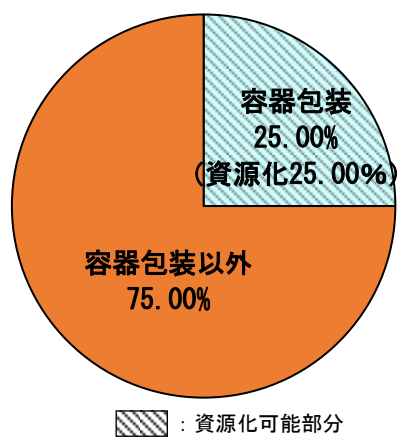


図 2.3-22 アルミの組成 (アルミ全体)

⑤ 食品廃棄物

ア. 食品廃棄物の排出状況

食品廃棄物の排出状況は表 2.3-17①に示すとおりであり、排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は 22.42%であった。

また、食品廃棄物中では食べ残しが 21.67%で最も排出割合が多く、次いで過剰除去を含む調理くず等が 0.50%、直接廃棄が 0.25%であった。

表 2.3-17① 食品廃棄物の排出割合

区分		排出量 (kg)	割合 (%)
家庭系可燃ごみ		57.54	
食品廃棄物		12.90	22.42
	直接廃棄	0.14	0.25
	食べ残し	12.47	21.67
	調理くず等	0.29	0.50
	過剰除去		
(可食部分)		12.61	21.92

 : 可食部分

食品廃棄物全体に占める排出割合は、表 2.3-17②及び図 2.3-23 に示すとおりである。

食べ残しが 96.65%、調理くず等（内過剰除去:0.00%）2.23%、直接廃棄が 1.12%であった。

以上のことから、食品廃棄物中の可食部分は 97.77%（食べ残し：96.65%、直接廃棄：1.12%、過剰除去：0.00%）を占めていた。

表 2.3-17② 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

区分		排出量（kg）	割合（％）
食品廃棄物		12.90	
	直接廃棄	0.14	1.12
	食べ残し	12.47	96.65
	調理くず等	0.29	2.23
	過剰除去	0.00	0.00
（可食部分）		12.61	97.77

 : 可食部分

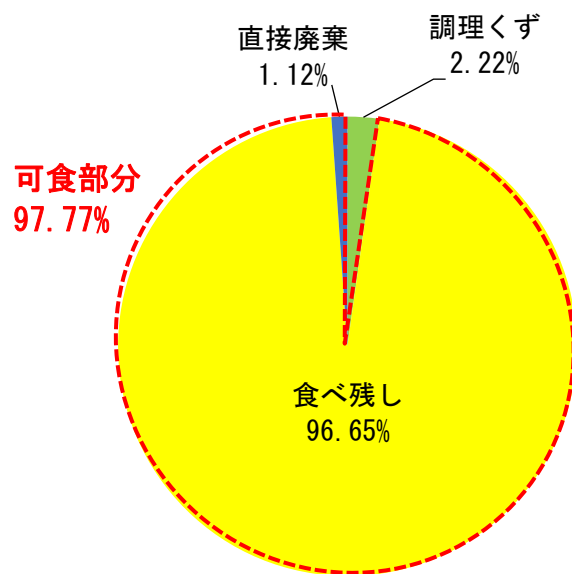


図 2.3-23 食品廃棄物の排出割合（食品廃棄物全体）

2.4 調査別物理組成比較

1) 家庭系可燃ごみ

(1) 紙類

本年度における調査別の紙類の物理組成の比較は図 2.4-1 に示すとおりである。

排出量全体に占める紙類の排出割合は、調査 1 回目では 23.75%、調査 2 回目では 25.80%であり、調査全体では 24.77%であった。

また、資源として回収可能な紙類の混入割合は調査 1 回目では 11.27%（紙類全体：47.46%）、調査 2 回目では 8.31%（紙類全体：32.21%）であり、調査全体では 9.81%（紙類全体：39.60%）であった。

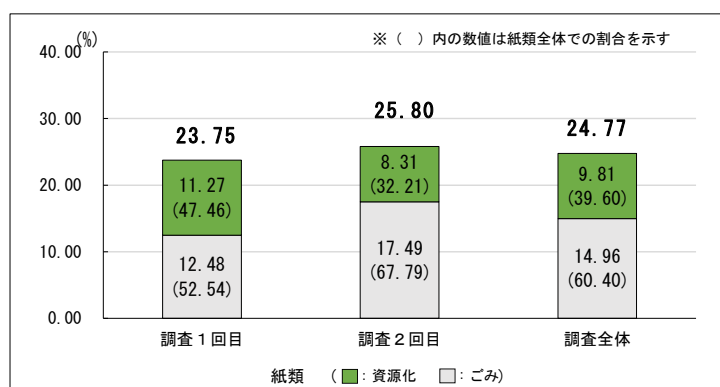


図 2.4-1 物理組成の比較（紙類）

(2) プラスチック類

本年度における調査別のプラスチック類の物理組成の比較は図 2.4-2 に示すとおりである。

排出量全体に占めるプラスチック類の排出割合は、調査 1 回目では 11.30%、調査 2 回目では 19.25%であり、調査全体では 15.30%であった。

また、資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は調査 1 回目では 7.77%（プラスチック類全体：68.77%）、調査 2 回目では 8.53%（プラスチック類全体：44.33%）であり、調査全体では 8.17%（プラスチック類全体：53.40%）であった。

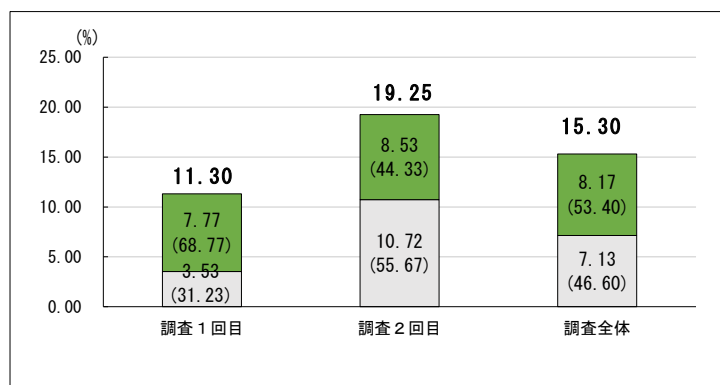


図 2.4-2 物理組成の比較（プラスチック類）

(3) 鉄類

本年度における調査別の鉄類の物理組成の比較は図 2.4-3 に示すとおりである。

排出量全体に占める鉄類の排出割合は調査 1 回目では 0.14% であり、調査全体では 0.08% であった。なお、調査 2 回目では鉄類の混入は認められなかった。

また、資源として回収可能な鉄類の混入割合は調査 1 回目では 0.09%（鉄類全体：64.29%）であり、調査全体では 0.05%（鉄類全体：62.50%）であった。

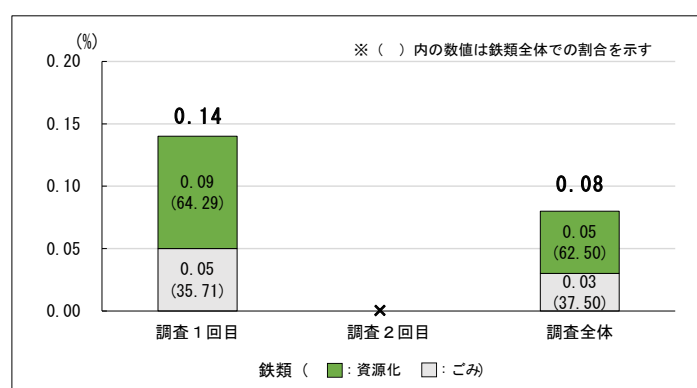


図 2.4-3 物理組成の概要（鉄類）

(4) アルミ

本年度における調査別のアルミの物理組成の比較は図 2.4-4 に示すとおりである。

排出量全体に占めるアルミの排出割合は、調査 1 回目では 0.17%、調査 2 回目では 0.32% であり、調査全体では 0.24% であった。

また、資源として回収可能なアルミの混入割合は調査 1 回目では認められず、調査第 2 回目では 0.17%（アルミ全体：53.64%）、調査全体では 0.08%（アルミ全体：33.33%）であった。

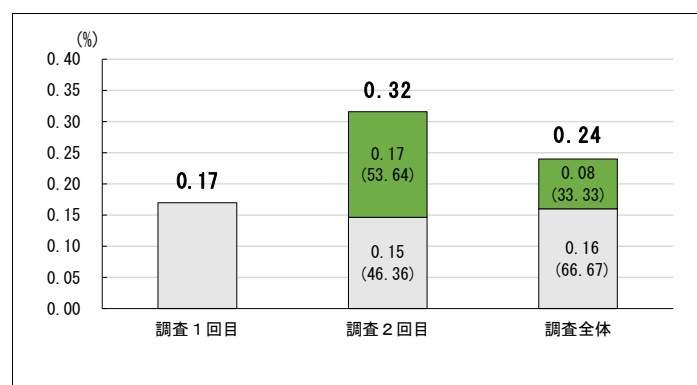


図 2.4-4 物理組成の概要（アルミ）

(5) 食品廃棄物

本年度における調査別の食品廃棄物の物理組成の比較は、図 2.4-5①に示すとおりである。

排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は、調査 1 回目では 43.51%、調査 2 回目では 40.44%、調査全体では 41.93%であった。

排出割合は調査 1 回目では食べ残しが多く、調査 2 回目では調理くずが最も多かった。

また、食品廃棄物全体に占める排出割合は、図 2.4-5②に示すとおりである。

調査全体では、食べ残し 52.84%、調理くず 30.71%、直接廃棄 15.37%、過剰除去 1.07%であり、可食部分は 69.28%であった。

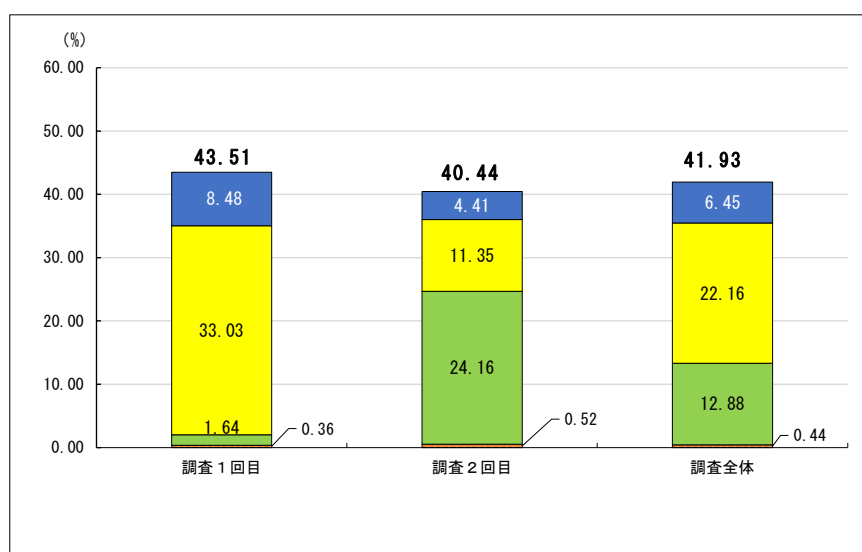


図 2.4-5① 物理組成の概要（食品廃棄物）

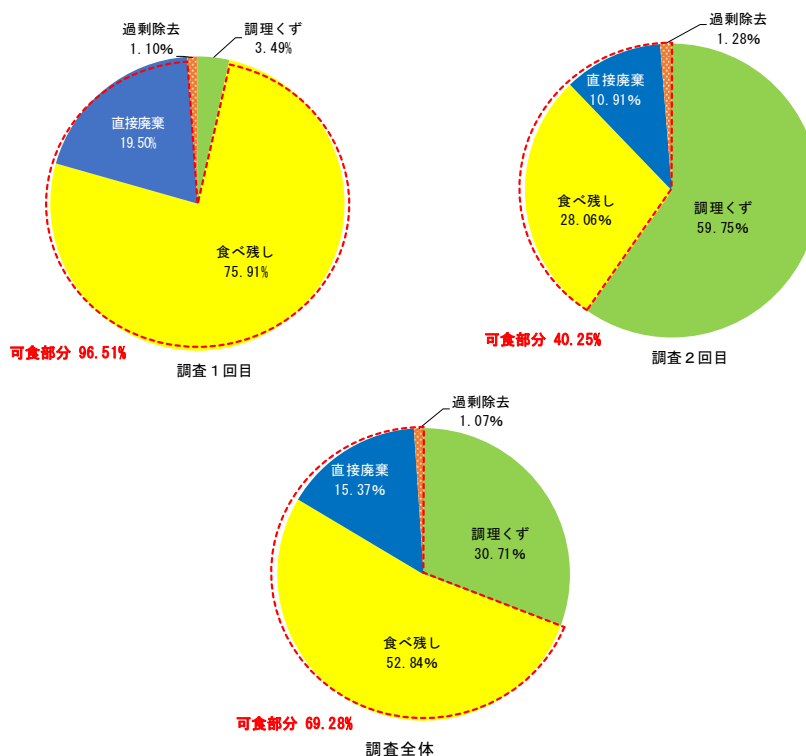


図 2.4-5② 物理組成の比較（食品廃棄物全体）

2) 家庭系不燃ごみ

(1) 紙類

本年度における調査別の紙類の物理組成の比較は図 2.4-6 に示すとおりである。

排出量全体に占める紙類の排出割合は、調査 1 回目では 0.13%、調査 2 回目では 1.42% であり、調査全体では 0.79% であった。

また、資源として回収可能な紙類の混入割合は調査 1 回目では 0.12% (紙類全体 : 92.31%)、調査 2 回目では 0.07% (紙類全体 : 4.93%) であり、調査全体では 0.11% (紙類全体 : 13.92%) であった。

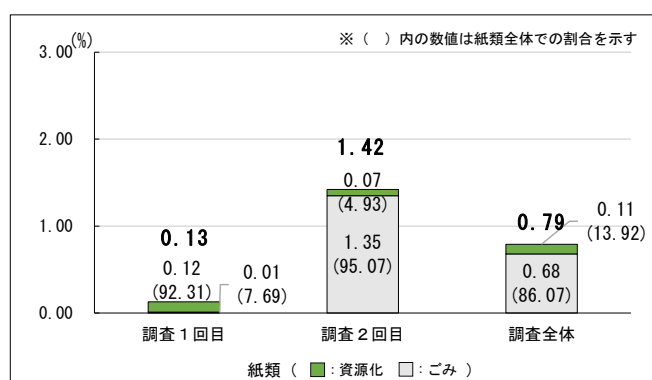


図 2.4-6 物理組成の比較 (紙類)

(2) プラスチック類

本年度における調査別のプラスチック類の物理組成の比較は図 2.4-7 に示すとおりである。

排出量全体に占めるプラスチック類の排出割合は、調査 1 回目では 47.97%、調査 2 回目では 60.70% であり、調査全体では 54.33% であった。

また、資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は調査 1 回目では 2.81% (プラスチック類全体 : 5.86%)、調査 2 回目では 5.36% (プラスチック類全体 : 8.83%) であり、調査全体では 4.10% (プラスチック類全体 : 7.55%) であった。

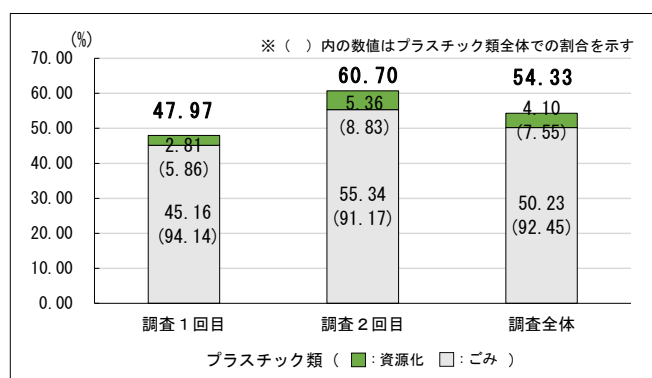


図 2.4-7 物理組成の比較 (プラスチック類)

(3) 鉄類

本年度における調査別の鉄類の物理組成の比較は図 2.4-8 に示すとおりである。

排出量全体に占める鉄類の排出割合は調査 1 回目では 8.78%、調査 2 回目では 1.32%であり、調査全体では 5.06%であった。

また、資源として回収可能な鉄類の混入は認められなかった。

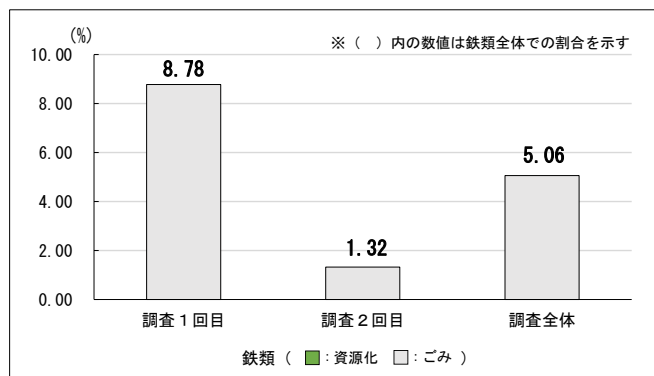


図 2.4-8 物理組成の概要（鉄類）

(4) アルミ

本年度における調査別のアルミの物理組成の比較は図 2.4-9 に示すとおりである。

排出量全体に占めるアルミの排出割合は、調査 1 回目では 4.23%、調査 2 回目では 3.25%であり、調査全体では 3.75%であった。

また、資源として回収可能なアルミの混入割合は調査 1 回目では 2.31%（アルミ全体：54.61%）、第 2 回目では認められず、調査全体では 1.16%（鉄類全体：30.94%）であった。

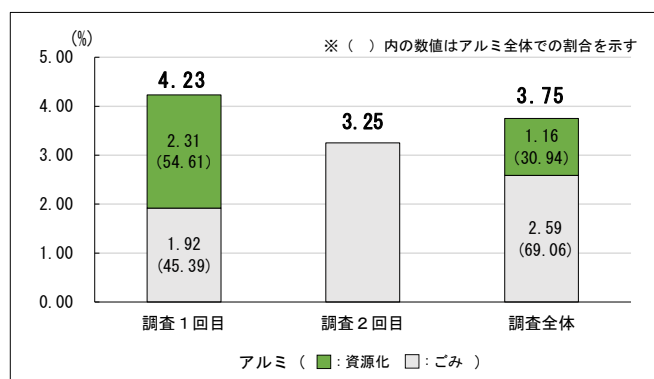


図 2.4-9 物理組成の概要（アルミ）

3) 事業系可燃ごみ

(1) 紙類

本年度における調査別の紙類の物理組成の比較は図 2.4-10 に示すとおりである。

排出量全体に占める紙類の排出割合は、調査 1 回目では 70.14%、調査 2 回目では 42.31%であり、調査全体では 56.21%であった。

また、資源として回収可能な紙類の混入割合は調査 1 回目では 24.23%（紙類全体：34.55%）、調査 2 回目では 10.30%（紙類全体：24.34%）であり、調査全体では 17.28%（紙類全体：30.74%）であった。

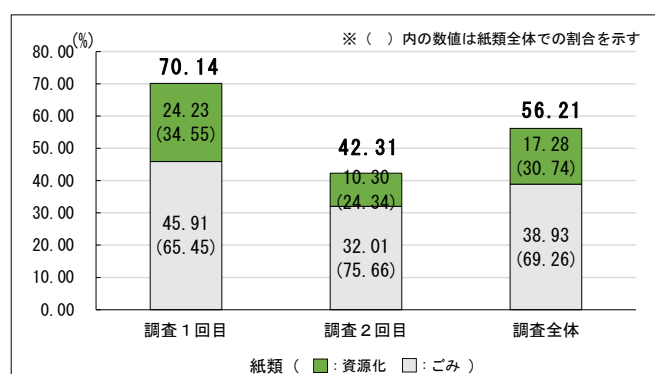


図 2.4-10 物理組成の比較（紙類）

(2) プラスチック類

本年度における調査別のプラスチック類の物理組成の比較は図 2.4-11 に示すとおりである。

排出量全体に占めるプラスチック類の排出割合は、調査 1 回目では 21.28%、調査 2 回目では 11.20%であり、調査全体では 16.25%であった。

また、資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は調査 1 回目では 4.84%（プラスチック類全体：22.75%）、調査 2 回目では 7.69%（プラスチック類全体：68.66%）であり、調査全体では 6.28%（プラスチック類全体：38.64%）であった。

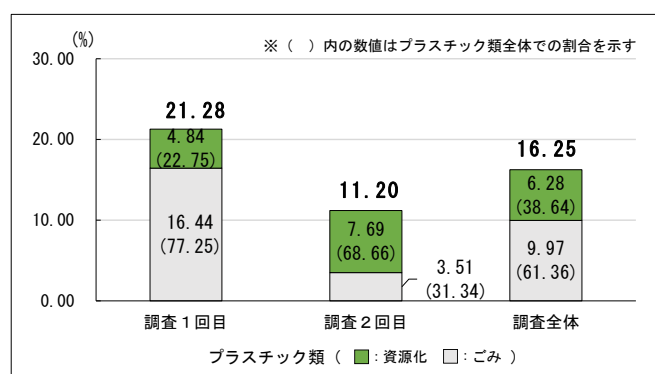


図 2.4-11 物理組成の比較（プラスチック類）

(3) 鉄類

本年度における調査別の鉄類の物理組成の比較は図 2.4-12 に示すとおりである。

排出量全体に占める鉄類の排出割合は調査 2 回目では 0.07% であり、調査全体では 0.04% であった。なお、調査 1 回目では鉄類の混入は認められなかった。

また、資源として回収可能な鉄類の混入は認められなかった。

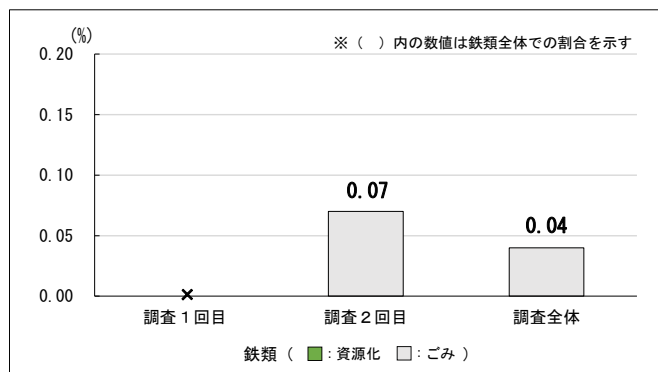


図 2.4-12 物理組成の概要（鉄類）

(4) アルミ

本年度における調査別のアルミの物理組成の比較は図 2.4-13 に示すとおりである。

排出量全体に占めるアルミの排出割合は、調査 1 回目では 0.03%、調査 2 回目では 0.04% であり、調査全体では 0.04% であった。

また、資源として回収可能なアルミの混入割合は調査 1 回目では認められず、調査 2 回目では 0.02%（アルミ全体：50.00%）、調査全体では 0.01%（アルミ全体：25.00%）であった。

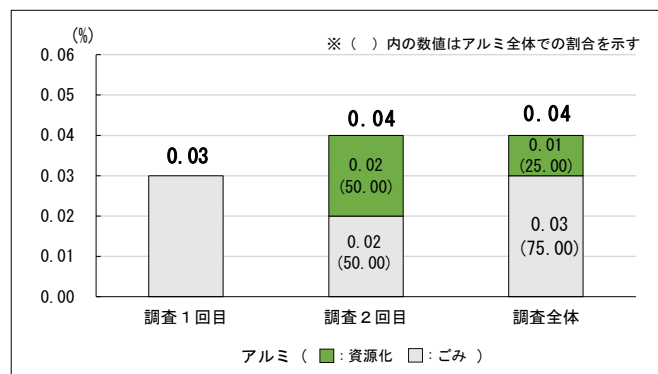


図 2.4-13 物理組成の概要（アルミ）

(5) 食品廃棄物

本年度における調査別の食品廃棄物の物理組成の比較は、図 2.4-14①に示すとおりである。

排出量全体に占める食品廃棄物の排出割合は、調査 1 回目では 1.45%、調査 2 回目では 43.45%、調査全体では 22.42%であった。

排出割合はいずれも食べ残しが最も多かった。

また、食品廃棄物全体に占める排出割合は、図 2.4-5②に示すとおりである。

調査全体では、食べ残し 96.65%、調理くず 2.22%、直接廃棄 1.12%、過剰除去 0.00%であり、可食部分は 97.77%であった。

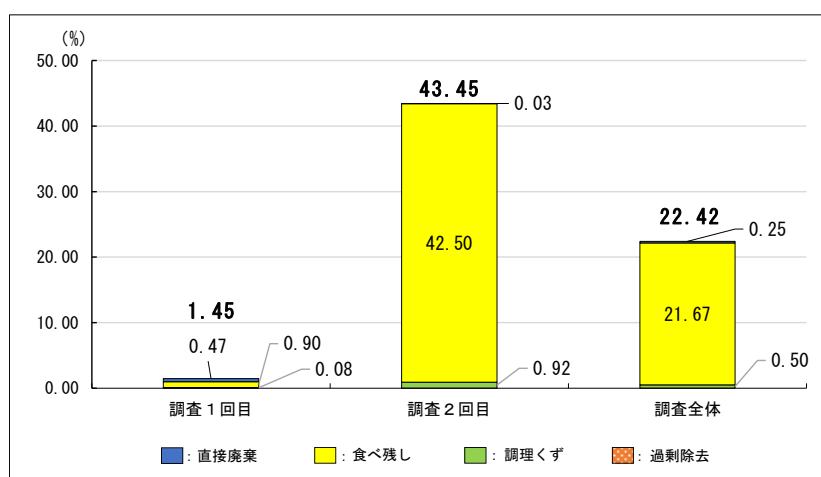


図 2.4-14① 物理組成の概要（食品廃棄物）

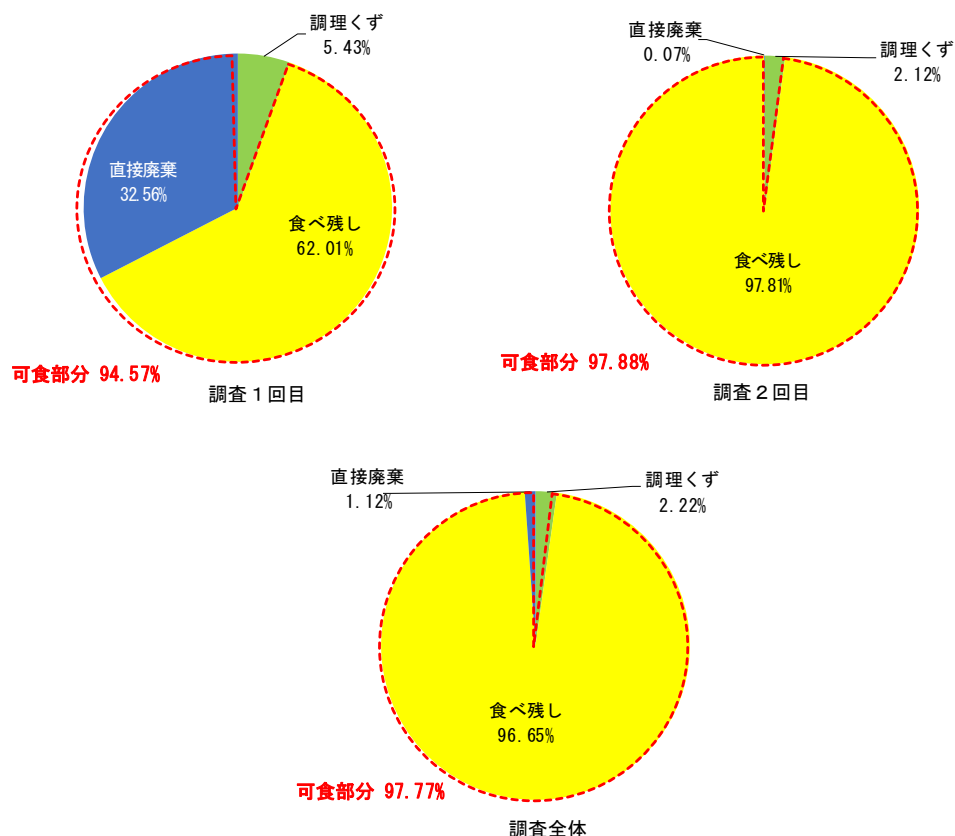


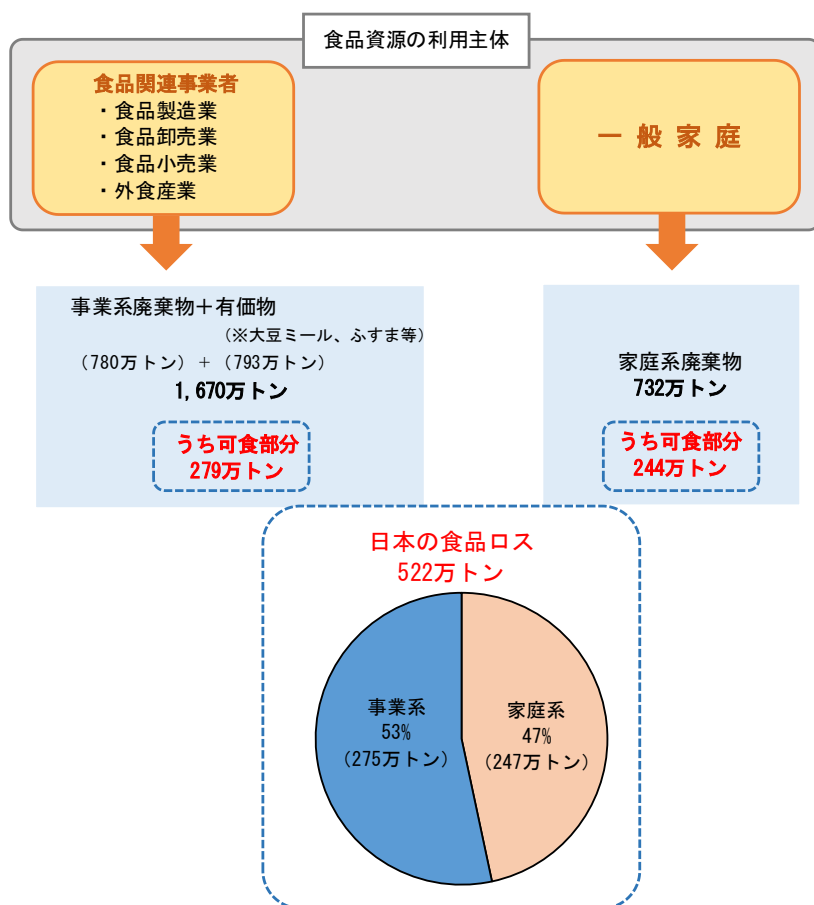
図 2.4-5② 物理組成の比較（食品廃棄物全体）

(参考 1) 令和 3 年度の日本の食品ロス推計

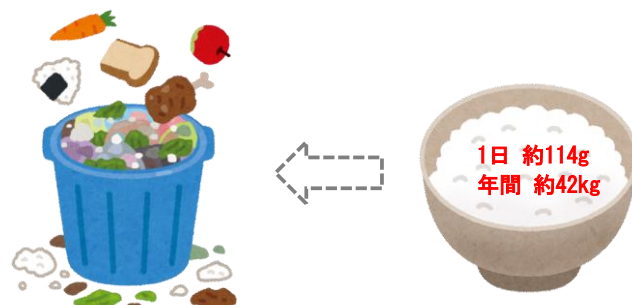
農林水産省及び環境省では、食品ロスの発生状況を把握し、食品ロス削減の取り組みの進展を活かすため、平成 24 年度以降、食品ロス量の推計を行っている。

令和 3 年度における日本の食品ロス量は 523 万トン（家庭系：244 万トン、事業系 279 万トン）と推計され、前年度（522 万トン）よりも 1 万トン増加した。

これを国民 1 人あたりに換算すると、1 日当たり約 114 g（茶碗約 1 杯（約 150 g）のご飯の量に近い量）、年間では約 42kg となる。



国民 1 人あたりに換算すると…



(出典：食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢（令和 5 年 6 月時点版）農林水産省)

2.5 資源物の混入状況

調査時の分別に従い、紙類、プラスチック類、布類、食品廃棄物・廃油類、鉄類、アルミ、その他金属、小型家電、ガラス類、有害ごみを資源物とごみに分け、資源物の混入状況を確認した。

結果は表 2.5-1 に示すとおりであり、資源物の混入割合は家庭系可燃ごみ 22.35%（調査1回目：24.33% 調査2回目：20.27%）、家庭系不燃ごみ 9.04%（調査1回目：10.44% 調査2回目：7.57%）、事業系可燃ごみ 23.74%（調査1回目：29.41% 調査2回目：18.01%）であった。

表 2.5-1① 資源物の混入状況（家庭系可燃ごみ）

分類		割合（%）		
		調査1回目	調査2回目	調査全体
紙類	資源物	11.27	8.31	9.81
	ごみ	12.48	17.49	14.96
布類	資源物	5.20	0.55	2.88
	ごみ	3.15	0.63	1.89
プラスチック類	資源物	7.77	8.53	8.17
	ごみ	3.53	10.72	7.13
ゴム・皮革	ごみ	0.03	1.72	0.88
剪定枝・その他	ごみ	3.07	1.15	2.12
食品廃棄物・ 廃油類	資源物			
	ごみ	43.51	40.44	41.93
陶磁器・石	ごみ			
鉄類	資源物	0.09		0.05
	ごみ	0.05		0.03
アルミ	資源物		0.17	0.08
	ごみ	0.17	0.15	0.16
その他金属	資源物			
小型家電	資源物		0.50	0.25
ガラス類	資源物		2.21	1.11
	ごみ			
有害ごみ	資源物			
	ごみ			
その他不燃	ごみ	0.09	0.12	0.11
医療ごみ	ごみ			
その他可燃	ごみ	9.59	7.31	8.44
調査時の分別による 資源物混入割合		24.33	20.27	22.35

表 2.5-2② 資源物の混入状況（家庭系不燃ごみ）

分類		割合（％）		
		調査1回目	調査2回目	調査全体
紙類	資源物	0.12	0.07	0.11
	ごみ	0.01	1.35	0.68
布類	資源物			
	ごみ	2.44		1.22
プラスチック類	資源物	2.81	5.36	4.10
	ごみ	45.16	55.34	50.23
ゴム・皮革	ごみ	9.87	11.35	10.59
剪定枝・その他	ごみ	2.43	2.25	2.34
食品廃棄物・ 廃油類	資源物			
	ごみ			
陶磁器・石	ごみ	9.98	7.51	8.75
鉄類	資源物			
	ごみ	8.78	1.32	5.06
アルミ	資源物	2.31		1.16
	ごみ	1.92	3.25	2.59
その他金属	資源物			
小型家電	資源物	1.61	1.97	1.79
ガラス類	資源物	3.59	0.17	1.88
	ごみ	5.38	8.37	6.86
有害ごみ	資源物			
	ごみ	3.59	1.69	2.64
その他不燃	ごみ			
医療ごみ	ごみ			
その他可燃	ごみ			
調査時の分別による 資源物混入割合		10.44	7.57	9.04

表 2.5-3③ 資源物の混入状況（事業系可燃ごみ）

分類		割合（％）		
		調査1回目	調査2回目	調査全体
紙類	資源物	24.23	10.30	17.28
	ごみ	45.91	32.01	38.93
布類	資源物	0.34		0.17
	ごみ	1.02	0.15	0.59
プラスチック類	資源物	4.84	7.69	6.28
	ごみ	16.44	3.51	9.97
ゴム・皮革	ごみ	0.04	1.46	0.75
剪定枝・その他	ごみ	1.39	0.96	1.18
食品廃棄物・ 廃油類	資源物			
	ごみ	1.45	43.45	22.42
陶磁器・石	ごみ			
鉄類	資源物			
	ごみ		0.07	0.04
アルミ	資源物		0.02	0.01
	ごみ	0.03	0.02	0.03
その他金属	資源物			
小型家電	資源物			
ガラス類	資源物			
	ごみ	0.01		0.01
有害ごみ	資源物			
	ごみ			
その他不燃	ごみ	0.90		0.45
医療ごみ	ごみ	0.03	0.08	0.06
その他可燃	ごみ	3.37	0.28	1.83
調査時の分別による 資源物混入割合		29.41	18.01	23.74

2.6 適正排出の状況

可燃ごみ中の不燃ごみなど適正排出の遵守状況を確認した結果は表 2.6-1 に示すとおりである。

家庭系可燃ごみの分別による資源物の混入割合は 22.35%（調査 1 回目：24.33%、調査 2 回目：20.27%）であった。可燃ごみ中の不燃ごみ（資源物を除く）の混入割合は 2.24%（調査 1 回目：0.71%、調査 2 回目：3.80%）、収集することができないごみ（石、医療ごみ）の混入は見られなかった。

以上から家庭系可燃ごみの不適正排出の割合は 2.24%（調査 1 回目：0.71%、調査 2 回目：3.80%）であった。

表 2.6-1① 適正排出の状況（家庭系可燃ごみ）

分類	割合（%）		
	調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体
調査時の分別による資源物混入割合	24.33	20.27	22.35
可燃ごみ中の不燃ごみ（資源物を除く）	0.71	3.80	2.24
収集できないごみ（石、医療ごみ）	0.00	0.00	0.00
不適正排出の割合	0.71	3.80	2.24

家庭系不燃ごみの分別による資源物の混入割合は 9.04%（調査 1 回目：10.44%、調査 2 回目：7.57%）であった。不燃ごみ中の可燃ごみ（資源物を除く）の混入割合は 6.16%（調査 1 回目：7.95%、調査 2 回目：4.88%）、収集することができないごみ（石、医療ごみ）の混入は見られなかった。

以上から家庭系不燃ごみの不適正排出の割合は 6.16%（調査 1 回目：7.95%、調査 2 回目：4.88%）であった。

表 2.6-2② 適正排出の状況（家庭系不燃ごみ）

分類	割合（%）		
	調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体
調査時の分別による資源物混入割合	10.44	7.57	9.04
不燃ごみ中の可燃ごみ（資源物を除く）	7.95	4.88	6.16
収集できないごみ（石、医療ごみ）	0.00	0.00	0.00
不適正排出の割合	7.95	4.88	6.16

事業系可燃ごみの分別による資源物の混入割合は 23.74%（調査 1 回目：29.41%、調査 2 回目：18.01%）であった。可燃ごみ中の不燃ごみ（資源物を除く）の混入割合は 0.71%（調査 1 回目：1.01%、調査 2 回目：0.07%）、収集することができないごみ（石、医療ごみ）の混入割合は 0.06%（調査 1 回目：0.03%、調査 2 回目：0.08%）であった。

以上から事業系可燃ごみの不適正排出の割合は 0.77%（調査 1 回目：1.04%、調査 2 回目：0.15%）であった。

表 2.6-3③ 適正排出の状況（事業系可燃ごみ）

分類	割合（%）		
	調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体
調査時の分別による資源物混入割合	29.41	18.01	23.74
可燃ごみ中の不燃ごみ（資源物を除く）	1.01	0.07	0.71
収集できないごみ（石、医療ごみ）	0.03	0.08	0.06
不適正排出の割合	1.04	0.15	0.77

第 3 章 減量化・資源化の想定

3.1 排出抑制による減量化の想定

排出抑制による減量は、本調査においては、家庭系可燃ごみの食品廃棄物の可食部分の排出削減による効果から想定する。

本調査における家庭系可燃ごみの食品廃棄物中の可食部分（直接廃棄、食べ残し、過剰除去）が排出量全体に占める割合は、前述したとおり、調査 1 回目では 41.87%、調査 2 回目では 16.28%、調査全体では 29.05%であった。

3.2 資源化量の想定

家庭系及び事業系ごみ（可燃）59 区分による組成分類結果の一覧は、表 3.2-1 に示すとおりである。

現行区分に基づく資源物の混入割合から資源化可能割合を想定すると、以下のとおりであり、大きな資源化が期待される。

【家庭系ごみ推定量】

可燃ごみ：22.35%（調査 1 回目：24.33%、調査 2 回目：20.27%）

不燃ごみ：9.04%（調査 1 回目：10.44%、調査 2 回目：7.57%）

【事業系ごみ推定量】

可燃ごみ：23.74%（調査 1 回目：29.41%、調査 2 回目：18.01%）

表 3.2-1① 組成分類結果一覧（家庭系可燃ごみ）

 : 資源物

(単位: %)

番号	大分類	中分類	小分類（形状別）			分別区分		調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体
1	紙・布類	紙類	容器包装	飲料用紙	アルミ無し	古紙	1.09	0.98	1.04	
2				バック	アルミ付き		0.21	0.77	0.49	
3				ダンボール			1.04	0.86	0.95	
4				包装紙			0.12	0.01	0.07	
5				紙容器			2.54	4.02	3.28	
6				その他			1.33	0.43	0.88	
7			容器包装以外	新聞・折込			0.73	0.05	0.39	
8				雑誌・パンフレット			0.29	0.72	0.51	
9				ざつ紙（再生利用可能紙類）			4.13	1.24	2.69	
10				その他（紙くず等）			12.27	16.72	14.47	
11		布類	ウエス利用可能なもの			衣類・布類	5.20	0.55	2.88	
12			その他			可燃	3.15	0.63	1.89	
13	ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	プラスチック類	容器包装	ペット ボトル	軟質	ペットボトル				
14					硬質		0.59	0.57	0.58	
15				その他 ボトル	軟質		0.15		0.08	
16					硬質			1.24	0.62	
17				トレイ	発泡		白色	0.04		0.02
18					スチロール		褐色（有色）	0.02	0.34	0.18
19					その他		着色	0.19	0.75	0.47
20							無色	0.48	0.95	0.72
21				袋	レジ袋		1.09	0.80	0.95	
22					その他		4.62	2.96	3.79	
23			バック類			0.59	0.92	0.76		
24			その他			可燃	1.04	1.44	1.24	
25			容器包装以外	軟質			可燃	1.92	5.60	3.76
26				硬質			不燃	0.27	3.68	1.98
27				その他（危険物、電池内蔵品、プラ単一ではないもの等）			不燃	0.30		0.15
28			ゴム・皮革			可燃	不燃	0.03	1.72	0.88
29			木、竹、わら類	剪定枝葉			可燃	2.78	0.17	1.48
30				その他				0.29	0.98	0.64
31	厨芥類	食品廃棄物	直接廃棄	可燃			8.48	4.41	6.45	
32			食べ残し				33.03	11.35	22.16	
33			調理くず等				2.00	24.68	13.32	
			過剰除去（上記内数）				0.36	0.52	0.44	
34	廃油類			廃食用油						
35	陶磁器・石			陶磁器→不燃	石→排出できない					
36	鉄類	容器包装	飲食料缶	かん		0.09		0.05		
37			栓・キャップ	不燃						
38			スプレー缶	かん						
39			その他	金属						
40	容器包装以外		不燃		0.05		0.03			
41	アルミ	容器包装	飲食料缶	かん						
42			栓・キャップ	不燃						
43			スプレー缶	かん						
44			その他	金属			0.17	0.08		
45	不燃物	容器包装以外		可燃	不燃	0.17	0.15	0.16		
46		その他金属			金属					
47		小型家電			小型家電			0.50	0.25	
48		ガラス類	容器包装	ワンウェイビン等	びん			2.21	1.11	
49				リターナブルビン						
50		容器包装以外		不燃						
51		有害ごみ	蛍光管			蛍光灯・水銀式体温（血圧）計				
52			乾電池			不燃				
53			水銀温度計			蛍光灯・水銀式体温（血圧）計				
54			その他			不燃				
55	その他不燃					0.09	0.12	0.11		
56	その他	医療ごみ	特別管理一般廃棄物			排出できない				
57		その他								
58		その他可燃	紙おむつ			可燃		6.31	3.74	5.01
59			その他					3.28	3.57	3.43

表 3.2-2② 組成分類結果一覧（家庭系不燃ごみ）

 : 資源物

(単位: %)

番号	大分類	中分類	小分類（形状別）			分別区分		調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体	
1	紙・布類	紙類	容器包装	飲料用紙	アルミ無し	古紙					
2				バック	アルミ付き	可燃					
3				ダンボール			古紙				
4				包装紙							
5				紙容器					0.05		0.03
6				その他					0.07		0.04
7			容器包装以外	新聞・折込				0.07	0.04		
8				雑誌・パンフレット							
9				ざつ紙（再生利用可能紙類）							
10				その他（紙くず等）			0.01	1.35	0.68		
11		布類	ウエス利用可能なもの			衣類・布類					
12			その他			可燃		2.44		1.22	
13	ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	軟質		ペットボトル				
14					硬質						
15				その他ボトル	軟質		プラスチック製容器包装				
16					硬質				2.20	3.46	2.83
17				トレイ	発泡	白色					
18					スチロール	褐色（有色）					
19					その他	着色					
20						無色					
21				袋	レジ袋		0.51	0.52	0.52		
22					その他		0.03		0.02		
23			バック類			0.07	1.38	0.73			
24			その他			可燃	1.92		0.96		
25			容器包装以外	軟質			可燃	0.64	1.28	0.96	
26				硬質			不燃	42.29	54.06	48.15	
27				その他（危険物、電池内蔵品、プラ単一ではないもの等）			不燃	0.31		0.16	
28				ゴム・皮革			可燃		9.87	11.35	10.59
29			木、竹、わら類	剪定枝葉			可燃				
30		その他			2.43	2.25			2.34		
31	厨芥類	食品廃棄物	直接廃棄		可燃						
32			食べ残し								
33			調理くず等								
			過剰除去（上記内数）								
34	廃油類			廃食用油							
35	陶磁器・石			陶磁器→不燃	石→排出できない	9.98	7.51	8.75			
36	鉄類	容器包装	飲食料缶		かん						
37			栓・キャップ		不燃		0.19		0.10		
38			スプレー缶		かん						
39			その他		金属						
40	アルミ	容器包装以外			不燃		8.59	1.32	4.96		
41			飲食料缶		かん						
42			栓・キャップ		不燃		1.41	0.10	0.76		
43			スプレー缶		かん		2.05		1.03		
44		その他		金属		0.26		0.13			
45		容器包装以外		可燃			0.51	3.15	1.83		
46		その他金属			金属						
47	小型家電			小型家電		1.61	1.97	1.79			
48	ガラス類	容器包装	ワンウェイビン等		びん		3.59	0.17	1.88		
49			リターナブルビン								
50		容器包装以外		不燃		5.38	8.37	6.86			
51	有害ごみ	蛍光管		蛍光灯・水銀式体温（血圧）計							
52		乾電池		不燃		3.59	1.69	2.64			
53		水銀温度計		蛍光灯・水銀式体温（血圧）計							
54		その他									
55	その他不燃			不燃							
56	その他	医療ごみ	特別管理一般廃棄物			排出できない					
57		その他									
58		その他可燃	紙おむつ			可燃					
59			その他								

表 3.2-3③ 組成分類結果一覧（事業系可燃ごみ）

 : 資源物

(単位: %)

番号	大分類	中分類	小分類（形状別）			分別区分		調査 1 回目	調査 2 回目	調査全体		
1	紙・布類	紙類	容器包装	飲料用紙	アルミ無し		古紙		0.45	0.94	0.70	
2				バック	アルミ付き		可燃		0.27		0.14	
3				ダンボール			古紙		4.71	0.59	2.65	
4				包装紙					0.12	0.03	0.08	
5				紙容器					10.32	6.56	8.43	
6				その他					0.11		0.06	
7			容器包装以外	新聞・折込					2.81	0.18	1.50	
8				雑誌・パンフレット					0.55	1.05	0.80	
9				ざつ紙（再生利用可能紙類）			5.16	0.95	3.06			
10				その他（紙くず等）			45.64	32.01	38.79			
11		布類	ウエス利用可能なもの			衣類・布類		0.34		0.17		
12			その他			可燃		1.02	0.15	0.59		
13	ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	プラスチック類	容器包装	ペット ボトル	軟質		プラスチック製容器包装					
14					硬質				0.06	0.14	0.10	
15				その他 ボトル	軟質							
16					硬質				0.17	0.14	0.16	
17				トレイ	発泡	白色						
18					スチロール	褐色（有色）			0.01		0.01	
19					その他	着色					0.04	0.02
20						無色					0.38	0.19
21				袋	レジ袋				0.11	2.52	1.32	
22					その他				3.03	3.90	3.46	
23			バック類			1.46	0.57	1.02				
24			その他			可燃	1.41	0.23	0.82			
25			容器包装以外	軟質		可燃	14.93	2.95	8.93			
26				硬質		不燃	0.10	0.33	0.22			
27		その他（危険物、電池内蔵品、プラ単一ではないもの等）		不燃								
28		ゴム・皮革			可燃	不燃	0.04	1.46	0.75			
29		木、竹、わ ら類	剪定枝葉			可燃		0.90	0.57	0.74		
30	その他			0.49	0.39			0.44				
31	厨芥類	食品廃棄物	直接廃棄	可燃		0.47	0.03	0.25				
32			食べ残し			0.90	42.50	21.67				
33			調理くず等			0.08	0.92	0.50				
			過剰除去（上記内数）									
34	廃油類			廃食用油								
35	陶磁器・石			陶磁器→不燃	石→排出できない							
36	不燃物	鉄類	容器包装	飲食料缶	かん							
37				栓・キャップ	不燃							
38				スプレー缶	かん							
39				その他	金属							
40		容器包装以外		不燃		0.07	0.04					
41		アルミ	容器包装	飲食料缶	かん			0.02	0.01			
42				栓・キャップ	不燃							
43				スプレー缶	かん							
44				その他	金属							
45		容器包装以外		可燃	不燃	0.03	0.02	0.03				
46		その他金属			金属							
47		小型家電			小型家電							
48		ガラス類	容器包装	ワンウェイビン等		びん						
49				リターナブルビン								
50		容器包装以外		不燃		0.01		0.01				
51		有害ごみ	蛍光管		蛍光灯・水銀式体温（血圧）計							
52			乾電池		不燃							
53	水銀温度計		蛍光灯・水銀式体温（血圧）計									
54	その他		不燃									
55	その他不燃					0.90		0.45				
56	その他	医療ごみ	特別管理一般廃棄物			排出できない						
57		その他						0.03	0.08	0.06		
58		その他可燃	紙おむつ			可燃		0.45	0.28	0.37		
59			その他					2.92		1.46		

第 4 章 経年変化の状況

家庭系可燃ごみの中分類別における令和 3 年度、令和 4 年度及び本年度の調査の比較は図 4. 1-1 に示すとおりである。

・ 紙類

紙類の排出割合は、令和 3 年度以降減少傾向に推移しており、紙類全体に占める資源として回収可能な紙類の混入割合も同様に推移している。

・ 布類

布類の排出割合は、令和 3 年度以降増加傾向で推移しており、布類全体に占める資源として回収可能な布類の混入割合も同様に推移している。

・ プラスチック類

プラスチック類の排出割合は、本年度大きく増加している。

また、プラスチック類全体に占める資源として回収可能なプラスチック類の混入割合は、令和 3 年度以降減少傾向で推移している。

・ ゴム・皮革

ゴム・皮革の排出割合は、令和 3 年度以降増加傾向に推移している。

・ 剪定枝・その他

剪定枝・その他の排出割合は、令和 4 年度で大きく増加したが、本年度で減少した。

・ 食品廃棄物・廃油類

食品廃棄物・廃油類の排出割合は、令和 3 年度以降ほぼ横ばいに推移している。

令和 3 年度は資源として回収可能な廃油類の混入が認められた。

・ 陶磁器・石

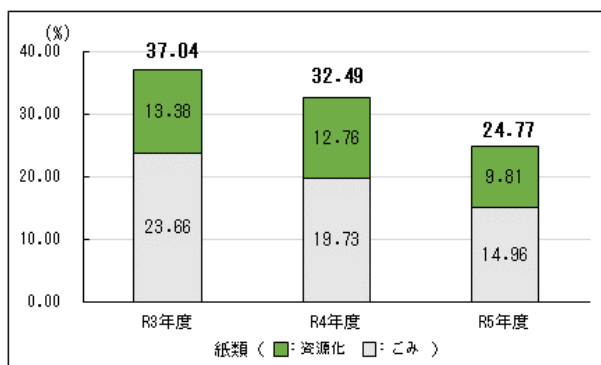
令和 4 年度に陶磁器・石の混入が認められた。

・ 鉄類

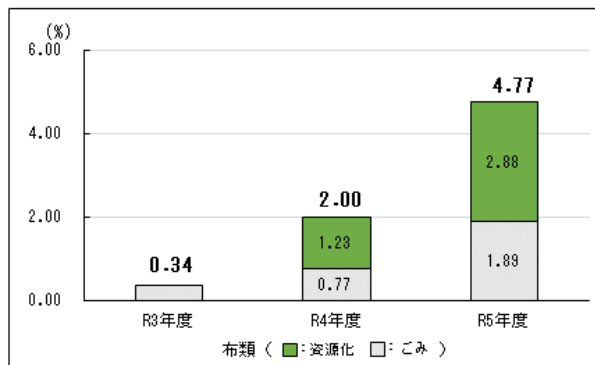
鉄類の排出割合は、令和 3 年度は排出が認められず、令和 4 年度以降増加傾向で推移している。

本年度は資源として回収可能な鉄類の混入割合が認められた。

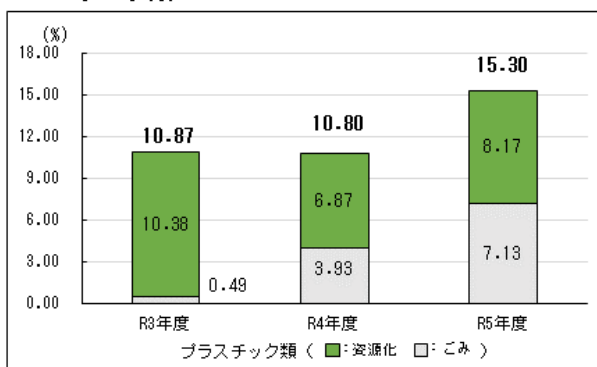
紙類



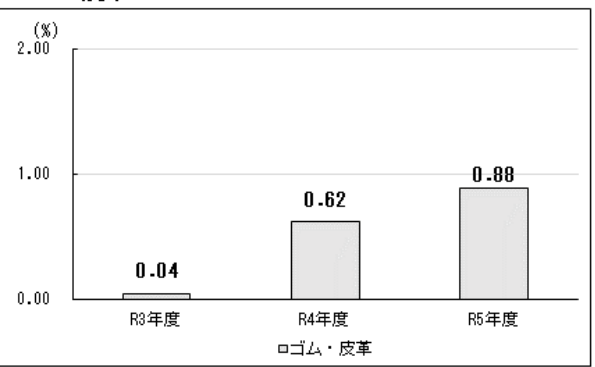
布類



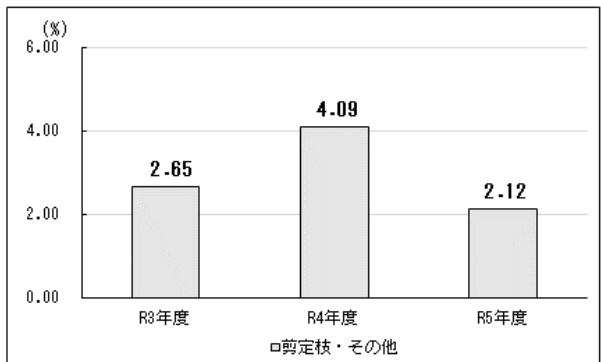
プラスチック類



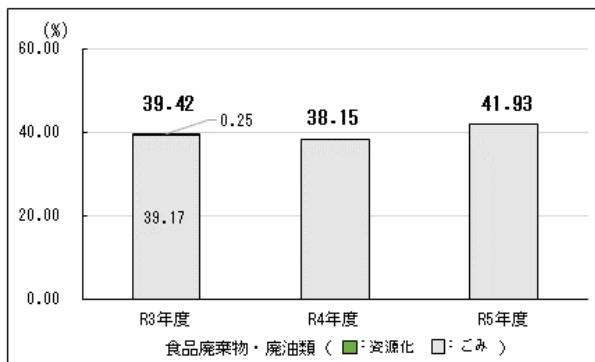
ゴム・皮革



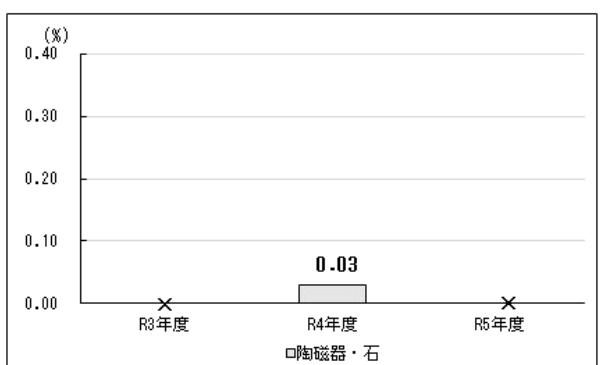
剪定枝・その他



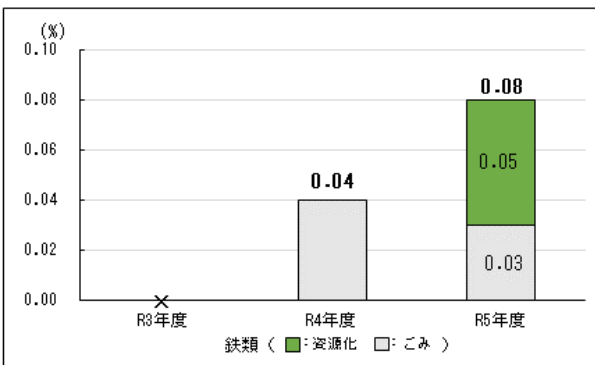
食品廃棄物・廃油類



陶磁器・石



鉄類



×：排出なし

図 4.1-1① 中分類別の経年変化(1)

- ・ **アルミ**

アルミの排出割合は、令和 4 年度に大きく増加したが、本年度で減少している。

- ・ **その他金属**

令和 3 年度以降、その他金属の混入は認められていない。

- ・ **小型家電**

本年度で小型家電の混入が認められた。

- ・ **ガラス類**

令和 3 年度本年度でガラス類の混入が認められなかったが、令和 4 年度以降増加傾向に推移している。

- ・ **有害ごみ**

令和 3 年度以降、有害ごみの混入は認められていない。

- ・ **その他不燃**

令和 4 年度以降、その他不燃の混入が認められた。

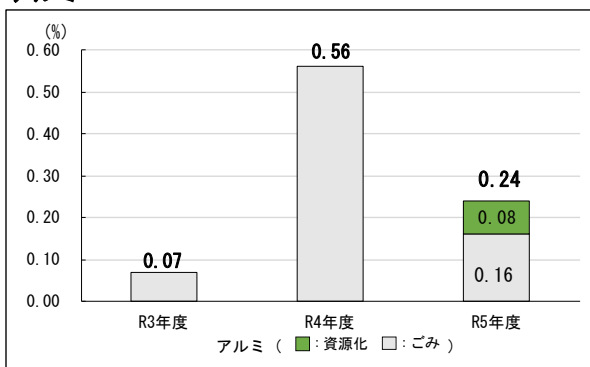
- ・ **医療ごみ**

令和 3 年度以降、医療ごみの混入は認められていない。

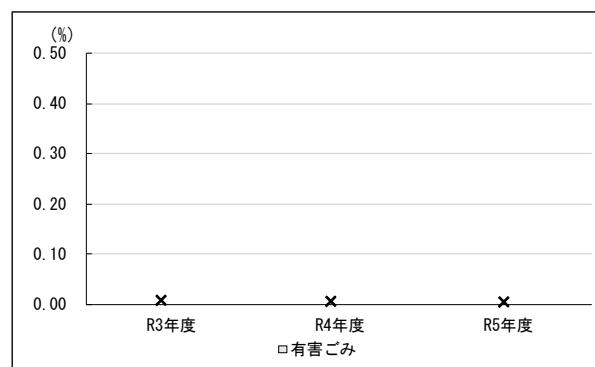
- ・ **その他可燃**

その他可燃の排出割合は、令和 4 年度まで増加傾向に推移していたが、本年度で減少した。

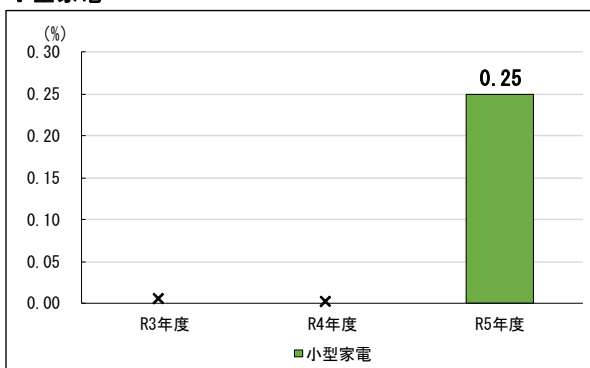
アルミ



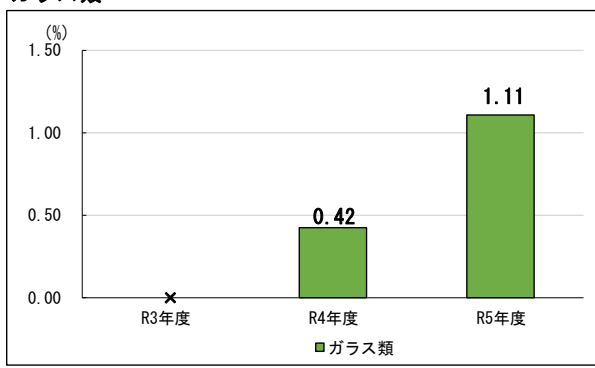
その他金属



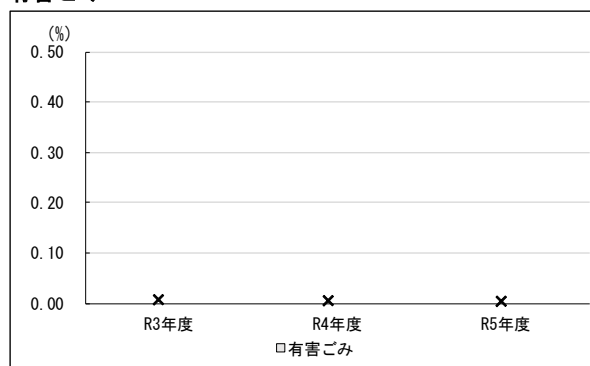
小型家電



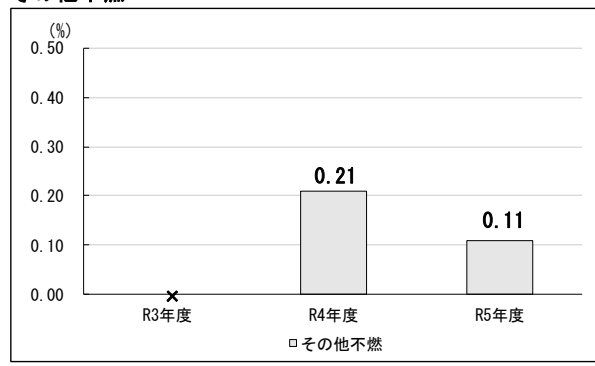
ガラス類



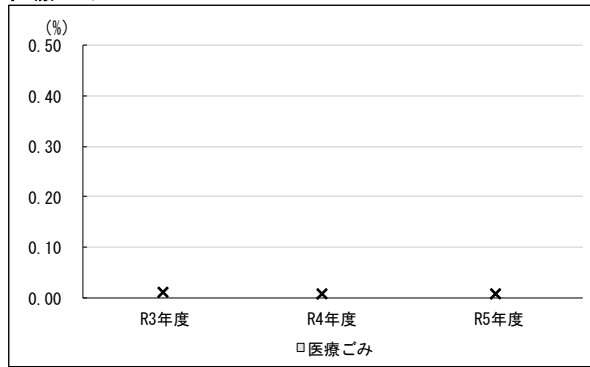
有害ごみ



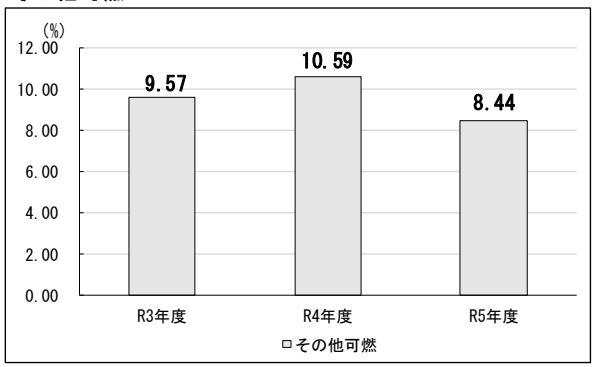
その他不燃



医療ごみ



その他可燃



× : 排出なし

図 4.1-1② 中分類別の経年変化(2)

食品廃棄物の内訳

食品廃棄物の内訳についての令和3年度、令和4年度及び本年度の調査の比較は図4.1-2に示すとおりである。

可食部分（直接廃棄、食べ残し、過剰除去）は令和3年度以降増加傾向に推移している。

本年度は過去3年間の内で食品廃棄物量の割合が最も高く、可食部分の割合は最も高かった。

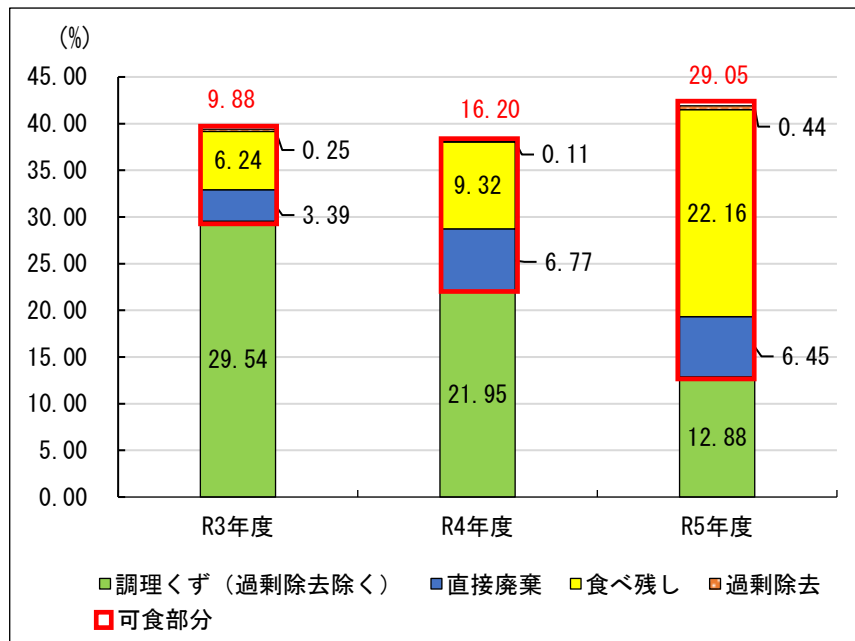


図 4.1-2 食品廃棄物（内訳）の経年変化

資料編

1. 寒川町のごみの出し方
2. 家庭系物理組成調査結果及び個別調査票（可燃ごみ）
3. 個別重量データ
4. 調査写真

1. 寒川町のごみの出し方

可燃ごみ

収集できるもの	注意すること
・生ごみ：調理くず、残飯など ・資源に出せない紙類：写真、感熱紙など ・CD・DVD・ビデオテープ（ケースも含む） ・資源に出せない衣類・布類： - 穴が空いているなど再利用できない衣類、台所用マットなど ・ビニール製品： - クリアファイル、レジャーシートなど ・ライター類（金属製ライターは除く） ・在宅医療用廃棄物で感染症の疑いがないもの	・生ごみは水分をよく切ってから出す ・ライター類は必ず使い切ってから出す ・プラスチック製容器包装で、汚れがひどい物は可燃ごみで出す ・在宅医療用廃棄物は、紙などに包んだ上、透明・半透明な袋に入れて出す

可燃粗大ごみ

収集できるもの	注意すること
・ホース ・枝木・幹（長さ 50cm 以下、直径 10cm 以下） ・クッション ・布団・じゅうたんなど	・<u>50 cm×50 cm×50 cm以下</u>、20kg までのものが集積所へ出せる →上記の大きさを超える場合は、大型ごみ・特別大型ごみ、もしくは直接搬入で出す ・剪定した枝木は、泥や土を落として、小さく束ねる ・袋を使用する場合は、透明・半透明の袋を使用する ・布団やじゅうたんは丸めず折りたたみ、十文字に縛って出す

不燃ごみ

収集できるもの	注意すること
・ 小型家電製品： 指定品目を除くドライヤー、電子レンジ、FAX、プリンターなど ・ 陶磁器：皿・茶碗など ・ ガラス製品： 鏡、破損した蛍光灯、電球（白熱・LED）、ガラス製品、板ガラスなど ・ 包丁などの刃物類 ・ 乾電池、ボタン電池（BR、CR のみ） ・ プラスチック製品： カミソリ、おもちゃ、バケツ、洗面器など	・ ガラス製品、包丁などの刃物類は、紙などに包み「危険」「注意」等の表示をして出す ・ 小型家電製品などに入っている電池は、取り出す ・ 乾電池、ボタン電池（BR、CR のみ）は、他の不燃ごみと別にして透明・半透明の袋に入れて出す ・ 充電式電池や、BR、CR を除くボタン電池は、回収協力店へ戻す ・ プラマークの表示があるものは、プラスチック製容器包装へ出す ・ <u>80 cm×50 cm×50 cm以下</u>、20kg までのものが集積所に出せる →上記の大きさを超える場合は、大型ごみ・特別大型ごみ、もしくは直接搬入で出す ・ 袋を使用する場合は、透明・半透明の袋を使用する

大型ごみ・特別大型ごみ

収集できるもの	注意すること
・ 大型ごみ： 廃棄自転車（令和4年4月1日より） 集積所に出せる基準を超えたもので2m未満のもの ・ 特別大型ごみ： 指定品目であって、一辺の長さが1mを超え、2m未満のもの ※指定品目 タンス、ベッド、ソファ、食器棚、机、サイドボード、書棚、テーブル、ドレッサー（鏡台）、チェスト	・ 幼児用自転車（ホイールが金属でないもの）は大きさが80 cm×50 cm×50 cm以下、20 kg以下までであれば不燃ごみとして出すことができる

プラスチック製容器包装

収集できるもの	注意すること
・ポリ袋、ラップ類、トレイ類、パック類、菓子などの個別包装類、ボトル類、チューブ類、発泡スチロール、緩衝材、ネット類、ペットボトル等のキャップ、ふた類	・容器包装類の中身は使い切り、洗うなど汚れを取り除く →汚れの落ちないものは可燃ごみで出す ・飛散を防ぐため、ひとつの袋になるべくつぶして詰め込む ・必ず町指定収集袋に入れて出す ・指定収集袋の中に口を縛った小袋をいれない（選別処理が困難となるため、二重袋にしない）
収集できないもの	
プラスチック製でプラマークの表示のないもの →可燃ごみで出す ・ビニールシート、ビデオテープ、カセットテープなど ・プラマークの表示はあるが汚れが落ちないもの、在宅医療用品（使用済点滴袋・チューブ、針が露出していない注射器） →不燃ごみで出す ・プラスチック製のおもちゃ、バケツ、洗面器、植木鉢、ハンガーなど、カミソリなど刃がついたもの →ペットボトルで出す ・ペットボトル	

古 紙

収集できるもの	注意すること
・新聞（折込チラシ含む） ・本・雑誌・雑紙（ポスター、ノート、封筒、ダイレクトメール、紙袋など） ・段ボール ・飲料用紙パック	・ひもで十字にしばって出す ・古紙を出す際は種類ごとに分けて出す 新聞： ・雨天時でも袋には入れないで、そのまま出す 本・雑誌・雑紙： ・雨天時でも袋には入れないで、そのまま出す ・シュレッダーで裁断した紙はできる限り空気を抜き、つぶして透明・半透明の袋に入れて出す ・細かなものは紙袋に入れて、飛散しないようテープなどで口を閉じて出す 段ボール： ・段ボールのほか、ボール紙、菓子箱、ラップの芯などの厚紙も一緒に出す 飲料紙パック： ・洗って切り開き、乾かしてから出す
収集できないもの	
→可燃ごみで出す ・紙コップ、写真、感熱紙、圧着はがき、写真付きはがき、ビニールコーティングされた紙、汚れた紙類、半紙、和紙、内側が茶色の紙パック、内側がアルミ箔の紙パックなど	

衣類布類

収集できるもの	注意すること
・不要になった衣類（くつ、バック、ベルト、ぬいぐるみなども含む）衣類（カーテン、毛布、タオルなど）	・汚れているものはきれいにして（洗濯して）から、透明・半透明な袋に入れて口を縛って出す
収集できないもの	
→可燃ごみで出す ・壊れたぬいぐるみやバックなど、そのままの状態では再利用できないもの ・金具のないもの、長ぐつ →可燃粗大ごみで出す ・布団、カーペット、じゅうたんなど →不燃ごみで出す ・金具のあるもの、スーツケース、キャリーバック、スキーぐつ、スケートぐつ	・なるべく天気の良い日に出す

び ん

収集できるもの	注意すること
・飲料・食料用のガラスびん、果実を漬ける広口びん、医薬品・化粧品用のびん	・すすいできれいにしてから出す →袋には入れずコンテナに直接ねかせて入れる ・ふたやつり手は取り除いて出す - リングは取り除ける場合取り除く →金属製のふた・つり手は不燃ごみへ出す →広口びんのつり手が取り除けない場合はびんごと不燃ごみへ出す →プラスチック製のふたはプラスチック製容器包装へ出す ・ラベルは簡単にはがせるものはがす ・コンテナの内側の線より上には入れない ・割れたびんも一緒に出す ・置場では静かに出す
収集できないもの → 不燃ごみ で出す ・鏡、コップ、農薬のびん、劇薬のびん、花びん、ガラス、耐熱ガラス、乳白色で中身のみえないびん、食器類、電球、灰皿、陶磁器など	

か ん

収集できるもの	注意すること
・飲料、酒類、菓子類、その他の食料用のかん、スプレーかん（ヘアスプレー、カセットボンベ、殺虫剤など）	・かんはすすいできれいにしてからつぶさずに出す →袋には入れずにネットへ直接入れる ・スプレーかんは中身を使い切り、穴を空けてから出す →かんと一緒に出す ・缶詰のふたは本体と一緒に「かん」に出す ・ラベルは簡単にはがせるものはがす ・置場では静かに出す
収集できないもの → 不燃ごみ で出す ・塗料用（ペンキ）かん、テニスボールのかんなど、飲料用ボトルのふた	

ペットボトル

収集できるもの	注意すること
・飲料、酒類、しょうゆ、みりんなどの飲食用のものに限る ・ペットマークの表示があるもの	・キャップとラベルを外し、すすいできれいにして、つぶしてネットに入れる →キャップとラベルはプラスチック製容器包装へ出す ・リングは取り除ける場合は取り除く ・置場では静かに出す
収集できないもの → 可燃ごみ で出す ・飲食用以外のもの、汚れが落ちないもの	

廃食用油

収集できるもの	注意すること
・食用油（サラダ油、オリーブオイル、菜種油などの植物油）	・揚げカス等は取り除き、冷ましてからペットボトルなどの透明・半透明のふたのできる容器に入れて、ふたをしてコンテナに入れる
収集できないもの	
→ 可燃ごみ で出す ・動物性油（ラードなど） ※自転車用エンジンオイル、工業用油などは販売店や専門業者に相談する	

金属類

収集できるもの	注意すること
・なべ、フライパン、細かな金属類 ※なべなどは取っ手が金属以外でも出せる	・80 cm×50 cm×50 cm以下までのものが集積所に出せる →これを超える場合は、大型ごみもしくは直接搬入で出す →例外として、金属製のトタンは180 cm×90 cm以下のものを出すことができる ・コンテナに入らないものは資源物置場に直接置く
収集できないもの	
→ 大型ごみ で出す ・自転車 → 不燃ごみ で出す ・ガラス製のなべぶた、幼児用自転車（ホイールで金属でないもの、80 cm×50 cm×50 cm以下、20 kgまで）	

蛍光灯・水銀式体温（血圧）計

収集できるもの	注意すること
・棒状蛍光灯、環状蛍光灯、電球蛍光灯、水銀式体温計、水銀式血圧計	・蛍光灯は割れないように購入時の箱や新聞紙に包む ・長さが140 cm以上の蛍光灯は大型ごみで出す ・直接搬入する場合は茅ヶ崎市環境事業センターへ持ち込む
収集できないもの	
→ 不燃ごみ へ出す ・割れてしまっている蛍光灯、水銀を使用していない電子式体温（血圧）計	

使用済み小型家電

収集できるもの	注意すること
回収ボックスの投入口（30 cm×15 cm）に入るもの 従来型携帯電話、PHS 端末、USB メモリ、メモリーカード、スマートフォン、ノートパソコン、タブレット型情報通信端末、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、HDD ドライブ、モデム、ルーター、チューナー、STB、携帯型デジタル音響機器、IC レコーダー、電子書籍端末（電子辞書含む）、デジタルゲーム機、ゲームソフト、電源テーブル、液晶モニタ（自動車用を含む）、デスクトップパソコン、レコーダー（DVD、HDD、BD）、プレイヤー（DVD、HDD、BD）、据置型デジタル音響機器、イヤホン、補聴器、電卓、電子血圧計、電子体温計、腕時計、カーステレオ、カーアンプ、VICS ユニット、ETC 車載ユニット、リモコン、AC アダプター、プラグ・ジャック、キーボード、マウス（コード有）、電動工具、計量用または測定用の電気機械器具、トースター、ホットプレート、アイロン、理容用機器類（コード付きに限る）、シェーバー（内歯/外歯を除く）、電動歯ブラシ（ブラシ部分を除く）、LED ランプ、電話機及び子機、ラジオ、アナログ音響器具、フィルムカメラ、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池の 55 品目	- 個人情報 は初期化するなど必ず消去しておく - は不燃ごみ - 電池は取り外す
収集できないもの	
→ 不燃ごみ へ出す - 乾電池（アルカリ、マンガンなどの一次電池）、ボタン電池（BR、CR）、アダプター、リモコンなど → 回収協力店 へ出す - ボタン電池（BR、CR 除く）、充電式電池	

（資料：寒川町ごみと資源物の正しい分け方・出し方（寒川ホームページ））

2. 家庭系及び事業系ごみ物理組成調査結果及び個別調査票

① 調査1回目（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

天候 前日: 晴れ 気温: 25.3℃
天候 当日: 晴れ
全体見附比重: 0.075kg/L 試料総重量: 41.313kg

収集地区： 幸川町			収集日： 6月21日						
大分類	中分類	小分類(形状別)	湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)		
紙・布類	①紙類	飲料用 紙パック	アルミ無し アルミ付き	0.450 0.085	1.09 0.21	20.0 3.0	0.023 0.028		
		ダンボール		0.430	1.04	10.0	0.043		
		包装紙		0.050	0.12	3.0	0.017		
		紙容器		1.050	2.54	30.0	0.035		
		その他		0.550	1.33	30.0	0.018		
		新聞・折込		0.300	0.73	12.0	0.025		
		雑誌・パンフレット		0.120	0.29	5.0	0.024		
		ざつ紙(再利用可能紙類)		1.705	4.13	25.0	0.068		
		その他(紙くず等)		5.070	12.27	65.0	0.078		
		小計		9.810	23.75	203.0	0.048		
	②布類	ウエス利用可能なもの		2.150	5.20	25.0	0.086		
その他			1.300	3.15	15.0	0.087	汚れている布、下着		
小計			3.450	8.35	40.0	0.086			
中計				13.260	32.10	243.0	0.055		
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスチック類	ペット ボトル	軟質						
			硬質	0.245	0.59	5.0	0.049		
		その他ボ トル	軟質	0.060	0.15	0.8	0.075		
			硬質						
		トレイ	発泡ス チロー ル	白色 褐色(有色)	0.015 0.008	0.04 0.02	0.4 0.3	0.038 0.027	
			その他	着色 無色	0.080 0.200	0.19 0.48	3.0 15.0	0.027 0.013	
				袋	レジ袋 その他	0.450 1.910	1.09 4.62	40.0 65.0	0.011 0.029
			バック類		その他	0.245 0.430	0.59 1.04	12.0 30.0	0.020 0.014
		軟質		硬質	0.795 0.110	1.92 0.27	40.0 1.0	0.020 0.110	
			容器包 装以外	その他(危険物、電池内蔵品、プラ スチックではないもの等)	0.122	0.30	0.5	0.244	玩具
		小計			4.670	11.30	213.0	0.022	
		④ゴム・皮革			0.012	0.03	0.5	0.024	ゴム手袋
		中計			4.682	11.33	213.5	0.022	
		木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉		1.150	2.78	25.0	0.046	
			⑥その他		0.120	0.29	2.0	0.060	割りばし、串
			中計		1.270	3.07	27.0	0.047	
	厨芥類	⑦廃油類							
		⑧食品廃棄 物	直接廃棄	3.505	8.48	15.0	0.234		
食べ残し			13.645	33.03	27.0	0.505			
調理くず等			0.825	2.00	4.0	0.206			
通算除去(上記内数)			0.150	0.36	0.5	0.300			
小計			17.975	43.51	46.0	0.391			
中計			17.975	43.51	46.0	0.391			
不燃物	⑨陶磁器・石								
	⑩鉄類	容器 包装	飲食料缶 栓・キャップ スプレー缶 その他	0.038	0.09	0.2	0.190		
			容器包装以外	0.020	0.05	0.1	0.200		
			小計	0.058	0.14	0.3	0.193		
		⑪アルミ	容器 包装	飲食料缶 栓・キャップ スプレー缶 その他					
	容器包装以外			0.070	0.17	0.3	0.233		
	小計			0.070	0.17	0.3	0.233		
	⑫その他金属								
	⑬小型家電								
	⑭ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等 リターナブルビン 容器包装以外						
			小計						
			⑮有害ごみ	黒光管 乾電池 水銀温度計 その他					
	小計								
	⑯その他不燃				0.038	0.09	0.1	0.380	乾燥剤
	中計			0.166	0.40	0.7	0.237		
	その他	⑰医療ごみ	特別管理一般廃棄物 その他						
			小計						
			⑱その他可 燃	紙おむつ その他	2.605 1.355	6.31 3.28	10.0 10.0	0.261 0.136	タバコの吸殻、ねこ砂
		小計		3.960	9.59	20.0	0.198		
中計				3.960	9.59	20.0	0.198		
合計			41.313	100.00	550.2	0.075			

天候 前日: 晴れ 気温: 25.8℃
 天候 当日: 晴れ
 全体見掛比重: 0.080kg/L 試料総重量: 39.016kg

収集地区: 赤川町 収集日: 6月21日

大分類	中分類	小分類(形状別)		湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)	
紙・布類	①紙類	容器 包装	飲料用 紙パック	アルミ無し アルミ付き					
			ダンボール						
			包装紙						
			紙容器		0.020	0.05	0.3	0.067	
		その他		0.027	0.07	5.0	0.005		
		容器 包装 以外	新聞・折込						
			雑誌・パンフレット						
			ざつ紙(再利用可能紙類)						
	小計	その他(紙くず等)		0.002	0.01	0.1	0.020		
	小計			0.049	0.13	5.4	0.009		
②布類	ウエス利用可能なもの								
	その他		0.952	2.44	12.0	0.079	布カ/バン、布ベルト、ひも		
	小計		0.952	2.44	12.0	0.079			
中計			1.001	2.57	17.4	0.058			
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスチ ック類	容器 包装	ペット ボトル	軟質 硬質 その他ボ トル					
			トレイ	硬質		0.860	2.20	25.0	0.034
				発泡ス チロー ル	白色 褐色(有色)				
				その他	着色 無色				
				袋	レジ袋 その他		0.200 0.010	0.51 0.03	30.0 3.0
			バック類		0.026	0.07	0.7	0.037	
			その他		0.750	1.92	5.0	0.150	
			軟質		0.249	0.64	50.0	0.005	
		容器 包装 以外	硬質		16.500	42.29	235.0	0.070	特定プラ(ハンガー17本)含む
			その他(危険物、電池内蔵品、プラ 軍刀ではないもの等)		0.120	0.31	2.0	0.060	使い捨て製靴
			小計		18.715	47.97	350.7	0.053	
		④ゴム・皮革		3.850	9.87	45.2	0.085	革製財布0.15kg、ゴム長靴等3.7kg	
		中計		22.565	57.84	395.9	0.057		
		木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉						
	⑥その他			0.950	2.43	8.0	0.119		
	中計			0.950	2.43	8.0	0.119		
	厨芥類	⑦廃油類							
		⑧食品廃棄 物	直接廃棄						
			食べ残し						
			調理くず等						
小計			過剰除去(上記内数)						
中計									
不燃物	⑨陶磁器・石		3.895	9.98	15.0	0.260			
	⑩鉄類	容器 包装	飲料料缶						
			栓・キャップ		0.075	0.19	1.5	0.050	
			スプレー缶						
		その他							
		容器包装以外		3.350	8.59	20.0	0.168		
	小計		3.425	8.78	21.5	0.159			
	⑪アルミ	容器 包装	飲料料缶						
			栓・キャップ		0.550	1.41	3.0	0.183	
			スプレー缶		0.800	2.05	3.0	0.267	
		その他		0.100	0.26	0.8	0.125		
		容器包装以外		0.200	0.51	2.0	0.100		
	小計		1.650	4.23	8.8	0.188			
	⑫その他金属								
	⑬小型家電		0.630	1.61	5.0	0.126	電気アイロン		
	⑭ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等 リターナブルビン		1.400	3.59	3.0	0.467	
		容器包装以外		2.100	5.38	10.0	0.210		
		小計		3.500	8.97	13.0	0.269		
	⑮有害ごみ	蛍光管							
		乾電池		1.400	3.59	1.5	0.933		
水銀温度計									
その他									
小計		1.400	3.59	1.5	0.933				
⑯その他不燃									
中計		14.500	37.16	64.8	0.224				
その他	⑰医療ごみ	特別管理一般廃棄物							
		その他							
	小計								
	⑱その他可 燃	紙おむつ							
		その他							
小計									
中計									
合計			39.016	100.00	486.1	0.080			

天候 前日: 晴れ 気温: 27.5℃
 天候 当日: 晴れ
 全体見掛比重: 0.046kg/L 試料総重量: 44559kg

収集地区: 栗川町 収集日: 6月28日

大分類	中分類	小分類(形状別)		湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)	
紙・布類	①紙類	容器 包装	飲料用	アルミ無し	0.200	0.45	10.0	0.020	
			紙パック	アルミ付き	0.120	0.27	5.0	0.024	
			ダンボール		2.100	4.71	45.0	0.047	
			包装紙		0.052	0.12	8.0	0.007	
			紙容器		4.600	10.32	130.0	0.035	
		容器 包装 以外	その他		0.050	0.11	5.0	0.010	
			新聞・折込		1.250	2.81	15.0	0.083	
			雑誌・パンフレット		0.245	0.55	10.0	0.025	
			ざつ紙(再利用可能紙類)		2.300	5.16	40.0	0.058	
			その他(紙くず等)		20.338	45.64	380.0	0.054	
			小計		31.255	70.14	648.0	0.048	
	②布類	ウエス利用可能なもの		0.150	0.34	5.0	0.030		
		その他		0.455	1.02	8.0	0.057	汚れた布、ボロ布	
		小計		0.605	1.36	13.0	0.047		
中計				31.860	71.50	661.0	0.048		
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスチ ック類	容器 包装	ペット ボトル	軟質					
				硬質	0.025	0.06	0.5	0.050	
			その他ペ トル	軟質					
				硬質	0.075	0.17	1.0	0.075	
			トレイ	発泡ス タロー ル	白色				
					褐色(有色)	0.005	0.01	0.5	0.010
				その他	着色				
					無色				
		袋	レジ袋	0.050	0.11	8.0	0.006		
			その他	1.350	3.03	45.0	0.030		
		容器 包装 以外	バック類	0.650	1.46	30.0	0.022		
			その他	0.628	1.41	40.0	0.016		
			軟質	6.652	14.93	175.0	0.038		
			硬質	0.045	0.10	0.2	0.225		
		その他(危険物、電池内蔵品、プラ スチックではないもの等)							
		小計		9.480	21.28	300.2	0.032		
	④ゴム・皮革		0.020	0.04	2.0	0.010	ゴム手袋		
	中計		9.500	21.32	302.2	0.031			
	木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉		0.400	0.90	3.0	0.133		
⑥その他		0.219	0.49	3.0	0.073	割りばし			
中計		0.619	1.39	6.0	0.103				
厨芥類	⑦廃油類								
	⑧食品廃棄 物	直接廃棄	0.210	0.47	1.0	0.210			
		食べ残し	0.400	0.90	2.0	0.200			
		調理くず等	0.035	0.08	0.3	0.117			
		過剰除去(上記内数)							
	小計		0.645	1.45	3.3	0.195			
中計		0.645	1.45	3.3	0.195				
不燃物	⑨陶磁器・石								
	⑩鉄類	容器 包装	飲食料缶						
			栓・キャップ						
			スプレー缶						
		その他							
		容器包装以外							
	⑪アルミ	容器 包装	飲食料缶						
			栓・キャップ						
			スプレー缶						
		その他							
		容器包装以外	0.012	0.03	0.1	0.120			
	小計		0.012	0.03	0.1	0.120			
	⑫その他金属								
	⑬小型家電								
	⑭ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等						
			リターナブルビン						
		容器包装以外	0.005	0.01	0.1	0.050	ガラス片		
		小計	0.005	0.01	0.1	0.050			
	⑮有害ごみ	蛍光管							
			乾電池						
水銀温度計									
その他									
小計									
⑯その他不燃		0.403	0.90	1.0	0.403	乾燥剤、土			
中計		0.420	0.94	1.2	0.350				
その他	⑰医療ごみ	特別管理一般廃棄物							
		その他	0.015	0.03	0.1	0.150	シリンジ(生理食塩水用・針なし)		
	⑱その他可 燃	紙おむつ	0.200	0.45	2.0	0.100			
		その他	1.300	2.92	2.0	0.650	人毛、タバコの吸殻、白い粉		
		小計	1.500	3.37	4.0	0.375			
		中計	1.515	3.40	4.1	0.370			
合計		44.559	100.00	977.8	0.046				

② 調査2回目（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

天候 前日： 晴れ 気温： 29.4℃
 天候 当日： 晴れ
 全体見掛比重： 0.061kg/L 試料総重量： 34.808kg

収集地区：寒川町				収集日：9月20日										
大分類	中分類	小分類(形状別)		湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)						
紙・布類	①紙類	容器 包装	飲料用	アルミ無し	0.340	0.98	15.0	0.023						
			紙パック	アルミ付き	0.268	0.77	9.0	0.030						
			ダンボール		0.300	0.86	8.0	0.038						
			包装紙		0.005	0.01	0.2	0.025						
			紙容器		1.400	4.02	35.0	0.040						
			その他		0.150	0.43	5.0	0.030						
		容器 包装 以外	新聞・折込		0.018	0.05	1.0	0.018						
			雑誌・パンフレット		0.250	0.72	5.0	0.050						
			ざつ紙(再利用可能紙類)		0.430	1.24	15.0	0.029						
			その他(紙くず等)		5.820	16.72	80.0	0.073						
	小計			8.981	25.80	173.2	0.052							
	②布類	ウエス利用可能なもの			0.190	0.55	3.0	0.063						
		その他			0.220	0.63	3.0	0.073	汚れている布					
		小計			0.410	1.18	6.0	0.068						
中計					9.391	26.98	179.2	0.052						
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスッ ク類	容器 包装	ペット ボトル	軟質										
				硬質	0.200	0.57	10.0	0.020						
			その他ボ トル	軟質		0.430	1.24	10.0	0.043					
				硬質										
			トレイ	発泡ス チロー ル	白色	0.120	0.34	8.0	0.015					
					褐色(有色)	0.260	0.75	15.0	0.017					
					着色	0.330	0.95	15.0	0.022					
				その他	無色	0.280	0.80	35.0	0.008					
			袋	レジ袋		1.030	2.96	80.0	0.013					
				その他		0.320	0.92	15.0	0.021					
		容器 包装 以外	その他		0.500	1.44	30.0	0.017						
			軟質		1.950	5.60	85.0	0.023						
			硬質		1.280	3.68	10.0	0.128						
			その他(危険物、電池内蔵品、プ ラ ス チ ク で は な い も の 等)											
	小計			6.700	19.25	313.0	0.021							
	④ゴム・皮革					0.600	1.72	3.0	0.200	ゴム・運動靴、輪ゴム				
	中計					7.300	20.97	316.0	0.023					
	木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉					0.060	0.17	1.0	0.060				
		⑥その他					0.340	0.98	5.0	0.068	割りばし、串			
中計					0.400	1.15	6.0	0.067						
厨芥類	⑦廃油類													
	⑧食品廃棄 物	直接廃棄				1.536	4.41	10.0	0.154					
						3.950	11.35	8.0	0.494					
						8.590	24.68	25.5	0.337					
			適割除去(上記内数)			0.180	0.52	2.0	0.090					
		小計				14.076	40.44	43.5	0.324					
中計					14.076	40.44	43.5	0.324						
不燃物	⑨陶磁器・石													
	⑩鉄類	容器 包装	飲食料缶											
			栓・キャップ											
			スプレー缶											
		その他												
		容器包装以外												
	小計													
	⑪アルミ	容器 包装	飲食料缶											
			栓・キャップ											
			スプレー缶											
		その他		0.059	0.17	2.0	0.030							
		容器包装以外		0.051	0.15	1.5	0.034							
	小計		0.110	0.32	3.5	0.031								
	⑫その他金属													
	⑬小型家電					0.174	0.50	0.5	0.348	スマートフォン				
	⑭ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等		0.770	2.21	2.0	0.385						
			リターナブルビン											
		容器包装以外												
		小計			0.770	2.21	2.0	0.385						
⑮有害ごみ		蛍光管												
		乾電池												
		水銀温度計												
		その他												
	小計													
⑯その他不燃					0.043	0.12	0.2	0.215	乾燥剤					
中計					1.097	3.15	6.2	0.177						
その他	⑰医療ごみ	特別管理一般廃棄物												
		その他												
	小計													
	⑱その他可 燃	紙おむつ			1.301	3.74	10.0	0.130						
		その他			1.243	3.57	10.0	0.124	タバコの吸殻、人毛、動物の糞、錠剤245g					
小計			2.544	7.31	20.0	0.127								
中計					2.544	7.31	20.0	0.127						
合計					34.808	100.00	570.9	0.061						

天候 前日: 晴れ 気温: 31.5℃
 天候 当日: 晴れ
 全体見掛比重: 0.053kg/L 試料総重量: 28.910kg

収集地区: 寒川町 収集日: 9月20日

大分類	中分類	小分類(形状別)		湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)	
紙・布類	①紙類	容器 包装	飲料用 紙パック	アルミ無し アルミ付き					
			ダンボール						
			包装紙						
			紙容器						
			その他						
		容器 包装 以外	新聞・折込		0.020	0.07	1.0	0.020	
	②布類	雑誌・パンフレット							
		ざつ紙(再利用可能紙類)							
		その他(紙くず等)		0.390	1.35	8.0	0.049		
		小計		0.410	1.42	9.0	0.046		
ウエス利用可能なもの									
その他									
小計									
中計				0.410	1.42	9.0	0.046		
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスチ ック類	容器 包装	ベット	軟質					
			ボトル	硬質					
			その他ボ トル	軟質					
			硬質	1.000	3.46	25.0	0.040		
			トレイ	発泡スチ ロール	白色				
				褐色(有色)					
				その他	着色				
				無色					
			袋	レジ袋	0.150	0.52	30.0	0.005	
			その他						
		バック類	0.400	1.38	2.0	0.200			
		その他							
		容器 包装 以外	軟質	0.370	1.28	37.0	0.010		
			硬質	15.629	54.06	360.0	0.043		
	その他(危険物、電池内蔵品、プラスチックではないもの等)								
小計	17.549		60.70	454.0	0.039				
④ゴム・皮革				3.281	11.35	40.0	0.082	運動靴2.64kg、革製かばん0.64kg	
中計				20.830	72.05	494.0	0.042		
木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉								
	⑥その他				0.650	2.25	15.0	0.043	
	中計				0.650	2.25	15.0	0.043	
厨芥類	⑦廃油類								
	⑧食品廃棄 物	直接廃棄							
		食べ残し							
		調理くず等							
		小計	過剰除去(上記内数)						
中計									
不燃物	⑨陶磁器・石				2.170	7.51	8.1	0.268	
	⑩鉄類	容器 包装	飲食料缶						
			栓・キャップ						
			スプレー缶						
			その他						
		容器包装以外	0.381	1.32	1.0	0.381			
	小計	0.381	1.32	1.0	0.381				
	⑪アルミ	容器 包装	飲食料缶						
			栓・キャップ	0.030	0.10	0.3	0.100		
			スプレー缶						
			その他						
		容器包装以外	0.910	3.15	10.0	0.091			
	小計	0.940	3.25	10.3	0.091				
	⑫その他金属								
	⑬小型家電				0.569	1.97	0.7	0.813	電気脱毛器
	⑭ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等	0.050	0.17	0.1	0.500		
			リターナブルビン						
			容器包装以外	2.420	8.37	8.0	0.303		
		小計	2.470	8.54	8.1	0.305			
	⑮有害ごみ	蛍光管							
			乾電池	0.490	1.69	0.7	0.700		
水銀温度計									
その他									
小計	0.490	1.69	0.7	0.700					
⑯その他不燃									
中計				7.020	24.28	28.9	0.243		
その他	⑰医療ごみ	特別管理一般廃棄物							
		その他							
	⑱その他可燃	紙おむつ							
		その他							
	小計								
中計									
合計				28.91	100.00	546.9	0.053		

天候 前日: 晴れ 気温: 27.5℃
 天候 当日: 晴れ
 全体見掛比重: 0.072kg/L 試料総重量: 70517kg

収集地区: 赤川町 収集日: 9月27日

大分類	中分類	小分類(形状別)		湿ベース 重量(kg)	湿ベース 百分率(%)	見掛け 容量(L)	見掛け 比重(kg/L)	備考 (主な排出物)		
紙・布類	①紙類	容器 包装	飲料用 紙パック	アルミ無し アルミ付き	0.662	0.94	25.0	0.026		
			ダンボール		0.418	0.59	20.0	0.021		
			包装紙		0.019	0.03	2.0	0.010		
			紙容器		4.625	6.56	120.0	0.039		
			その他							
		容器 包装 以外	新聞・折込		0.130	0.18	3.0	0.043		
			雑誌・パンフレット		0.740	1.05	10.0	0.074		
			ざつ紙(再利用可能紙類)		0.670	0.95	20.0	0.034		
			その他(紙くず等)		22.570	32.01	280.0	0.081		
			小計		29.834	42.31	480.0	0.062		
	②布類	ウエス利用可能なもの								
		その他			0.105	0.15	2.0	0.053	汚れた布	
小計			0.105	0.15	2.0	0.053				
中計				29.939	42.46	482.0	0.062			
ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革	③プラスチ ック類	容器 包装	ベッ ト ボ トル	軟質						
				硬質	0.100	0.14	5.0	0.020		
			その他 ボ トル	軟質						
				硬質	0.100	0.14	5.0	0.020		
			トレイ	発泡ス チロー ル	白色					
					褐色(有色)					
				その他	着色	0.030	0.04	5.0	0.006	
					無色	0.270	0.38	15.0	0.018	
			袋	レジ袋	1.780	2.52	85.0	0.021		
				その他	2.750	3.90	110.0	0.025		
		容器 包装 以外	バック類	0.400	0.57	25.0	0.016			
			その他	0.160	0.23	25.0	0.006			
			軟質	2.080	2.95	70.0	0.030			
			硬質	0.230	0.33	5.0	0.046			
			その他(危険物、電池内蔵品、プラ スチックではないもの等)							
			小計	7.900	11.20	350.0	0.023			
	④ゴム・皮革		1.030	1.46	25.0	0.041	ゴム手袋、運動靴、			
	中計				8.930	12.66	375.0	0.024		
木、竹、わら 類	⑤剪定枝葉		0.402	0.57	10.0	0.040				
	⑥その他		0.278	0.39	5.0	0.056	割りばし、橋杭			
	中計				0.680	0.96	15.0	0.045		
厨芥類	⑦廃油類									
	⑧食品廃棄 物	直接廃棄		0.020	0.03	0.1	0.200			
		食べ残し		29.970	42.50	82.0	0.365			
		調理くず等		0.650	0.92	3.0	0.217			
		小計		30.640	43.45	85.1	0.360			
	中計				30.640	43.45	85.1	0.360		
不燃物	⑨陶磁器・石									
		容器 包装	飲食料缶							
			缶・キャップ							
			スプレー缶							
			その他							
		容器包装以外	0.050	0.07	5.0	0.010				
	小計				0.050	0.07	5.0	0.010		
	⑩アルミ	容器 包装	飲食料缶		0.011	0.02	0.2	0.055		
			缶・キャップ							
			スプレー缶							
			その他							
	容器包装以外	0.015	0.02	2.0	0.008					
	小計				0.026	0.04	2.2	0.012		
	⑪その他金属									
	⑫小型家電									
	⑬ガラス類	容器 包装	ワンウェイビン等							
			リターナブルビン							
			容器包装以外							
小計										
⑭有害ごみ		容器 包装	蛍光管							
			乾電池							
	水銀温度計									
	その他									
小計										
⑮その他不燃										
中計				0.076	0.11	7.2	0.011			
その他	⑯医療ごみ	特別管理一般廃棄物								
		その他		0.054	0.08	0.5	0.108	シリンジ(針なし)		
		小計				0.054	0.08	0.5	0.108	
	⑰その他可 燃	紙おむつ		0.198	0.28	5.0	0.040			
		その他				5.0	0.000			
		小計				0.198	0.28	10.0	0.020	
中計				0.252	0.36	10.5	0.024			
合計				70.517	100.00	974.8	0.072			

3. 個別重量データ

① 調査 1 回目（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

試料排出状況調査 家庭系可燃ごみ

調査地区： 寒川町

調査期日： 6月21日

天候前日： 晴れ

当日： 晴れ

気温： 25.3℃

N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	4.2		31	1.4	
2	1.5		32	2.8	
3	4		33	3.5	
4	2.2		34	2.2	
5	2.3		35	2.9	
6	0.6		36	1	
7	2.8		37	1.8	
8	1.5		38	2.4	
9	4.5		39	3.6	
10	7.1		40	0.6	
11	1.9		41	2.6	
12	2.3		42	4.7	
13	2.6		43	4.5	
14	3.8		44	1	
15	2.3		45	4.1	
16	2.8		46	1.6	
17	2.9		47	1.9	
18	2.3		48	1.4	
19	3.9		49	2.3	
20	0.7		50	4	
21	4.1		51	2.9	
22	5.8		52	2	
23	2		53	3.8	
24	4.4		54	1.9	
25	2.8		55	1.8	
26	5.5		56	2.1	
27	1.7		57	1.2	
28	2.8		58	0.9	
29	2.1		59	3.1	
30	1.3		60	3.2	

合計	161.90
平均	2.70

試料排出状況調査 家庭系不燃ごみ

調査地区： 寒川町

調査期日： 6月21日

天候前日： 晴れ

当日： 晴れ

気温： 25.8℃

N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	2.6		31	4.3	
2	0.7		32	2.1	
3	2.1		33	0.8	
4	0.9		34	1.7	
5	2.0		35	1.1	
6	0.6		36	0.5	
7	2.0		37	0.7	
8	1.8		38	1.5	
9	3.0		39	0.9	
10	2.0		40	3.4	
11	1.8		41	1.5	
12	2.6		42	1.7	
13	2.3		43	0.9	
14	1.7		44	1.0	
15	4.1		45	1.4	
16	0.5		46	3.1	
17	1.7		47	2.8	
18	2.1		48	2.7	
19	1.0		49	0.7	
20	1.9		50	0.6	
21	1.2		51	0.4	
22	0.8		52	1.7	
23	3.6		53	1.8	
24	7.6		54	0.9	
25	6.1		55	1.7	
26	0.5		56	1.1	
27	4.3		57	2.4	
28	2.6		58	1.6	
29	3.1		59	1.4	
30	2.9		60	0.9	

合計	117.40
平均	1.96

試料排出状況調査 事業系可燃ごみ

調査地区：寒川町

調査期日：6月28日

天候前日： 晴れ

当日： 晴れ

気温： 27.5℃

N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	1.0		31	0.5	
2	1.2		32	0.5	
3	0.4		33	2.4	
4	2.6		34	4.9	
5	1.5		35	2.1	
6	1.4		36	2.6	
7	3.5		37	3.9	
8	5.1		38	2.2	
9	6.0		39	4.1	
10	2.0		40	3.5	
11	1.9		41	5.9	
12	2.5		42	1.2	
13	1.8		43	2.0	
14	2.4		44	3.8	
15	2.4		45	2.1	
16	0.5		46	8.1	
17	2.5		47	0.5	
18	3.0		48	1.4	
19	5.0		49	3.6	
20	3.4		50	5.5	
21	3.0		51	4.8	
22	6.2		52	3.2	
23	2.4		53	3.3	
24	2.8		54	7.0	
25	3.0		55	1.4	
26	3.2		56	1.9	
27	2.4		57	7.0	
28	4.4		58	2.2	
29	2.0		59		
30	1.7		60		

合計
平均

172.80
2.98

② 調査２回目（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

試料排出状況調査 家庭系可燃ごみ

調査地区： 寒川町

天候前日： 晴れ

調査期日： 9月20日

当日： 晴れ

気温： 29.4℃

N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	1.72		31	0.85	
2	1.80		32	3.70	
3	0.88		33	2.32	
4	0.98		34	3.79	
5	1.00		35	3.90	
6	2.50		36	4.56	
7	3.52		37	2.28	
8	1.98		38	2.14	
9	1.33		39	1.60	
10	1.90		40	1.15	
11	5.71		41	0.65	
12	1.40		42	6.28	
13	1.21		43	1.70	
14	1.90		44	2.72	
15	3.03		45	1.20	
16	4.05		46	2.04	
17	3.81		47	4.00	
18	2.61		48	2.00	
19	2.80		49	1.71	
20	1.64		50	1.01	
21	1.03		51	3.01	
22	1.13		52	1.63	
23	1.54		53	2.89	
24	2.99		54	1.42	
25	2.16		55	1.86	
26	1.70		56	3.39	
27	0.37		57	0.78	
28	2.70		58	1.62	
29	4.76		59	1.51	
30	2.30		60	1.43	

合計	135.59
平均	2.26

試料排出状況調査 家庭系不燃ごみ

調査地区： 寒川町

調査期日： 9月20日

天候前日： 晴れ

当日： 晴れ

気温： 31.5℃

N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	1.03		31	1.47	
2	3.62		32	2.35	
3	1.85		33	3.45	
4	2.33		34	1.27	
5	1.62		35	3.88	
6	1.20		36	1.10	
7	4.85		37	2.16	
8	1.15		38	0.72	
9	0.36		39	1.51	
10	4.68		40	1.45	
11	1.35		41	4.10	
12	2.28		42	2.22	
13	3.06		43	3.50	
14	1.50		44	0.85	
15	0.64		45	1.66	
16	0.39		46	2.25	
17	1.64		47	2.10	
18	0.38		48	0.50	
19	1.29		49	2.35	
20	1.50		50	4.35	
21	0.76		51	2.05	
22	2.40		52	1.36	
23	0.73		53	1.66	
24	3.70		54	3.19	
25	1.07		55	1.25	
26	2.26		56	0.35	
27	0.48		57	0.85	
28	0.87		58	0.35	
29	1.21		59	3.25	
30	1.56		60	2.80	

合計	112.11
平均	1.87

試料排出状況調査 事業系可燃ごみ

調査地区：寒川町

調査期日：9月27日

天候前日： 晴れ

当日： 晴れ

気温： 27.5℃

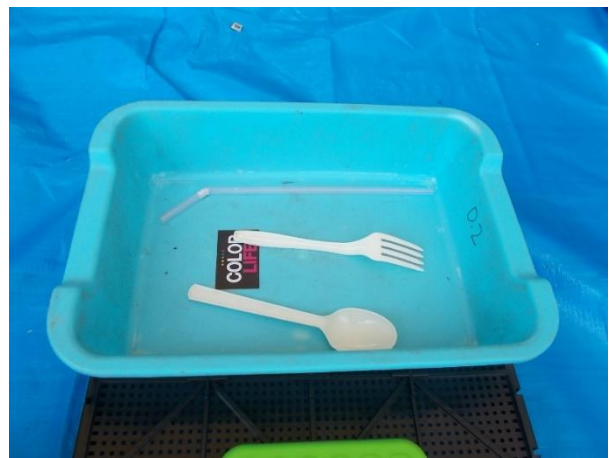
N o	重量 (kg)	備考	N o	重量 (kg)	備考
1	1.62		31	9.10	
2	8.71		32	22.04	
3	3.05		33		
4	5.12		34		
5	3.91		35		
6	5.76		36		
7	6.43		37		
8	2.35		38		
9	1.60		39		
10	6.20		40		
11	8.25		41		
12	1.10		42		
13	6.98		43		
14	2.85		44		
15	11.25		45		
16	1.60		46		
17	0.60		47		
18	9.02		48		
19	1.20		49		
20	16.80		50		
21	3.04		51		
22	0.72		52		
23	0.51		53		
24	0.63		54		
25	1.70		55		
26	3.60		56		
27	3.97		57		
28	0.29		58		
29	5.78		59		
30	1.02		60		

合計	156.80
平均	4.90

注) 32 袋しか集まらなかったため、32 袋から 16 袋を抽出。

4. 調査写真

①（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

月 日	令和5年6月21日	家庭系可燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		
計量状況		特定プラスチック使用製品

月 日	令和5年6月21日	家庭系可燃ごみ
		
直接廃棄		食べ残し、調理くず等

月 日	令和5年6月21日	家庭系不燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		
計量状況		特定プラスチック使用製品

月 日	令和5年6月28日	事業系可燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		
計量状況		特定プラスチック使用製品

サンプリング対象外の状況

調査1回目（事業系可燃ごみ）

偏りがあると思われる袋をサンプリング対象外とした。

No	写真	重量	内容物
1		15.7kg	厨芥類
2		8.2kg	厨芥類

※水分が多く出ていたため対象外とした。

② 調査2回目（家庭系可燃ごみ、家庭系不燃ごみ、事業系可燃ごみ）

月 日	令和5年9月20日	家庭系可燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		
計量状況		特定プラスチック使用製品

月 日	令和5年9月20日	家庭系可燃ごみ
		
直接廃棄		食べ残し、調理くず等

月 日	令和5年9月20日	家庭系不燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		なし
計量状況		特定プラスチック使用製品

月 日	令和5年9月27日	事業系可燃ごみ
		
収集状況		分析試料（簡易縮分後）
		
分類状況①		分類状況②
		
計量状況		特定プラスチック使用製品